

うし くび いし ざか かま あと ぐん
牛頸石坂窯跡群 3

— D・F地点 —

大野城市文化財調査報告書 第210集



2023

大野城市



1



2



3



4



1. 円形硯（D 5 号窯跡）
2. 中空硯（F 1 号窯跡）
3. 圈足円面硯（D 5 号窯跡）
4. ヘラ書き須恵器（F 1 号窯跡）

序

福岡県大野城市は福岡平野南部に位置し、市域は中央がくびれ、南北に細長いひょうたん形をしています。その市名は日本最古の朝鮮式山城「大野城跡」に由来し、東部に大野城跡、中央に水城跡、南部に牛頸須恵器窯跡とそれぞれ国指定史跡を配し、それらを中心に数多くの文化財が残る歴史豊かな街です。

石坂窯跡群は市域南部、牛頸山麓の丘陵上に位置しています。石坂窯跡群を含む牛頸地区では、これまでにたくさんの須恵器窯跡が発掘調査され、一部はその重要性から平成21年2月に「牛頸須恵器窯跡」として国の史跡に指定されました。

今回報告する石坂窯跡群D地点・F地点では、奈良時代を中心とした窯跡が確認されています。なかでも、D地点では多数の硯を生産したことが明らかとなりました。また、D・F地点では大型の食器を生産しており、硯とともに大宰府との関係を考える上で非常に重要な資料といえます。

遺跡は土地に刻まれた歴史であり、我々にたくさんのことを教えてくれます。心のふるさと館では、こうした遺跡を記録し、報告書というかたちで広く一般に公開するとともに、後世へと伝えていけるよう努めています。本書が文化財の理解と認識を深める一助となるとともに、学術研究や教育の面で広く活用していただけたら幸いです。

最後になりましたが、事業関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

令和5年3月31日

大野城心のふるさと館
館長 赤司 善彦

例 言

1. 本書は、大野城市教育委員会が発掘調査を実施した大野城市大字牛頸所在の「石坂窯跡群D地点・F地点」の報告書である。
2. 発掘調査は、各事業者の委託を受け、大野城市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、徳本洋一が担当した。
4. 遺構写真は、調査担当者が撮影した。
5. 遺物実測・拓本・製図、遺構図の製図は(株)島田組に委託した。
6. 遺物写真は、牛嶋茂（写測エンジニアリング(株)）が撮影した。
7. 遺構実測図は、調査担当者が作成した。
8. 遺構実測図中の方位は、磁北を示す。
9. 遺物観察表は、(株)島田組が作成した。
10. 本書に掲載した遺跡分布図のうち第1図は、国土地理院発行の1/25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を一部改変して使用した。第2図は、大野城市が発行した『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』を一部改変（原図は国土地理院発行の1/50,000地形図『福岡南部』『太宰府』）して使用した。
11. 本書に掲載した資料は、すべて大野城市が管理・保管している。
12. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省技術会議事務局監修を使用している。
13. 本書の文章のうち遺物文章は、柳本照男・深町祥子（(株)島田組）が執筆し、澤田康夫が点検・加筆・修正した。V章4は山元瞭平が、他は上田龍児が執筆した。
14. 編集は上田・澤田監修のもと柳本・深町がおこなった。
15. 本書のタイトルは、過去に「牛頸石坂窯跡－C地点－」、「牛頸石坂窯跡－E地点－」の2冊の報告書が刊行されていることから、巻次を「3」とし、遺跡の正式名称を採用し、「牛頸石坂窯跡群3－D・F地点－」とする。
16. 報告書作成に関しては以下の方々から、ご教示を得た。（五十音順・敬省略）
牛嶋茂・酒井芳司・松川博一

本文目次

I. はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査体制	3
II. 位置と環境	
1. 地理的環境	5
2. 歴史的環境	5
III. 石坂窯跡D地点	
1. 調査の概要	11
2. 0-A号窯跡	11
3. 0-B号窯跡	13
4. 1号窯跡	16
5. 2号窯跡	19
6. 3号窯跡	19
7. 4号窯跡	24
8. 5号窯跡	24
9. 5号窯跡周辺土坑 (P 1・P 2)	38
IV. 石坂窯跡F地点	
1. 調査の概要	43
2. 1号窯跡	44
3. 2号窯跡	53
4. 3号窯跡	54
5. 4号窯跡	58
V. 総括	
1. 各窯跡の年代	61
2. 中・大型供膳具の検討	61
3. 稜椀とへら書き須恵器	64
4. 陶硯の位置付け	67

挿 図 目 次

第1図	石坂窯跡群周辺の遺跡分布図 (1/25,000).....	2
第2図	遺跡分布図 (1/62,500).....	7・8
第3図	D地点窯跡位置略図	11
第4図	0-A号窯跡実測図 (1/60)	11
第5図	0-A号窯跡表土層出土遺物実測図 (1/3・1/6)	12
第6図	0-A号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3).....	13
第7図	0-B号窯跡実測図 (1/60)	14
第8図	0-B号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3).....	14
第9図	0-A・B号窯跡灰原出土遺物実測図 (1/3).....	15
第10図	1号窯跡実測図 (1/60).....	16
第11図	1号窯跡表土層出土遺物実測図① (1/3)	17
第12図	1号窯跡表土層出土遺物実測図② (1/3)	18
第13図	1号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3)	18
第14図	2号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3)	19
第15図	3号窯跡表土層出土遺物実測図 (1/3)	20
第16図	3号窯跡灰原上層出土遺物実測図① (1/3)	21
第17図	3号窯跡灰原上層出土遺物実測図② (1/3)	22
第18図	3号窯跡灰原上層出土遺物実測図③ (1/3)	23
第19図	5号窯跡実測図 (1/60).....	25
第20図	5号窯跡表土層出土遺物実測図 (1/3)	26
第21図	5号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図① (1/3)	27
第22図	5号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図② (1/3)	28
第23図	5号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図③ (1/3)	29
第24図	5号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図④ (1/3)	30
第25図	5号窯跡灰原出土遺物実測図① (1/3)	31
第26図	5号窯跡灰原出土遺物実測図② (1/3)	33
第27図	5号窯跡灰原出土遺物実測図③ (1/3)	35
第28図	5号窯跡灰原出土遺物実測図④ (1/3)	36
第29図	5号窯跡灰原出土遺物実測図⑤ (1/3)	37
第30図	5号窯跡灰原出土遺物実測図⑥ (1/3)	38

第 31 図	5 号窯跡周辺地形測量図、P 1・P 2 配置図 (1/100)	39
第 32 図	5 号窯跡 P 1 出土遺物実測図① (1/3)	41
第 33 図	5 号窯跡 P 1 出土遺物実測図② (1/3)	42
第 34 図	5 号窯跡 P 2 出土遺物実測図 (1/3)	42
第 35 図	F 地点遺構配置図 (1/100)	43
第 36 図	1 号窯跡表土層出土遺物実測図 (1/3)	45
第 37 図	1 号窯跡遺構検出時出土遺物実測図 (1/3)	46
第 38 図	1 号窯跡埋土出土遺物実測図 (1/3)	47
第 39 図	1 号窯跡灰原出土遺物実測図① (1/3)	49
第 40 図	1 号窯跡灰原出土遺物実測図② (1/3)	51
第 41 図	1 号窯跡灰原下層出土遺物実測図① (1/3)	52
第 42 図	1 号窯跡灰原下層出土遺物実測図② (1/3)	53
第 43 図	3 号窯跡実測図 (1/60)	54
第 44 図	3 号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図① (1/3)	55
第 45 図	3 号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図② (1/3)	57
第 46 図	3 号窯跡灰原出土遺物実測図 (1/3)	58
第 47 図	4 号窯跡実測図 (1/60)	59
第 48 図	4 号窯跡遺構検出時出土遺物実測図 (1/3)	59
第 49 図	4 号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3)	60
第 50 図	7～8 世紀の中・大型供膳具 (牛頸窯跡群周辺) (1/10)	63
第 51 図	牛頸窯跡群周辺の稜椀・ヘラ書き須恵器「五」 (1/6)	66
第 52 図	大宰府出土円形硯の諸例 (1/6)	68
第 53 図	筑前国出土把手付中空円面硯の諸例 (1/6)	69

表 目 次

表 1	筑前国出土把手付中空円面硯	69
表 2	石坂窯跡 D 地点出土遺物観察表	71
表 3	石坂窯跡 F 地点出土遺物観察表	80

図 版 目 次

- 図版 1 (1) D地点 0 号窯跡～4 号窯跡全景（北東から）
(2) D地点 0- A号窯跡・ 0- B号跡窯全景（南から）
(3) D地点 0- A号窯跡全景（南から）
- 図版 2 (1) D地点 0- A号窯跡左側壁（北西から）
(2) D地点 0- B号窯跡全景（南から）
(3) D地点 0- B号窯跡右側壁（南東から）
- 図版 3 (1) D地点 0- B号窯跡左側壁（南西から）
(2) D地点 0- A号窯跡・ 0- B号窯跡検出状況（北から）
(3) D地点 0- A号窯跡・ 0- B号窯跡検出状況
- 図版 4 (1) D地点 1 号窯跡全景（北から）
(2) D地点 1 号窯跡天井部遺存状況（北から）
(3) D地点 1 号窯跡煙道部（北から）
- 図版 5 (1) D地点 1 号窯跡煙道部（北西から）
(2) D地点 1 号窯跡煙道部（東から）
(3) D地点 1 号窯跡焼成部遺物出土状況（北から）
- 図版 6 (1) D地点 1 号窯跡焼成部床面断ち割り（北から）
(2) D地点 1 号窯跡焼成部床面断ち割り（北東から）
(3) D地点 1 号窯跡左壁断ち割り（北から）
- 図版 7 (1) D地点 2 号窯跡検出状況（東から）
(2) D地点 3 号窯跡検出状況（東から）
(3) D地点 4 号窯跡検出状況（東から）
- 図版 8 (1) D地点 5 号窯跡全景（北東から）
(2) D地点 5 号窯跡焼成部遺物出土状況（北東から）
(3) D地点 5 号窯跡焚口部付近遺物出土状況（北東から）
- 図版 9 (1) D地点 5 号窯跡煙道部（西から）
(2) D地点 5 号窯跡左側壁断ち割り状況（北から）
(3) D地点 5 号窯跡右側壁断ち割り状況（北東から）

- 図版 10 (1) D地点5号窯跡灰原土層(東から)
(2) D地点5号窯跡P1(北東から)
(3) D地点5号窯跡P2全景(北東から)
- 図版 11 (1) D地点5号窯跡P2遺物出土状況(北東から)
(2) D地点5号窯跡検出状況(北東から)
(3) D地点5号窯跡作業風景(北東から)
- 図版 12 (1) F地点全景(北東から)
(2) F地点全景(東から)
- 図版 13 (1) F地点全景(東から)
(2) F地点全景(上空から:右が北)
- 図版 14 (1) F地点1号窯跡検出状況(東から)
(2) F地点1号窯跡検出状況(西から)
(3) F地点2号窯跡検出状況(北から)
- 図版 15 (1) F地点3号窯跡全景(東から)
(2) F地点3号窯跡床面(東から)
(3) F地点3号窯跡窯体内土層(東から)
- 図版 16 (1) F地点3号窯跡焚口側遺物出土状況(南東から)
(2) F地点3号窯跡遺物出土状況(北東から)
(3) F地点3号窯跡窯体断ち割り(南東から)
- 図版 17 (1) F地点3号窯跡窯体断ち割り(南東から)
(2) F地点3号窯跡窯体断ち割り(北東から)
(3) F地点3号窯跡窯体断ち割り(北東から)
- 図版 18 (1) F地点4号窯跡全景(東から)
(2) F地点4号窯跡左側壁~天井部(北東から)
(3) F地点4号窯跡右側壁~天井部(南東から)
- 図版 19 (1) F地点4号窯跡天井部~煙道部(東から)
(2) F地点4号窯跡左側壁~奥壁(北東から)
(3) F地点4号窯跡右側壁~奥壁(南東から)
- 図版 20 (1) F地点4号窯跡断ち割り状況(南東から)
(2) F地点4号窯跡断ち割り(北東から)
(3) F地点4号窯跡窯体内土層(東から)

- 图版 21 D地点 5 号窑出土遗物集合①
D地点 5 号窑出土遗物集合②
- 图版 22 D地点杯盖集合
D地点杯·杯身集合
- 图版 23 D地点·F地点土师器杯集合
F地点高杯集合
- 图版 24 出土遗物①
- 图版 25 出土遗物②
- 图版 26 出土遗物③
- 图版 27 出土遗物④
- 图版 28 出土遗物⑤
- 图版 29 出土遗物⑥
- 图版 30 出土遗物⑦
- 图版 31 出土遗物⑧
- 图版 32 出土遗物⑨
- 图版 33 出土遗物⑩
- 图版 34 出土遗物⑪
- 图版 35 出土遗物⑫
- 图版 36 出土遗物⑬
- 图版 37 出土遗物⑭
- 图版 38 出土遗物⑮
- 图版 39 出土遗物⑯
- 图版 40 出土遗物⑰
- 图版 41 出土遗物⑱

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

牛頸窯跡群は、福岡県大野城市上大利・牛頸を中心に、一部に春日市や太宰府市を含む東西4km、南北4.8kmの範囲に広がる須恵器窯跡群である。現在までに300基を超える窯跡が調査され、6世紀中頃から9世紀中頃の約300年にわたり操業されたことが明らかとなっている。窯の総数は未調査のものも含めると600基に迫ると考えられる。長期間にわたり大規模な操業を行った九州最大の須恵器窯跡群であることから、平成21年に「牛頸須恵器窯跡」として国指定史跡に指定されている。史跡指定地は全12地区に分かれており、いずれも大野城市内に位置する。

石坂窯跡群は大野城市大字牛頸に所在する。牛頸山から北側に派生する丘陵上に広がる古代の須恵器窯跡群で、一部は国指定史跡「牛頸須恵器窯跡」にあたる。これまでに、C地点（文献1）や牛頸窯跡群最新段階の窯跡であるE地点（文献2）が調査されたほか、史跡整備に伴いⅢ地区（文献3）が調査され、奈良時代を中心とした窯跡であることが明らかになっている。これ以外は現地踏査により窯跡の分布が把握され、その成果は「牛頸窯跡群総括報告書」（文献4）に所収されている。本書で報告する石坂窯跡D地点・F地点は、牛頸山北麓にある小ピークから派生する丘陵斜面に位置する。以下に地点毎に調査の経緯と経過を記す。

【石坂窯跡D地点】

対象地では土砂採掘が計画され、平成2年4月に人力による試掘調査を実施した結果、窯跡が確認された。事業者から発掘届が提出され、福岡県教育委員会あてに進達したところ、平成2年5月21日付けで発掘調査を実施する旨の通知があった。発掘調査は平成2年5月22日から着手し、同6月12日に完了した。

なお、整理作業は令和4年度に大野城市の一般財源を用いて実施した。

【石坂窯跡F地点】

対象地では砂防ダム建設が計画され、事業者である福岡県から発掘届が提出され、福岡県教育委員会あてに進達したところ、発掘調査を実施する旨の通知があった。発掘調査は平成17年6月9日から着手し、同8月4日に完了した。

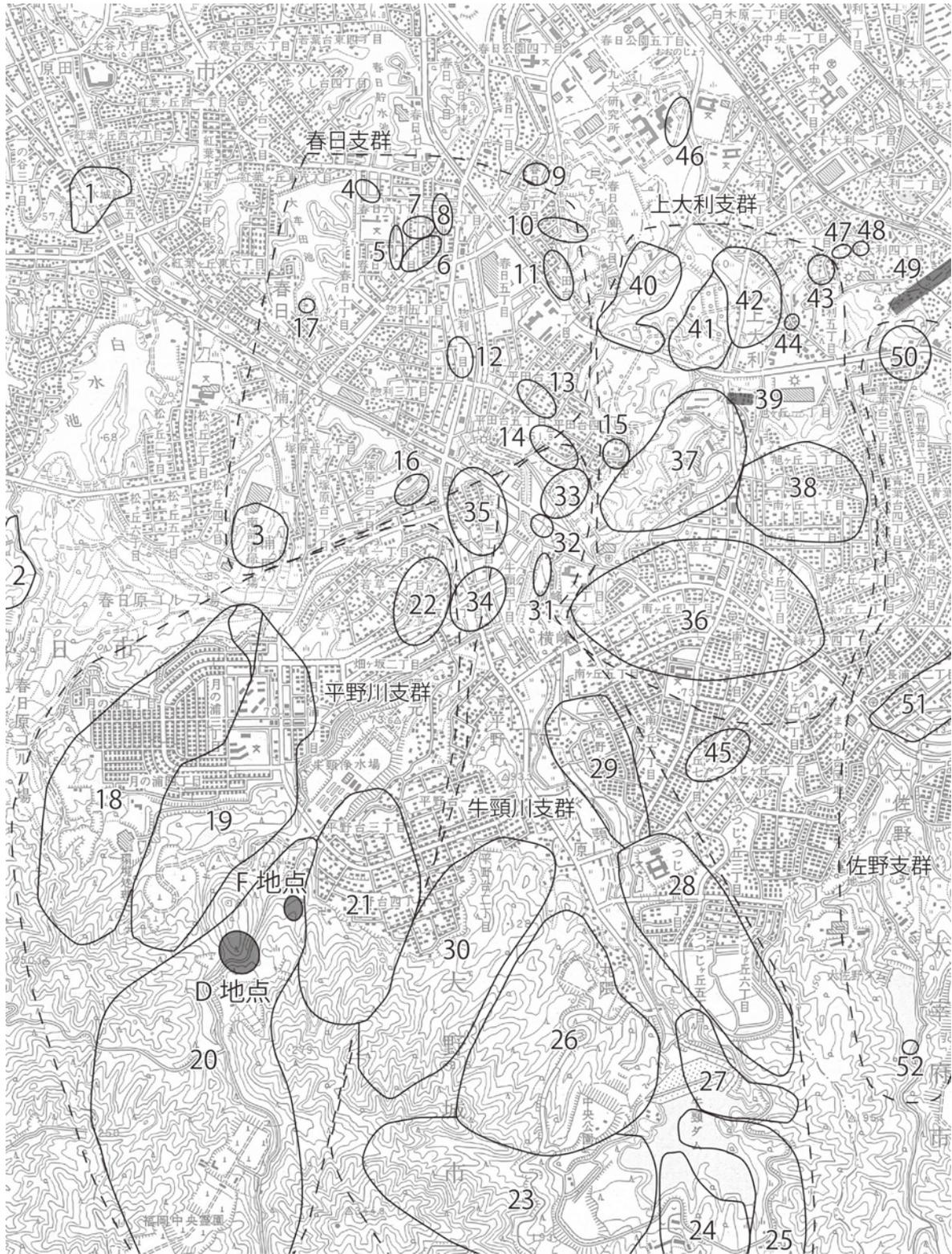
なお、整理作業は令和4年度に大野城市の一般財源を用いて実施した。

文献1 大野城市教育委員会 1985『牛頸石坂窯跡－C地点－』（大野城市文化財調査報告書第14集）

文献2 大野城市教育委員会 1997『牛頸石坂窯跡－E地点－』（大野城市文化財調査報告書第49集）

文献3 大野城市教育委員会 2021『史跡牛頸須恵器窯跡1－石坂窯跡群Ⅲ地区・長者原窯跡群Ⅰ地区－』（大野城市文化財調査報告書第186集）

文献4 大野城市教育委員会 2008『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』（大野城市文化財調査報告書第77集）



- 1: 大土居水城跡、2: 西浦古墳群、3: 浦ノ原竈跡、4: 惣利1号竈跡、5: 惣利西遺跡、6: 惣利東遺跡、7: 惣利遺跡、8: 惣利北遺跡、9: 向谷北遺跡、10: 向谷古墳群、11: 平田北遺跡、12: 円入遺跡、13: 春日平田遺跡、14: 春日平田西遺跡、15: 春日平田北遺跡、16: 塚原古墳群、17: 大牟田竈跡、18: 後田竈跡群、19: 小田浦竈跡群、20: 石坂竈跡群、21: 大谷竈跡群、22: 畑ヶ坂遺跡、23: 足洗川竈跡群、24: 笹原竈跡群、25: 長者原竈跡群、26: 井手竈跡群、27: 道ノ下竈跡群、28: ハセムシ竈跡群、29: 中通竈跡群、30: 原浦竈跡群、31: 屏風田遺跡、32: 華無尾遺跡、33: 華無尾竈跡、34: 塚原遺跡群、35: 日ノ浦遺跡群、36: 平田竈跡群、37: 野添遺跡群、38: 大浦竈跡群、39: 上大利小水城跡、40: 梅頭遺跡群、41: 本堂遺跡群、42: 上園遺跡、43: 出口竈跡、44: 出口遺跡、45: 上平田遺跡、46: 池田・池の上遺跡、47: 唐土遺跡、48: 谷川遺跡、49: 水城跡、50: 神ノ前竈跡、51: 宮ノ本遺跡群、52: 野口竈跡

第1図 石坂竈跡群周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

2. 調査体制

【平成2年度（D地点発掘調査）】

大野城市教育委員会教育長	久野 英彦
教育部長	後藤 幹生
社会教育課長	岡部 弥之助
課長補佐	白水 岩人
主 査	舟山 良一
主 事	浦山 敏弘（庶務担当）
技 師	向 直也
	徳本 洋一（調査担当）
嘱 託	岸野 和子

【平成17年度（F地点発掘調査）】

大野城市教育委員会教育長	古賀 宮太
教育部長	小嶋 健
社会教育課長	水野 邦夫
文化財担当係長	舟山 良一
主 査	徳本 洋一（調査担当）
	石木 秀啓
	緒方 一幹（庶務担当）
	丸尾 博恵
主任技師	林 潤也
	早瀬 賢
嘱 託	西堂 将夫
	井上 愛子
	北川 貴洋
	栗津 剛史（庶務担当）

【令和4年度（整理作業）】

大野城市長	井本 宗司
地域創造部長	増山 竜彦
大野城心のふるさと館長	赤司 善彦
文化財担当課長	石木 秀啓
文化財担当係長	林 潤也
	上田 龍児
主査	徳本 洋一

主任主事	秋穂 敏明 (庶務担当)
主任技師	山元 瞭平
技師	齋藤 明日香
会計年度任用職員	澤田 康夫
	石川 健
	山村 智子
	深町 美佳
	照屋 真澄
	清水 康彰 (庶務担当)
	大塚 健三 (庶務担当)
整理作業員	小畑 貴子
	古賀 栄子
	小嶋 のり子
	篠田 千恵子
	白井 典子
	津田 りえ
	仲村 美幸
	氷室 優
	松本 友里恵

Ⅱ．位置と環境

1．地理的環境

大野城市が位置する福岡平野は、南を脊振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面している。平野中央部を那珂川・御笠川が貫流し、広大な沖積平野を形成する。大野城市は福岡平野南東の最奥部に位置し、最も平野が狭くなる地峡部にあたる。古代以来この地峡部は交通の要衝で、現在でも九州縦貫自動車道・JR鹿兒島本線・西鉄天神大牟田線・国道3号など九州の南北を結ぶ幹線道が走っている。市域の東側は月隈丘陵に連なる乙金山・四王寺山、南側は牛頸山に挟まれ、その中央を御笠川が貫流する。山地は早良花崗岩からなり、風化が著しく真砂土となっており、山麓部から平地丘陵部にかけて段丘が発達する。高位段丘は開析がすすみ、中位段丘は平坦部も多く、平野部では沖積地が広がる。

2．歴史的環境

旧石器時代 市域北東部の松葉園遺跡、薬師の森遺跡、原口遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の出口遺跡、横峰遺跡、本堂遺跡など丘陵上の遺跡でナイフ形石器・細石刃が確認される。周辺では南八幡遺跡、諸岡遺跡、井尻B遺跡、門田遺跡などで後期旧石器時代の遺物が分布する。

縄文時代 市域で草創期の遺構・遺物は確認されていないが、周辺では門田遺跡で爪形文土器が出土している。早期になると遺跡の数が増加し、市域北東部の善一田遺跡、古野遺跡、薬師の森遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の本堂遺跡といった丘陵地で押型文土器や石器が出土するほか、石勺遺跡などの平野微高地上にも遺跡が分布する。前期から中期の遺跡は市域では確認されておらず、周辺でも遺跡の数が減少する。後・晩期の遺跡として牛頸塚原遺跡・日ノ浦遺跡で後期後半から晩期の住居などが確認されるほか、善一田遺跡、古野遺跡、原口遺跡、薬師の森遺跡で後・晩期の遺物が分布する。なお、薬師の森遺跡や石勺遺跡では落とし穴状遺構を確認しており、これらは縄文時代の所産である可能性が高い。

弥生時代 弥生時代には福岡平野全域で遺跡が増加し、沖積地にも遺跡が広がる。市域では北部から中央部の丘陵・平野部に遺跡が多い。

【前期】 川原遺跡や薬師の森遺跡で板付Ⅰ式期にさかのぼる集落がある。墳墓は御陵前ノ椽遺跡（前期中頃）、中・寺尾遺跡（前期中頃から中期）、塚口遺跡（前期後半から末）で甕棺墓・土坑墓・木棺墓などが営まれる。南部では牛頸日ノ浦遺跡で前期後半の甕棺墓・土坑墓がある。また御陵遺跡では前期中頃から末の集落が確認されている。前期末頃には仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡など平野部で集落の数が増加し、これらの多くは中期へと続く。なお、周辺地域では板付遺跡や那珂遺跡で早・前期の環濠集落が成立し拠点集落となる。

【中期】 市域では平野部の仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡が前期末から中期を通して継続する集落である。丘陵地でも北部の中・寺尾遺跡、森園遺跡で中期前半から後半に集落が営まれ、南部でも本堂遺跡で小規模な集落がある。墳墓遺跡は前期から継続する中・寺尾遺跡や、森園遺跡で中期後半を中心にした甕棺墓群があるほか、平野部の石勺遺跡や瑞穂遺跡で甕棺墓を主体とする墳墓がある。周辺では春日丘陵に大規模な集落・墳墓が出現し、青銅器生産も開始される。特に須玖岡本遺跡D地点甕棺は約

30 面の前漢鏡・ガラス璧・多数の青銅器を副葬し「王墓」と称される。

【後期】 中期以来の集落である仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡、本堂遺跡などが存続するほか、村下遺跡、榎町遺跡で新たな集落が出現する。仲島遺跡では貨布・銅鏡片や青銅器鋳型などが出土しており拠点集落となる。周辺地域では中期以降、春日丘陵一帯や那珂・比恵遺跡群が拠点集落として継続しており、特に春日丘陵一帯は『三国志』「魏書」東夷伝倭人条に記された「奴国」の中心的な地域と位置づけられる。

古墳時代

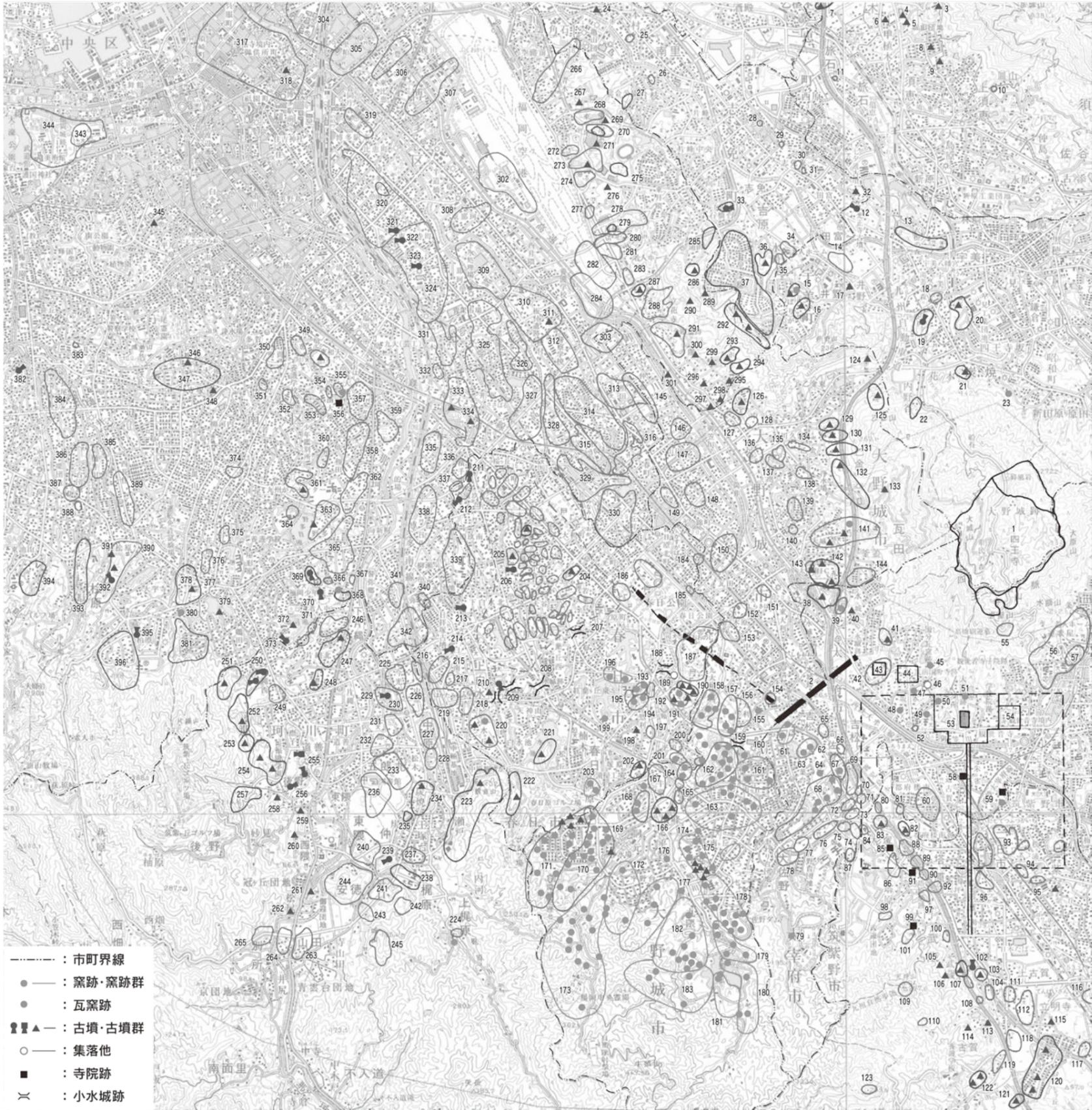
【前期】 古墳時代になると福岡平野でも前方後円墳が出現し、那珂川流域を中心に首長墓級の前方後円墳が分布する。福岡平野最古式の前方後円墳として、三角縁神獣鏡が出土した那珂八幡古墳（全長 75 m）がある。これに後続する盟主墳として安德大塚古墳（全長 62 m）や三角縁神獣鏡が出土したとされる卯内尺古墳がある。市域において明確な前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺にはかつて前方後円墳があったという指摘があるほか、江戸時代には三角縁神獣鏡が出土しており、有力な在地勢力が存在したと考える。

集落では、福岡平野の拠点集落として博多湾沿岸の西新町遺跡、博多遺跡群や那珂・比恵遺跡群がある。市域では仲島遺跡、石勺遺跡、村下遺跡が弥生時代後期から営まれ、瑞穂遺跡、原ノ畑遺跡などでも集落が出現する。この他、森園遺跡や本堂遺跡でも再び集落の形成が認められる。

【中期】 福岡平野の盟主墳として初期横穴式石室を導入した老司古墳（全長 76 m）があり、博多遺跡群でも博多 1 号墳（全長 56 m）が築造される。また、剣塚北古墳、井尻 B 1 号墳、野藤 1 号墳、貝徳寺古墳など中規模の前方後円墳・円墳がある。市域では 5 世紀前半の笹原古墳（円墳：30 m）があり、隣接して 5 世紀後半の成屋形古墳（帆立貝式前方後円墳：32 m、太宰府市）が築造され、御笠川流域の盟主墳と考えられている。5 世紀後半には牛頸塚原古墳群や古野古墳群で群集墳の形成が始まる。このうち古野古墳群では、鏡・鈴・鉄剣・農工具類といった豊富な副葬品を有する古墳もあり、成屋形古墳に次ぐような有力な人物がいたことを示す。

集落遺跡は福岡平野全域で非常に希薄で、前代までの拠点集落である那珂・比恵遺跡群や西新町遺跡は消滅する。周辺では高畑遺跡、立花寺 B 遺跡などで滑石製品の生産を伴う集落が展開する。市域では石勺遺跡が弥生終末から続く大規模な集落で、初期のカマドや朝鮮半島系の軟質土器が出土し、滑石製品の生産も伴うことから拠点集落と位置づけられる。このほか仲島遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、金山遺跡、原田遺跡、上園遺跡などで集落が営まれる。

【後期】 福岡平野の盟主墳として 6 世紀中頃築造の東光寺剣塚古墳（全長 75 m）や日拝塚古墳（全長 46 m）といった前方後円墳がある。6 世紀後半には大型前方後円墳は姿を消し、これに代わり 6 世紀後半以降、福岡平野一帯の丘陵上には直径 10 m ほどの小円墳を主体とした群集墳が爆発的に増加する。市域では月隈丘陵から乙金山・四王寺山麓にかけて大規模な群集墳が築造され、善一田古墳群・王城山古墳群をはじめとする乙金古墳群がこれに該当する。善一田古墳群は朝鮮半島系資料や鉄器生産に関わる資料が豊富であり、王城山古墳群では 7 世紀を中心とした新羅土器が集中することが特徴である。このうち、善一田 18 号墳が最古・最大（6 世紀後半築造・直径約 25 m）の円墳で、豊富な副葬品を有することから当地域の盟主的な墳墓に位置づけられる。また、市域南部では須恵器工人の墓と考えられる



- 1 大野城跡
- 2 水城跡
- 3 ヨムギ古墳
- 4 大塚古墳群・横穴墓群
- 5 尾黒南古墳群
- 6 桜塚横穴群
- 7 乙植木古墳群
- 8 城山古墳群
- 9 カヤノ古墳群
- 10 福岡藩磁器御用窯
- 11 旅石遺跡
- 12 光正寺古墳
- 13 神領・浦尻古墳群
- 14 河原田・供田遺跡群
- 15 岩長浦古墳群
- 16 観音浦古墳群
- 17 ウツキ古墳
- 18 宇美中学校遺跡
- 19 正籠古墳群
- 20 湯湧古墳群
- 21 花ノ木古墳群
- 22 内野谷古墳群
- 23 寺浦窯跡
- 24 亀山古墳
- 25 辨角遺跡
- 26 ヒエ田遺跡
- 27 五郎丸古墳群
- 28 カヶ島遺跡
- 29 堺田石棺墓
- 30 堺田遺跡
- 31 野間尻遺跡
- 32 七ヶ池古墳
- 33 萱葉古墳群
- 34 松ヶ下遺跡
- 35 松ヶ下遺跡
- 36 松ノ尾古墳群
- 37 松ヶ丘古墳群
- 38 成屋形古墳群
- 39 寒ノ田遺跡 (窯跡他)
- 40 寒ノ田古墳
- 41 陣の尾遺跡群 (古墳群他)
- 42 国分松本遺跡
- 43 筑前国分尼寺跡
- 44 筑前国分寺跡
- 45 国分瓦窯跡
- 46 御笠田印出土地
- 47 坂本瓦窯跡
- 48 松倉瓦窯群 (瓦窯跡他)
- 49 来木古墳群 (瓦窯跡他)
- 50 来木北瓦窯跡
- 51 都府楼北瓦窯跡
- 52 遠賀田印出土地
- 53 大宰府政庁跡
- 54 観世音寺
- 55 岩屋城跡
- 56 原遺跡
- 57 浦城跡
- 58 榎寺
- 59 般若寺 (瓦窯跡他)
- 60 市ノ上遺跡
- 61 神ノ前窯跡群
- 62 尊田窯跡
- 63 篠塚遺跡 (窯跡群他)
- 64 長浦窯跡
- 65 原口遺跡
- 66 久郎利遺跡
- 67 日焼遺跡群 (窯跡群他)
- 68 宮ノ本遺跡群 (窯跡群・火葬墓他)
- 69 前田遺跡
- 70 上川久保遺跡
- 71 難川遺跡
- 72 フケ遺跡
- 73 尾崎遺跡
- 74 脇道遺跡
- 75 殿城戸遺跡
- 76 次ノ尾遺跡
- 77 カヤノ遺跡
- 78 長ヶ坪遺跡
- 79 野口窯跡
- 80 井ノ尻遺跡 (古墳他)
- 81 杉塚大坪遺跡
- 82 銅塚遺跡 (古墳群・瓦窯跡他)
- 83 埴安神社古墳
- 84 和久堂城跡
- 85 杉塚廃寺
- 86 脇田遺跡
- 87 杉塚山の谷遺跡
- 88 唐人塚遺跡 (古墳群他)
- 89 前田遺跡
- 90 塔原遺跡
- 91 塔原廃寺
- 92 桶田山遺跡
- 93 釜畑遺跡
- 94 浦ノ浦遺跡
- 95 五穀神遺跡
- 96 堀池遺跡
- 97 大門石橋遺跡
- 98 大門遺跡
- 99 武蔵寺跡
- 100 道場山遺跡
- 101 武蔵寺経塚群
- 102 原口古墳・古墳群
- 103 鷲田山遺跡
- 104 大刀町遺跡
- 105 八隈裏山古墳
- 106 八隈山古墳
- 107 畑添遺跡
- 108 山の口遺跡
- 109 天利山城
- 110 飯盛城跡
- 111 若八幡神社遺跡
- 112 立明寺地区遺跡
- 113 扇紙古墳群
- 114 江永浦古墳
- 115 飯島神社古墳群
- 116 俗明院跡
- 117 大牟田西遺跡
- 118 貝元遺跡
- 119 トドキ遺跡
- 120 上の山古墳群
- 121 萩原古墳群
- 122 今光・地余遺跡群
- 123 博多見城跡
- 124 唐山古墳群
- 125 乙金北古墳群
- 126 御陵古墳群
- 127 塚口遺跡
- 128 御陵前の椽遺跡
- 129 善一田遺跡群
- 130 玉城山古墳群
- 131 古野古墳群
- 132 原口古墳群
- 133 此岡古墳群
- 134 松葉園遺跡
- 135 森園遺跡
- 136 ヒケシノ遺跡
- 137 中ノ寺遺跡群
- 138 薬師の森遺跡
- 139 銀山遺跡
- 140 原門遺跡
- 141 稚子ヶ尾遺跡 (窯跡他)
- 142 釜蓋原古墳群
- 143 金山遺跡
- 144 釜蓋原遺跡
- 145 金島遺跡
- 146 川原田遺跡
- 147 浦ノ原古墳群
- 148 村上遺跡
- 149 陣前原遺跡
- 150 石勺遺跡
- 151 原ノ畑遺跡
- 152 後原遺跡
- 153 国太子古墳群
- 154 谷川遺跡
- 155 池ノ遺跡 (窯跡他)
- 156 上園遺跡
- 157 本堂遺跡群
- 158 梅頭遺跡群
- 159 上大利水城跡
- 160 谷蟹窯跡
- 161 大浦窯跡群
- 162 野添遺跡群
- 163 平田窯跡群
- 164 華無尾遺跡群
- 165 原風田遺跡
- 166 塚原遺跡群
- 167 日ノ浦遺跡群 (窯跡他)
- 168 畑ヶ坂遺跡群 (窯跡他)
- 169 月ノ浦1号窯跡
- 170 小田浦遺跡群 (窯跡群・古墳群)
- 171 後田遺跡群 (窯跡群・古墳群)
- 172 大谷窯跡群
- 173 石坂窯跡群
- 174 東浦窯跡群
- 175 中通遺跡群 (窯跡群・古墳群)
- 176 城ノ山窯跡群
- 177 原窯跡・原浦窯跡群
- 178 ハセムノ窯跡群
- 179 下ノ窯跡群
- 180 長者原窯跡群
- 181 佐原窯跡群
- 182 井手窯跡群
- 183 洗川窯跡群
- 184 駿河遺跡
- 185 原ノ口遺跡
- 186 立石遺跡
- 187 九州大学筑紫地区遺跡群
- 188 春日水城跡
- 189 向谷北遺跡
- 190 向谷古墳群
- 191 春日平田北遺跡
- 192 惣利北遺跡
- 193 惣利遺跡
- 194 惣利東遺跡
- 195 惣利西遺跡
- 196 惣利窯跡群
- 197 円入遺跡
- 198 惣利古墳
- 199 大牟田窯跡
- 200 春日平田遺跡群
- 201 春日平田西遺跡
- 202 塚原古墳群
- 203 浦ノ原窯跡群
- 204 須玖遺跡群
- 205 赤井手遺跡 (古墳他)
- 206 竹ヶ本古墳
- 207 小倉水城跡
- 208 大土居水城跡
- 209 天神山水城跡
- 210 天神山古墳
- 211 御陵遺跡群 (古墳他)
- 212 野添1号墳
- 213 下白水大塚古墳
- 214 日拝塚古墳
- 215 辻田遺跡
- 216 柏田遺跡
- 217 上白水西遺跡
- 218 天神の木遺跡
- 219 門田遺跡
- 220 ウトグチ遺跡群 (古墳・瓦窯跡他)
- 221 白水池古墳群
- 222 西浦古墳群
- 223 観音山古墳群
- 224 地別当遺跡群・窯跡群
- 225 今光・地余遺跡群
- 226 中原・ヒナタ遺跡群
- 227 中原・塔ノ元遺跡群
- 228 カイ子遺跡群
- 229 井徳寺古墳
- 230 赤石遺跡群
- 231 松木遺跡群
- 232 屋敷ノ内遺跡群
- 233 前田遺跡群
- 234 エグ古墳・カクテガ浦古墳群
- 235 炭焼古墳群
- 236 仲遺跡群
- 237 下尻原遺跡群
- 238 平蔵遺跡群
- 239 安徳大塚古墳
- 240 安徳原田遺跡群
- 241 龍頭遺跡群
- 242 梶原ハル遺跡群
- 243 城ノ下遺跡群
- 244 安徳台遺跡群
- 245 岩門城跡
- 246 野口遺跡群
- 247 観音堂遺跡群
- 248 井河古墳群
- 249 井河遺跡群
- 250 小丸古墳群
- 251 浦ノ原古墳群
- 252 丸ノ口古墳群
- 253 白石古墳群
- 254 荒平池古墳群
- 255 妙法寺古墳群
- 256 大万寺古墳
- 257 国太子古墳群
- 258 イボリ古墳
- 259 墓の前古墳
- 260 熊本古墳群
- 261 風早古墳
- 262 松ノ尾古墳群
- 263 小柳遺跡群
- 264 山田西遺跡群
- 265 次郎丸遺跡群
- 266 扇田青木遺跡群
- 267 北ノ浦古墳
- 268 中尾遺跡群
- 269 東谷表古墳
- 270 貝尾尾遺跡群
- 271 大谷古墳
- 272 久保園遺跡
- 273 赤穂ノ浦遺跡
- 274 宝満尾遺跡
- 275 宝満尾東古墳群
- 276 上ノ池古墳
- 277 下月隈鳥越遺跡
- 278 下月隈天神森A遺跡
- 279 天神森古墳群
- 280 下月隈天神森B遺跡
- 281 上月隈遺跡群
- 282 下月隈C遺跡群
- 283 上月隈B遺跡
- 284 立花寺B遺跡群
- 285 立花寺古墳群
- 286 熊野古墳群
- 287 文殊谷古墳群
- 288 立花寺遺跡群
- 289 七曲古墳群
- 290 金剛山古墳群
- 291 金隈遺跡群・古墳
- 292 持田ヶ浦古墳群A群
- 293 持田ヶ浦古墳群B群
- 294 持田ヶ浦古墳群C群
- 295 持田ヶ浦古墳群D群
- 296 持田ヶ浦古墳群E群
- 297 持田ヶ浦古墳群F群
- 298 今里不動古墳
- 299 堀ヶ浦古墳群
- 300 影ヶ浦古墳群
- 301 丸山古墳
- 302 雀居遺跡
- 303 井相田D遺跡群
- 304 堅粕遺跡群
- 305 吉塚遺跡群
- 306 豊遺跡群
- 307 東比恵遺跡
- 308 東那珂遺跡
- 309 那珂君休遺跡群
- 310 板付遺跡
- 311 板付八幡古墳
- 312 高畑遺跡
- 313 井相田C遺跡
- 314 麦野A遺跡
- 315 麦野B遺跡
- 316 麦野C遺跡
- 317 博多遺跡群
- 318 博多1号墳
- 319 駅東遺跡
- 320 比恵古墳群
- 321 剣塚北古墳
- 322 東光寺剣塚古墳
- 323 那珂八幡古墳
- 324 比恵・那珂遺跡群
- 325 諾岡A遺跡
- 326 諾岡B遺跡
- 327 佐原遺跡群
- 328 三筑遺跡
- 329 南八幡遺跡群
- 330 陣前原遺跡群
- 331 五十川遺跡群
- 332 井尻B遺跡
- 333 井尻B-1号墳
- 334 橋手遺跡群
- 335 橋手遺跡
- 336 寺島遺跡
- 337 笠枝遺跡
- 338 日佐遺跡群
- 339 弥永原遺跡群
- 340 弥永遺跡群
- 341 警野部A遺跡
- 342 警野部B遺跡
- 343 鴻巣館跡
- 344 福岡城跡
- 345 平尾古墳
- 346 穴観音古墳
- 347 寺塚A古墳群
- 348 寺塚B古墳群
- 349 野間A・B遺跡
- 350 中村町遺跡
- 351 若久A遺跡
- 352 若久B遺跡
- 353 大橋B遺跡
- 354 大橋C遺跡
- 355 大橋D遺跡・三宅瓦窯跡
- 356 三宅A遺跡・三宅魔寺
- 357 大橋E遺跡
- 358 三宅B遺跡
- 359 三宅C遺跡
- 360 和田A遺跡群
- 361 和田B遺跡群
- 362 野多目A遺跡
- 363 野多目B遺跡・古墳群
- 364 野多目浦ノ池遺跡
- 365 野多目C遺跡群
- 366 老司A遺跡
- 367 老司B遺跡
- 368 老司神社古墳群・老司瓦窯跡
- 369 卯内尺古墳・古墳群
- 370 老司古墳
- 371 老司池A・B遺跡群
- 372 中尾古墳
- 373 浦ノ田古墳群
- 374 屋形原遺跡
- 375 花畑C遺跡群
- 376 花畑B遺跡群
- 377 花畑A遺跡群
- 378 三田古墳
- 379 箱池古墳
- 380 中島窯跡
- 381 四十塚・大牟田古墳群
- 382 神松寺御陵古墳
- 383 小笹遺跡
- 384 長尾遺跡
- 385 樋井川A遺跡群
- 386 宝台遺跡群
- 387 九尾台遺跡群
- 388 佐栗遺跡
- 389 樋井川B遺跡群
- 390 松原遺跡群
- 391 松原古墳群
- 392 松原2号墳
- 393 東油山古墳群
- 394 瀬戸口古墳群
- 395 柏原古墳群1号墳
- 396 柏原古墳群

第2図 遺跡分布図 (1/62,500)

牛頸中通・後田・小田浦古墳群や、6世紀後半の大型円墳である日ノ浦1号墳がある。また、特殊な墳墓として、梅頭窯跡では窯跡を転用した墳墓があり象嵌大刀を副葬する。これらの横穴式石室を主体部とする古墳や群集墳は6世紀後半から7世紀にかけて築造し、8世紀代まで追葬を行うものもある。

集落は6世紀中頃以降、福岡平野の各地で再び増加する。比恵遺跡群では6世紀後半に大型建物群が出現し、「那津官家」の可能性が指摘される。市域では仲島遺跡、塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡、薬師の森遺跡などで集落が営まれ、7世紀代まで存続するものが多い。仲島遺跡は集落規模が大きく、多数の掘立柱建物の存在や多量の馬骨・子持ち勾玉などの存在から、拠点的な集落と考えられる。牛頸窯跡群周辺の塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡などは須恵器工人集落と位置づけられる。また、薬師の森遺跡は一部に渡来人が居住し、鉄器生産・須恵器生産に関わる集落であることが明らかになっており、先述の乙金古墳群との対応関係が確認できる。

なお、牛頸窯跡群の開始は6世紀中頃に求められ、乙金・四王寺山麓の乙金窯跡・雉子ヶ尾窯跡もこれに近接した時期に須恵器生産を開始する。

飛鳥時代 7世紀前半代は集落・墳墓ともに古墳時代後期の様相を踏襲する。墳墓で注目すべきは大野城市と福岡市博多区の境界に位置する今里不動古墳で、7世紀前半前後の大型円墳(直径約30m)とされ、御笠川右岸地域の盟主墳である。また、6世紀後半の比恵遺跡群に展開した大型建物群は那珂遺跡群に移動する。この時期、牛頸窯跡群の須恵器生産はひとつのピークをむかえる。また、野添窯や月ノ浦窯などでは初期瓦を生産しており、那津官家比定地の那珂遺跡に供給されたことが知られる。牛頸窯跡群周辺では集落の数や住居の数が飛躍的に増加し、牛頸塚原遺跡、日ノ浦遺跡などは前代から続く須恵器工人集落と考えられている。

7世紀中頃から後半には、中国・朝鮮半島を含む東アジア世界が激動の時代をむかえる。日本も白村江の戦(663年)で敗戦を経験し、日本史上初の国際的な危機に直面する。これに伴い664～665年にかけて水城・大野城が相次いで築造される。国内情勢でも壬申の乱(672年)が起こり、これを機に律令体制に基づく本格的な中央集権国家を形成していくことになる。また、大宰府では第I期政庁が成立する。

このような時代背景の中で、市域全体で遺構・遺物の減少が認められる。例えば、薬師の森遺跡では7世紀中頃から後半にかけて一時的に遺構・遺物が希薄となり、乙金古墳群では6世紀末から7世紀前半に古墳築造のピークをむかえ、7世紀後半にかけて順次築造数が減少していく。また、牛頸窯跡群における窯の数も減少し、一時的に須恵器生産も停滞期をむかえる。

奈良時代 奈良時代になると律令国家が成立し、九州も大宰府を中心とした支配体制が整い、各地に官衙が設置される。また、この時期には官道も整備され、井相田C遺跡、板付遺跡、那珂久平遺跡や谷川遺跡、先ノ原・春日公園内遺跡などで道路状遺構が確認されている。集落遺跡として市域では仲島遺跡や隣接する井相田C遺跡で掘立柱建物を中心とした集落が形成される。周辺の高畑遺跡は「高畑廃寺」あるいは「那珂郡衙」の可能性が指摘され、麦野遺跡・南八幡遺跡で大規模な村落が成立し、御笠川中流域の官道沿いに官衙や村落が営まれた景観が復元できる。牛頸窯跡群では8世紀前半に窯の数が増加し、供膳具を中心に大量生産が行われる。このほか、本堂遺跡群では村落内寺院と考えられる遺構が確認されている。また、薬師の森遺跡では集落の経営を再開し、銚帯金具・ヘラ書き須恵器・越州窯系青磁・製

塩土器などの特殊遺物が出土する。鍛冶炉に加え、須恵器窯に関連する遺構もあり、古墳時代に引き続き手工業生産に関わる集落と考えられる。

なお、水城では8世紀前半に門の建て替えがあり、東西門や欠堤部周辺を中心に水城に関わる遺構・遺物が確認されている。

平安時代 平安時代前半の9～10世紀代は福岡平野全域で遺跡数が減少する。牛頸窯跡群も規模が縮小し、9世紀中頃には操業を停止する。市域の遺跡も減少し、前代に見られた仲島遺跡、井相田C遺跡や麦野遺跡の集落も9世紀代に消滅する。9～10世紀代では牛頸月ノ浦窯跡、本堂遺跡、塚口遺跡、中・寺尾遺跡で土坑墓、薬師の森遺跡で土坑墓や掘立柱建物を検出している。

なお、9世紀前半に改称した鴻臚館は対外交渉の窓口として機能し、9世紀後半以降は中国商人の滞在・交易施設となり、初期貿易陶磁器が大量に出土している。

平安時代後半になると、11世紀中頃から後半に大宰府政庁・鴻臚館が廃絶し、代わって博多遺跡群において中世都市「博多」が成立する。律令制は完全に崩壊し、各地で武士が活躍する時代をむかえる。市域においては塚口遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡で輸入陶磁器を埋納する土坑墓が確認されており、有力者の存在を示す。集落は松葉園遺跡、御笠の森遺跡、宝松遺跡、上園遺跡で確認されている。なお、水城の外濠は平安時代末頃ではほぼ埋没し、西門周辺では経塚の形成や棒状土製品など土器生産に関わる遺物が集中することから、律令制の弛緩とともに本来的な役割が終焉をむかえていくこととなる。なお、土師器・瓦器焼成に関わる棒状土製品の出土は、水城西門周辺から上園遺跡、本堂遺跡周辺にかけて濃密に分布し、牛頸窯跡群終焉以降の土器生産の再開を示す。

鎌倉時代～戦国時代 市域では御笠の森遺跡、本堂遺跡、石勺遺跡、川原遺跡、薬師の森遺跡などで当該期の遺構が確認されている。薬師の森遺跡では12世紀後半から14世紀にかけての中世墓が多数営まれ、集落を囲むと考えられる区画溝やピット群が広がっており、比較的有力な集団が存在していたと考えられる。御笠の森遺跡は11世紀後半以降継続して集落が営まれる。16世紀後半から17世紀中頃に多数の方形区画溝が展開し、有力農民層の集落跡と考えられている。また、戦国期の山城として乙金の唐山城、牛頸の不動城があるが詳細は不明である。

近世 後原遺跡、御笠の森遺跡、雑餉隈遺跡、村下遺跡、川原遺跡、屏風田遺跡などで遺構・遺物が確認されるが、当該期の遺跡の多くは現在の集落域と重複していると考えられる。このうち、市域中央部の後原遺跡は「白木原村」の本村にあたり、屋敷地や墓地が確認されており、地祇神社を中心とした集落景観が復元できる。また、市域北東部の薬師の森遺跡、原口遺跡、古野遺跡では近世から近現代にかけての墓地が造られ、乙金村の集団墓地として位置づけられる。

近代・現代 市域北東部の王城山遺跡、古野遺跡、原口遺跡で太平洋戦争時の防空壕跡を調査しており、このうち王城山遺跡のものは規模や遺物の内容から地下疎开工場と位置づけられる。また、市域中央部の野添遺跡では、本土決戦に備え野砲を設置したと考えられる洞窟壕が確認されている。

Ⅲ. 石坂窯跡D地点

1. 調査の概要

石坂窯跡群は牛頸須恵器窯跡の一支群（平野川支群）にあたる。調査地は牛頸山から北側に派生する丘陵のうち、南側～東側斜面に位置する（大字牛頸2352番5）。発掘調査は土砂採取工事に伴い実施した。平成2年5月22日から着手し、同6月12日に完了した。調査面積は890㎡で、出土遺物は須恵器を中心にパンケース45箱分出土した。

5号窯跡は南側に、それ以外は谷を挟んだ北側に位置する。5号窯跡は比較的残りが良いが、それ以外の窯跡は林道の設置に伴い調査前には既に削平を受けていたため急傾斜地を呈しており、窯の残存状況は極めて悪い。5号窯跡以外は地形測量図・遺構



第3図 D地点窯跡位置略図

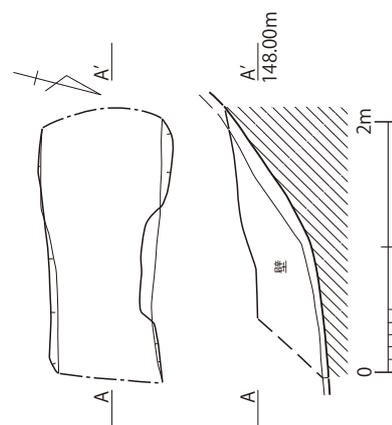
配置図がないため、それぞれの窯跡の詳細な位置関係は不明な点が多い。調査時のメモから遺構配置図を復元し、第3図に掲載した。これによると、北側から4号窯跡・3号窯跡・2号窯跡の一群があり焚口が東側を向く。このうち、2・3号窯跡はほぼ接するように位置する。この一群とやや離れた南側に、北側から1号窯跡・0-A号窯跡・0-B号窯跡があり、焚口が東側を向く。このうち、0-A号窯跡・0-B号窯跡はほぼ接するように位置する。

5号窯跡は完存、1号窯跡は大半が完存、0-A・0-B号窯跡は部分的に残存し、これらについては全面的に調査を実施した。2・3・4号窯跡は調査区壁面で窯体の断面が観察されたのみで、写真による記録だけが残る。

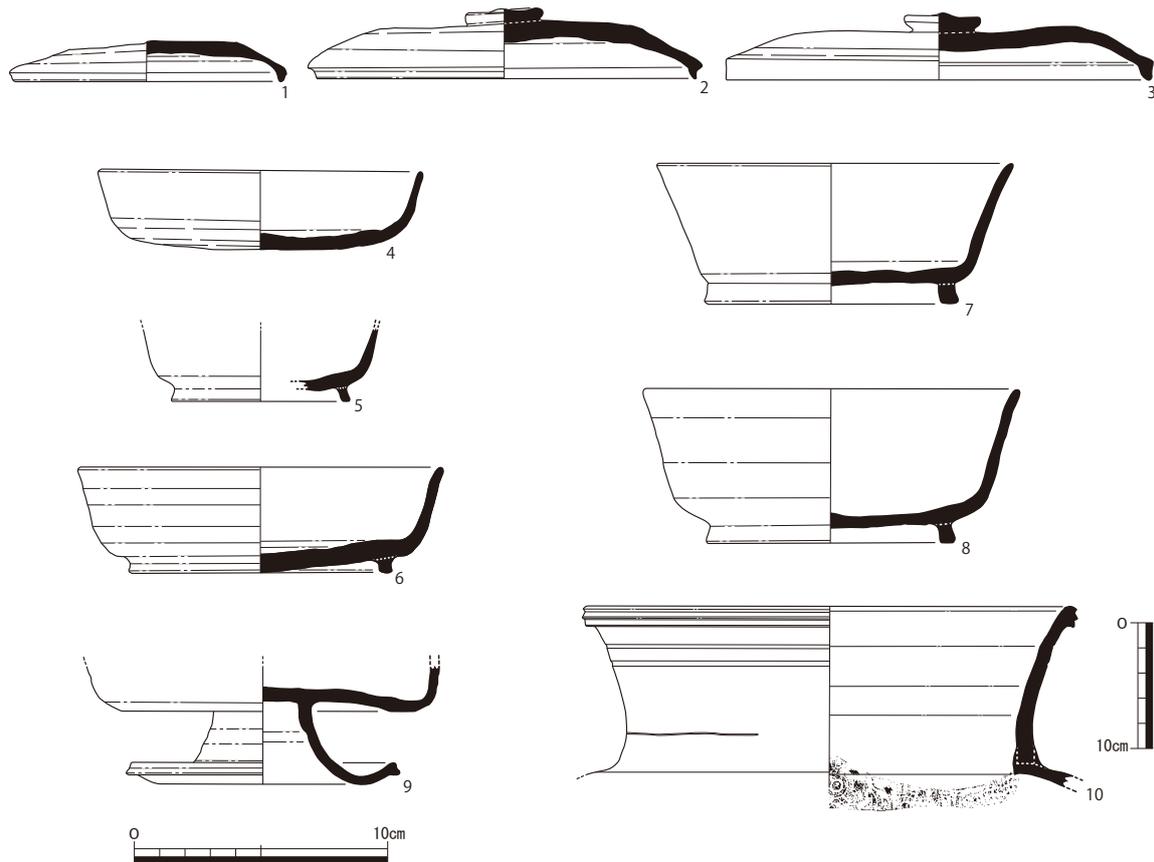
2. 0-A号窯跡

(1) 窯の構造（第4図、図版1～3）

西側に0-B号窯跡が近接する。削平が著しく、燃焼部及び焼成部のそれぞれ一部のみが遺存する。地下式窖窯と考えられ、焼成部から燃焼部にかけての2.1mを検出した。燃焼部の幅は0.8m、焼成部の幅は0.9～0.95m、平面は寸胴形を呈する。燃焼部はほぼ水平、焼成部の傾斜角度は約33度、窯の主軸方位はN-103°-Eである。操業回数や灰原の範囲等は不明である。表土から蓋杯・杯・甕・短頸壺、0-A・0-B号窯跡灰原から蓋杯・杯・台付皿・長頸壺・高杯などが出土した。



第4図 0-A号窯跡実測図（1/60）



第5図 O-A号窯跡表土層出土遺物実測図 (1/3・1/6)

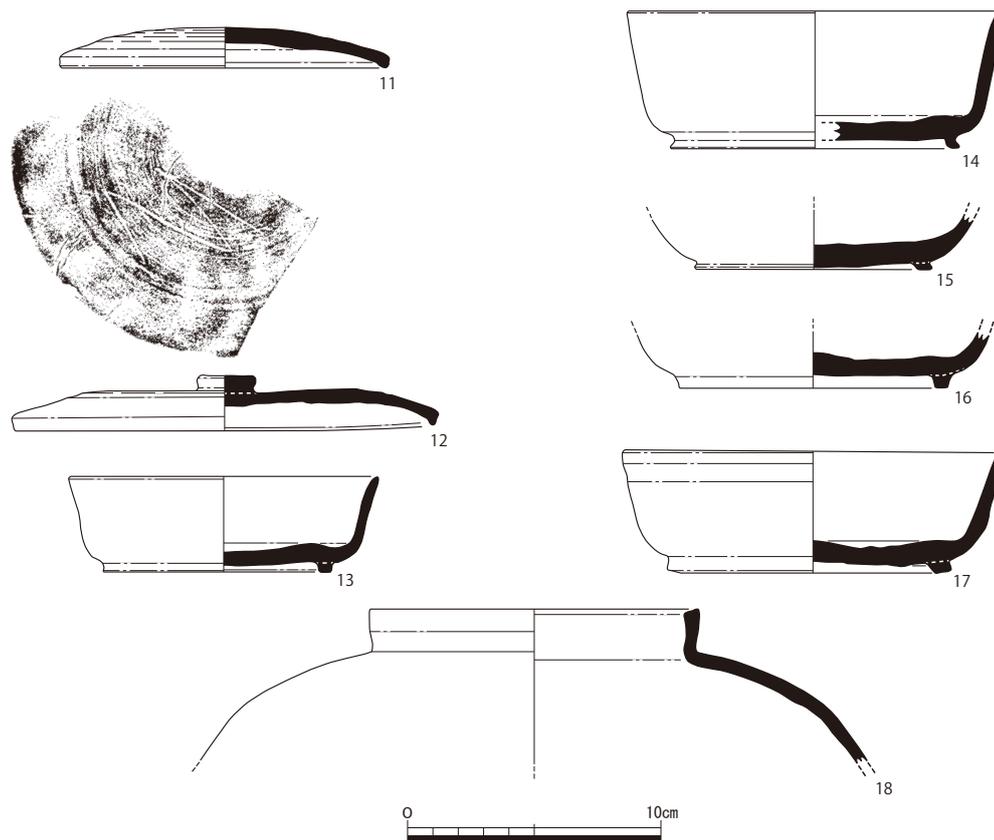
(2) 出土遺物 (第5・6図、図版24)

【O-A号窯跡表土層】

須恵器 (1～10) 1～3は杯蓋で、口縁部は端部を小さく折り曲げ、断面三角形を呈する。1はつまみを有しないもので、2・3は扁平な擬宝珠様のつまみをつける。いずれも天井部外面上半は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデを施す。4は杯である。丸みを帯びた底部から直立気味に立ち上がる口縁部は端部を丸く収める。底部外面はヘラ切り後ナデ、他は回転ナデである。5～8は杯身で、断面方形の短い外開きの高台が付く。5・6は口縁部が短く直立する。6は底部外面が回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデである。7・8は深めの杯で、やや外反気味に直立する。7の底部外面は回転ヘラケズリを、8は回転ヘラ切り後ナデを施す。底部内面はいずれも回転ナデ後ナデである。9は高杯であるが焼け歪みによる変形がある。脚裾端部は断面三角形に引出し、端部平坦面は中央を窪ませ擬凹線文状を呈する。杯底部外面はヘラケズリ後回転ナデを、内面は回転ナデ及びナデをそれぞれ施す。10は甕で、口径40cm前後を測る。口縁端部を肥厚させ端部外面に2条、頸部外面に2条の沈線をそれぞれ巡らす。頸部内外面には板状工具による横方向のナデを施し、体部内面には同心円文の当具痕が残る。

【O-A号窯跡窯体内埋土】

須恵器 (11～18) 11・12は杯蓋である。11はつまみが無く、丸みのある天井部からのびる口縁端部は折り曲げが弱く肥厚しない。12はボタン様のつまみを有し、口縁端部は短く折り曲げて断



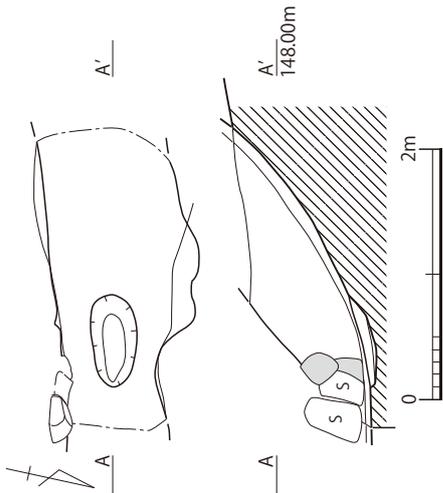
第6図 O-A号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図(1/3)

面三角形に肥厚させる。いずれも天井部外面上半は回転ヘラケズリし、内面は回転ナデ後ナデである。12は天井部外面にヘラ記号を有する。13～17は杯身である。断面方形の低い高台が付くもので、小型(13)と中型(14～17)がある。いずれの口縁部も直線的にのび、直角近くに立ち上がる。底部内面は回転ナデ後ナデで、外面は13・14が回転ヘラケズリ、15はヘラ切り未調整、17がヘラ切り後ナデである。18は短頸壺で、口縁部が膨らみ気味に直立する。口縁端部は内湾する平坦面を有し、中央がわずかに窪む。

3. O-B号窯跡

(1) 窯の構造 (第7図、図版1～3)

東側にO-A号窯跡が近接する。削平が著しく、燃焼部及び焼成部のそれぞれ一部のみが遺存する。地下式窖窯と考えられ、焼成部から燃焼部にかけての2.4mを検出した。燃焼部の幅は0.75m、焼成部は奥壁側に向かって「ハ」の字形に開き、最大幅は1.25mである。平面形は不明である。燃焼部はほぼ水平、焼成部の傾斜角度は約35度、窯の主軸方位はN-78°-Eである。燃焼部と焼成部の境界付近の床面には、長さ0.75m、幅0.35m、深さ0.1mほどの舟底状ピットがある。また、燃焼部の左側壁には高さ0.3～0.5mほどの人頭大の石を立てており、側壁の補強の石材と考えられる。操業回数や灰原の範囲等は不明である。窯体内から蓋杯・皿・甕・短頸壺などが出土した。

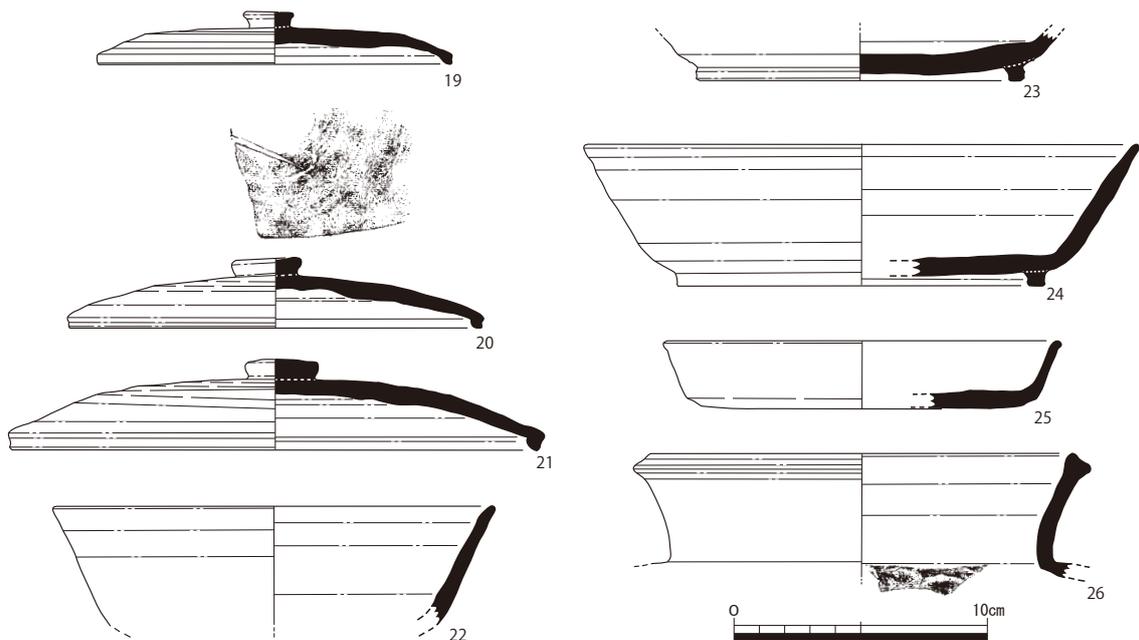


第7図 O-B号窯跡実測図 (1/60)

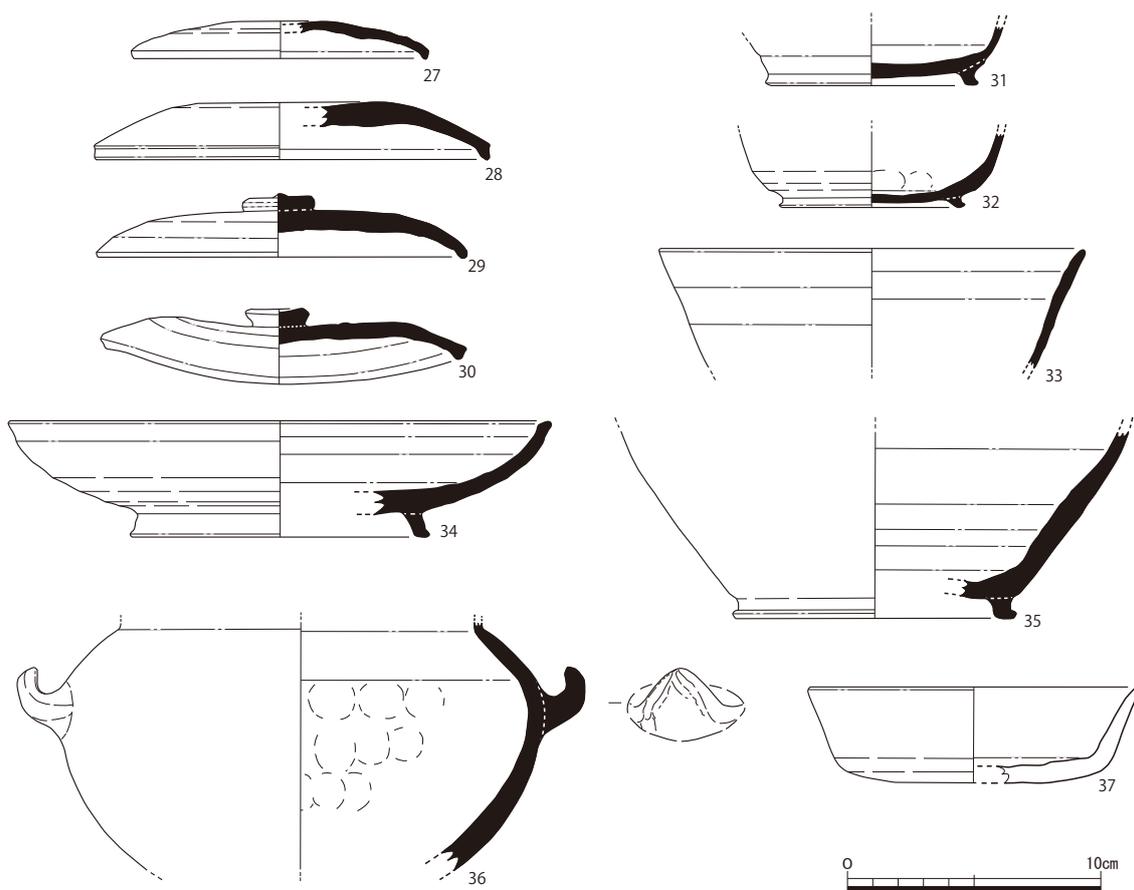
面は回転ナデ後ナデで、外面は23・24がへら切り後ナデである。25は皿である。平坦な底部にやや外反気味に立ち上がる口縁部で、端部はわずかに外方へ突き出す。底部外面は丁寧なへらケズリで、他は回転ナデである。26は甕である。外反する口縁部は端部を内外に肥厚させる。体部内面に同心円当具痕が残り、他は口頸部内外面とも回転ナデである。

【O-A・B号窯跡灰原】

須恵器 (27～36) 27～30は杯蓋である。いずれも口縁端部を折り曲げ突出させるもので、27・29は突出が弱い。つまみは27・28が天井部中央を欠損しているため、つまみの有無は不明だが、29は扁平な擬宝珠様、30はボタン様のつまみを有する。いずれも天井部外面上半は回転へらケズリ、内面は回転ナデ後ナデである。31～33は杯身である。31・32は端部を外方へ引き出し、踏ん張る



第8図 O-B号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3)



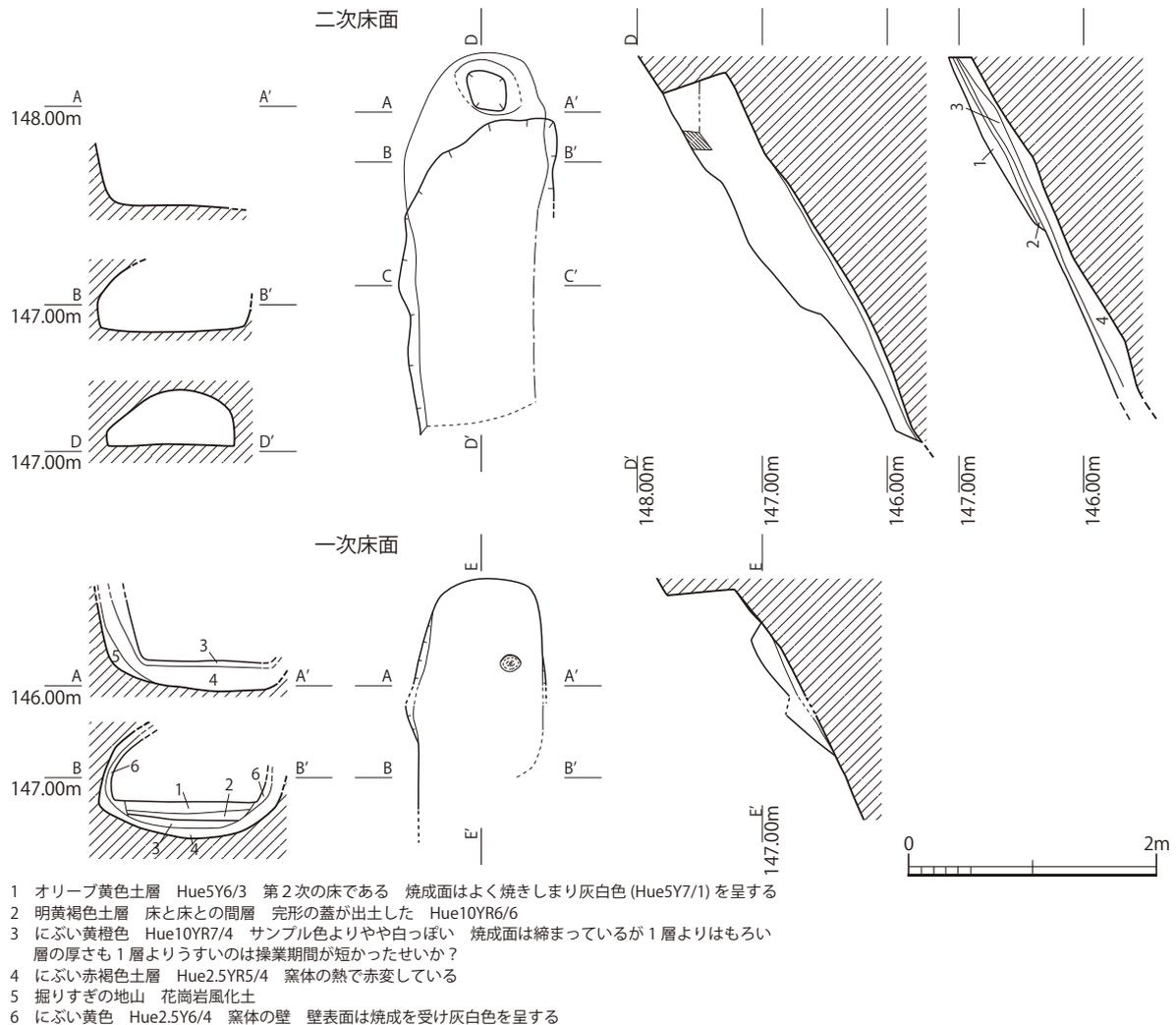
第9図 O-A・B号窯跡灰原出土遺物実測図(1/3)

形態の高台を有す。体部は湾曲しながら立ち上がる。31は底部外面が回転ヘラケズリ、内面には強いナデを施す。32は底部外面をヘラケズリ後ナデ、内面には指頭痕が残る。33は底部を欠く資料で、口縁部は直線的に開き、内外とも回転ナデされる。34は高台付の皿である。口径21.4cmを測り、口縁端部は内湾気味に立ち上がり、端部を面取りし内傾する平坦面に仕上げる。高台は高さ1cmほどで、端部は小さく外方へ突き出し、踏ん張る形状を示す。35・36は壺である。35は長頸壺の体部下半である。高台端部はわずかに外方へ突き出す。外面下半は回転ヘラケズリ、他は回転ナデである。36は口縁部と底部を欠損するが、上方へ跳ねる把手を有する短頸壺である。体部下半は回転ヘラケズリ、他は回転ナデで、体部内面中位に指頭痕が顕著に残る。

土師器 (37) 37は杯である。底部はわずかに丸みを持ち、体部は外反気味に立ち上がる。底部外面はヘラ切り後ナデ、底部と体部の境周辺はヘラケズリ、他は回転ナデである。黄褐色を呈し、外底部に酸化炎焼成時の煤痕が残る。

(3) 小結

O-A・O-B号窯跡ともに残存状況が悪いがいずれも8世紀に操業した小型の窯跡である。良好な出土状況ではないがO-A号窯跡ではⅦA期、O-B号窯跡ではⅦB期を中心とした土器群が出土している。近接して立地するものの、同時操業ではなく、異なる時期に操業した可能性が高い。



第10図 1号窯跡実測図 (1/60)

4. 1号窯跡

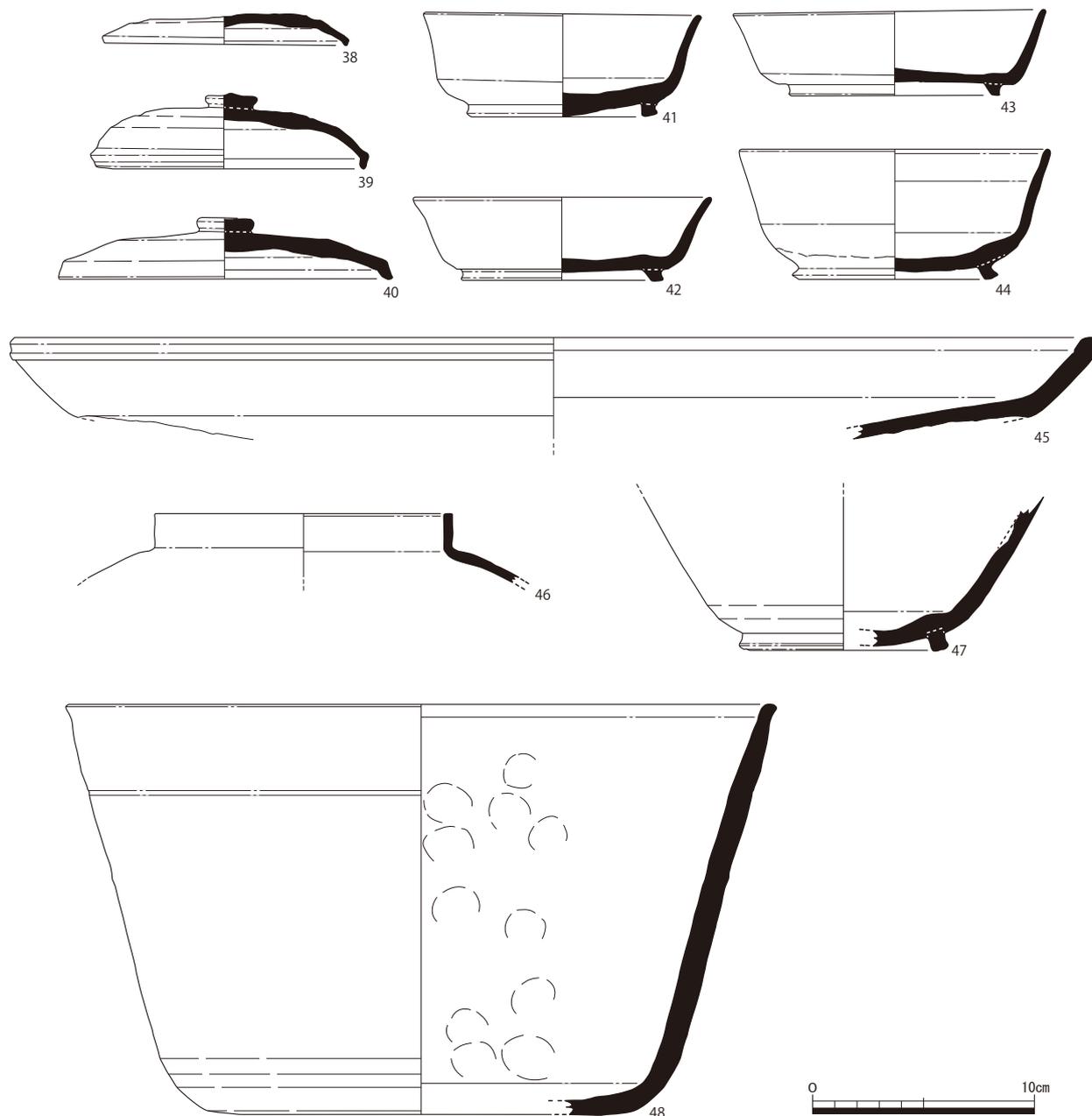
(1) 窯の構造 (第10図、図版4～6)

0-A・0-B号窯跡と2号窯跡の間に位置する。燃焼部及び右側壁が削平のため消滅する。地下式窖窯で、残存長3.05m、焼成部幅0.9～1.15m、平面寸胴形を呈する。床面の傾斜角度は27度ほどで、原図に方位の記録がないため窯の主軸方位は不明であるが、焚口が東側を向く。煙道は直立し、上面の直径は0.4mほどである。一部に天井部が残存し、床面からの高さは0.4mで、横断面はかまぼこ形を呈する。2次の操業面が確認でき、最終操業面は地山由来と考えられる明黄褐色土でかさ上げし、当初操業面の左右壁を5～10cmほど拡張している。灰原の範囲等は不明である。

(2) 出土遺物 (第11～13図、図版24～26)

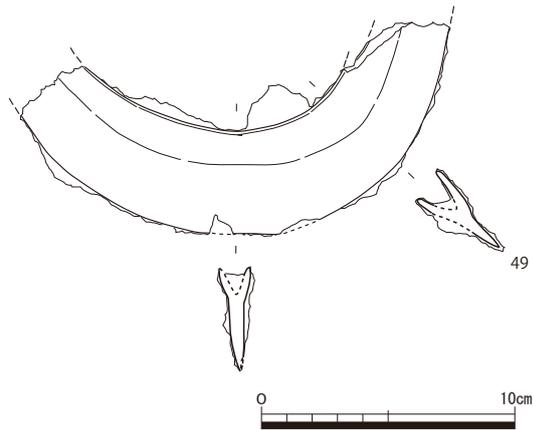
【表土層】

須恵器 (38～48) 38～40は杯蓋で、口縁部端を折り曲げるものである。38はつまみが無く、口縁端部の突出は弱い。天井部外面上半はヘラ切りで、内面は回転ナデである。39は扁平な擬宝珠様のつまみが付く。天井部の高まりが強く、口縁端部の折り曲げは長い。40はボタン様のつま



第11図 1号窯跡表土層出土遺物実測図① (1/3)

みを有する。いずれも天井部外面上半は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデである。41～44は杯身である。いずれも断面方形の低い高台を有する。口縁部は43が直線的に立ち上がるが、他はやや湾曲しながら開く。いずれも底部外面はヘラ切りで、41・44はヘラ切り後ナデている。43は底部内面に回転ナデ後、工具ナデを施す。45は盤で、口径49.0cmを測る大型のものである。底部は焼け歪みの為か膨らみ気味となる。口縁部は直線的に開き端部を瘤状に肥厚させ、外側に1条の擬凹線様を作り出す。底部から口縁部下位の外面にヘラケズリ、他は回転ナデを施す。46・47は壺である。46は口縁部が内傾気味に直立する短頸壺で、口体内外面に回転ナデを施す。47は体部下半から底部の資料で、膨らみ気味の胴部である。胴部外面下位に回転ヘラケズリを施し、底部外面中央はヘラ切り後ナデ、他は回転ナデである。48は口径32cm、器高8.7cmを測る大型の鉢



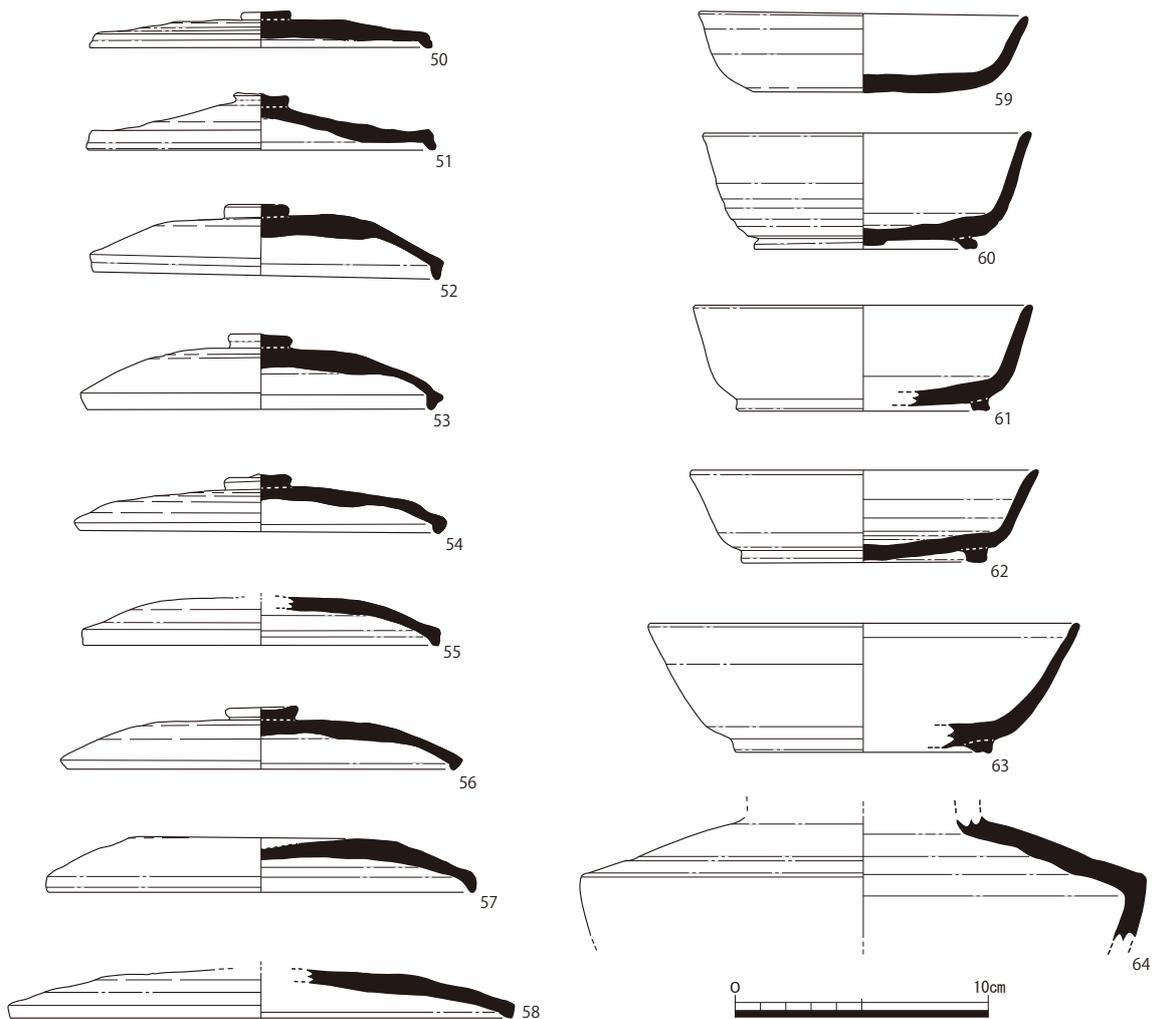
第12図 1号窯跡表土層出土
遺物実測図②(1/3)

である。底部は平底で体部は直線的に開き、口縁端部をわずかに薄くし、小さく外反させる。外面の口縁部下4cm程の位置に1条の沈線を巡らす。底部外面は回転ヘラケズリされ、他は回転ナデである。体部内面には多くの指頭痕が残る。

鉄製品 (49) 49は鉄製U字型鋤先である。刃部の大部分を残すが他は欠損する。残存幅は約3.9cm、刃部の幅約2.7cmを測る。

【窯体内埋土】

須恵器 (50～64) 50～58は杯蓋で、口縁端部を嘴状に折り曲げるものであるが、58は突出が弱い。57はつまみが剥離しているがほぼ完形品である。50～53・56はボタン様、54は擬宝珠様のつまみを有する。55・58はつまみの有無は不



第13図 1号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図(1/3)

明である。51は笠状の断面形を呈し、特異な形である。天井部外面は54がへら切り未調整である。他は、いずれも天井部外面上半は回転へらケズリを行う。天井部内面はいずれも回転ナデ後ナデである。59は杯で、器壁がやや厚めの平底から口縁部が直線的に開く。底部外面はへら切り未調整、他は回転ナデである。60～63は杯身である。高台は断面四角形の低いもので、60はわずかに外方へ踏ん張る。口縁部は直線的に開くが、63は内湾気味に立ち上がる。底部外面は60がへら切り未調整の他はへらケズリである。いずれも内面は回転ナデされ、底部内面にはナデが認められる。64は長頸壺の肩部の資料である。肩部は稜を成し、下半の胴部は丸みを帯びる。肩部に沈線を巡らす。内外とも回転ナデを主に行うが、頸部内面には指頭痕が残る。

(3) 小結

1号窯跡は全長3.05m以上、平面寸胴プランの小型の直立煙道窯である。操業時期は窯体内出土遺物からVII B期と考えられる。

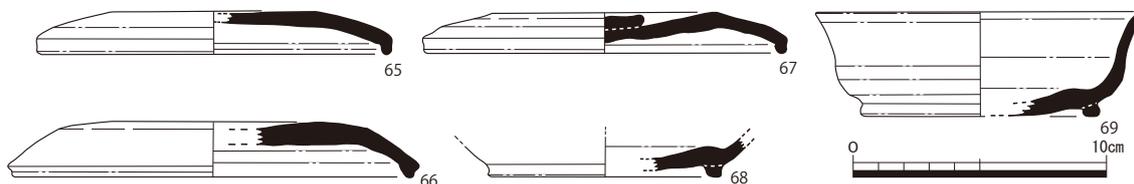
5. 2号窯跡

(1) 窯の構造 (図版7)

北側に3号窯跡が接する。断面の一部のみを確認したに留まるため詳細は不明であるが、小型の窯跡であることは間違いない。

(2) 出土遺物 (第14図)

【窯体内埋土】



第14図 2号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3)

須恵器 (65～69) 65～67は杯蓋である。いずれも口縁端部を折り曲げて肥厚させるものである。65・66はつまみの有無は不明であるが、67はボタン様につまみを付ける。いずれも天井部外面上半はへらケズリをし、内面は回転ナデ後ナデである。68・69は杯身である。断面方形の低い高台が付く。69は口縁部がS字状に湾曲しながら外反する。いずれも底部外面はへら切り未調整で、他は回転ナデである。

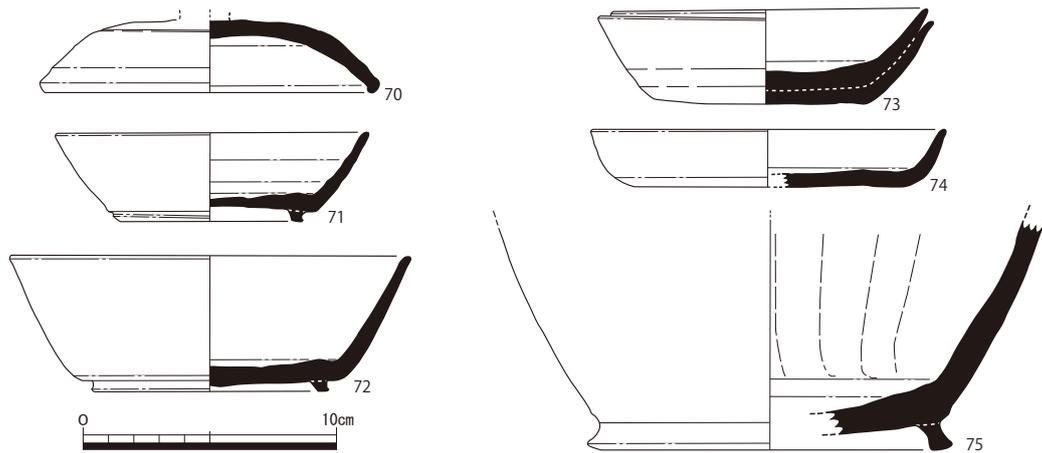
(3) 小結

規模・構造などの詳細は不明であるが、操業時期は窯体内出土遺物からVII B期と考えられる。

6. 3号窯跡

(1) 窯の構造 (図版7)

南側に2号窯跡が接する。断面の一部のみを確認したに留まるため詳細は不明であるが、小型の窯跡であることは間違いない。



第 15 図 3号窯跡表土層出土遺物実測図 (1/3)

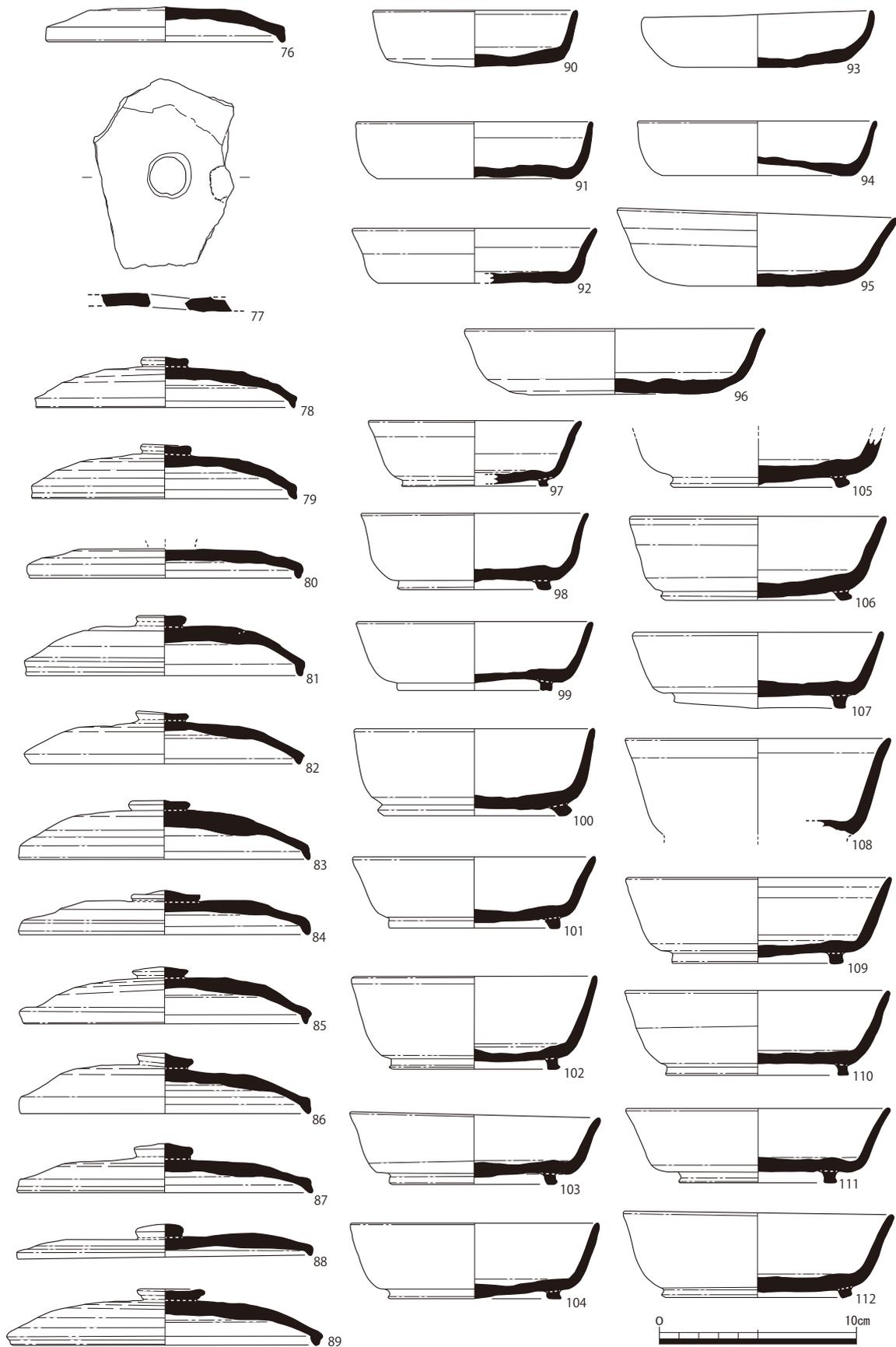
(2) 出土遺物 (第 15 ~ 18 図、図版 26・27)

【表土層】

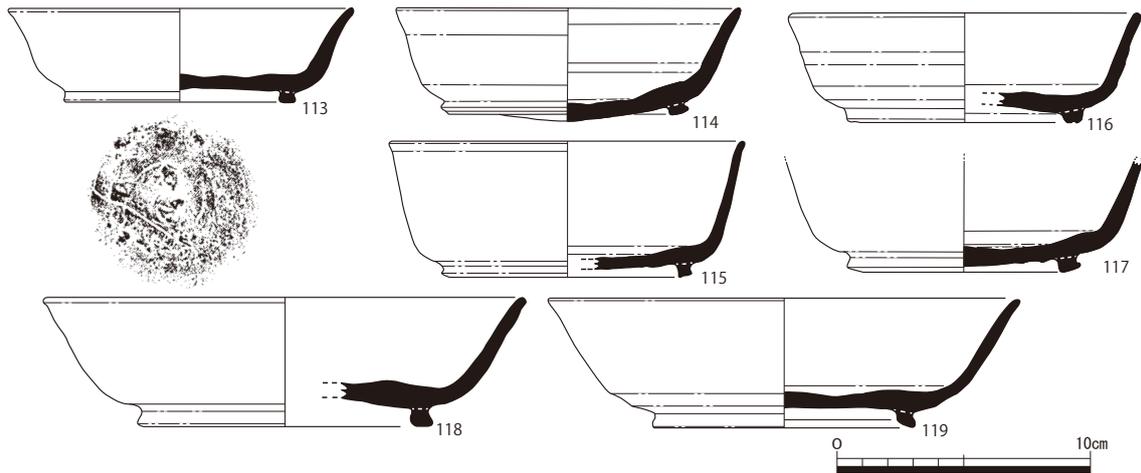
須恵器 (70 ~ 75) 70 は杯蓋である。丸味のある天井部で、口縁部端をわずかに折り曲げて肥厚させる。天井部につまみの剥離痕が残る。天井部外面はヘラ切り後工具ナデを、内面は回転ナデ後ナデを施す。71・72 は外方に突き出した高台を持つ杯身である。口縁部は直線的に開き、底部との境に稜を作る。いずれも底部外面はヘラ切り後ナデで、底部内面は回転ナデ後ナデ、他は回転ナデである。71 には底部外面に工具によるナデが格子状に残る。73 は杯で、重ね焼きにより 2 点が融着したものである。内面に火摺様の痕跡が残る。底部及び口縁部下半はヘラケズリされ、内面は回転ナデである。74 は皿である。底部外面はヘラ切り後ナデを、内面には回転ナデ後ナデを施す。75 は壺である。底部中央及び体部上半を欠く。高台は外方へ踏ん張り、端部を肥厚させる。底・体部外面には回転ヘラケズリを施し、体部内面は回転ナデ後縦方向の工具によるナデが施される。

【灰原上層】

須恵器 (76 ~ 134) 76 ~ 89 は杯蓋で、いずれも口縁端部を折り曲げて嘴状に肥厚させるものである。76 はつまみの無いもので、天井部外面はヘラ切り後ナデを、内面は回転ナデ後ナデである。77 はつまみの剥離痕がある天井部で、径 2 cm 弱の円孔が焼成前に穿たれる。80 はつまみがあるが形状不明。81・83 ~ 87 は擬宝珠様、78・79・82・88・89 はボタン様をつまみを有する。78 ~ 89 はいずれも天井部外面上半は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデである。全体的に丸味のある形態であるが、78・84・88 は比較的扁平である。80・81・84・85・88 はほぼ完形である。90 ~ 96 は杯である。90・91・94 は底部からほぼ直角に立ち上がる口縁部で、底部外面は 94 が回転ヘラケズリ、他はヘラ切り後ナデである。91 は工具状の当りを残す。93 は口縁部が内湾して立ち上がるもので、底部外面はヘラ切り後工具様のナデがある。92・95 は口縁部を中位で外反させる。底部外面は 92 はヘラ切り後工具様のナデ、95 が回転ヘラケズリである。95 の底部には板状圧痕が残る。96 は中型品で、口縁部は丸みを持ちながら立ち上り、端部付近をわずかに外反させる。底部外面はヘラ切り未調整である。いずれも底部内面は回転ナデ後中央付近をナデている。93 ~ 95 はほぼ完形である。97 ~ 119 は杯身で、断面方形の低い高台を有する。100・102・104 ~ 106・114・117 ~ 119 のよう



第 16 图 3 号窯跡灰原上層出土遺物実測図① (1/3)

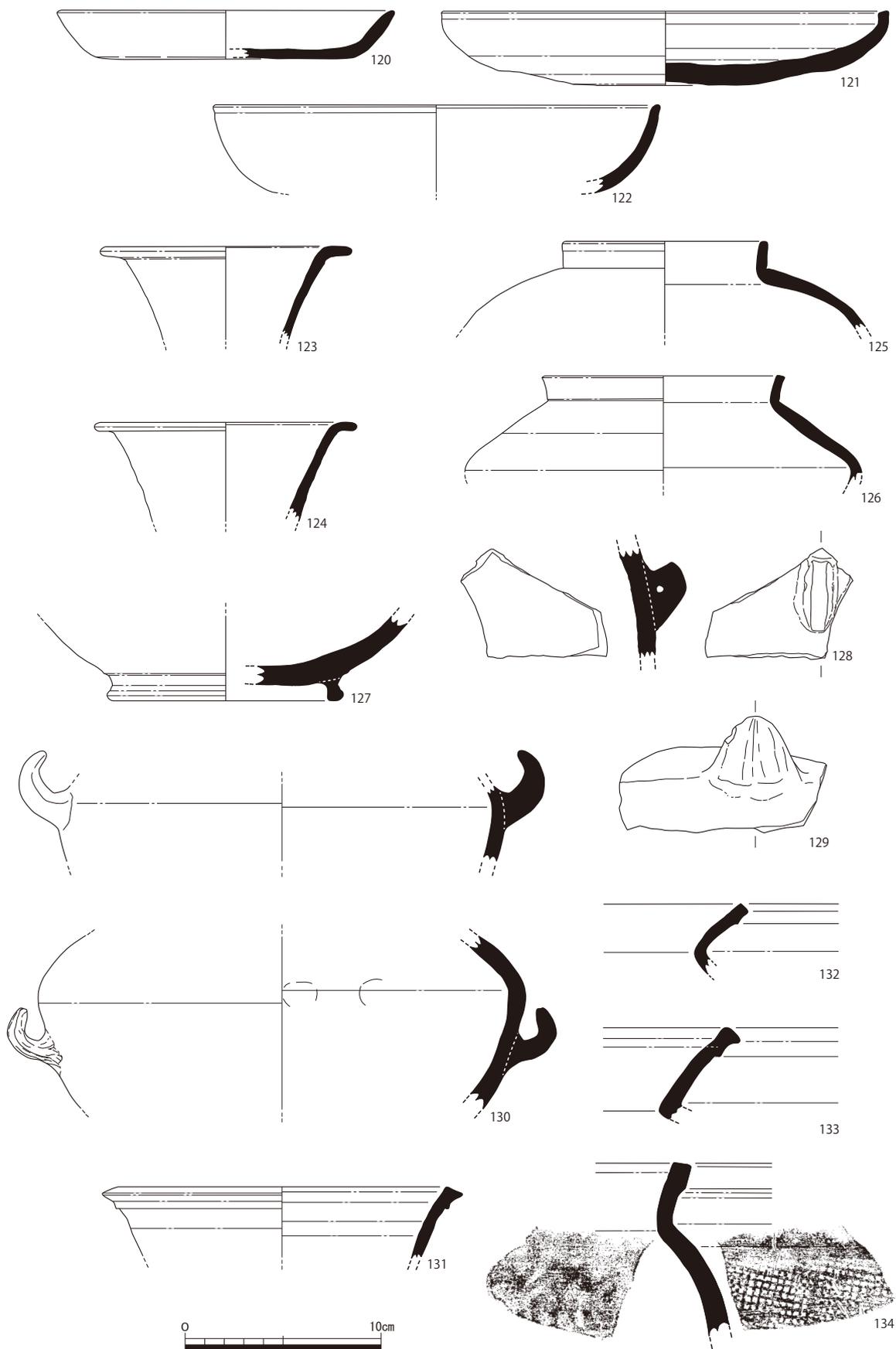


第 17 図 3号窯跡灰原上層出土遺物実測図② (1/3)

に端部を外方へ引き出すものもある。いずれも口縁部から体部は直線的に開くが、98・113のように中位でさらに外反するものがある。口径により小型（97・98）、大型（118・119）、中型に分かれ、108・115・117は深めである。底部外面は回転ヘラケズリ後ナデが多く、98・100・101・103・105～107・109・112・116・117はヘラ切り後ナデである。99・113はヘラ切り未調整、114はヘラ切り後ハケ状工具によるナデ、118はヘラ切り後回転ナデをそれぞれ施す。119は底部から体部との境までヘラケズリを施す。いずれも内面は回転ナデが主で、底部中央付近はナデである。120～122は皿である。120は口縁部が直線的に開き、底部外面はヘラ切り、内面は回転ナデ後ナデを施す。121は丸味のある底部を内湾させて引き上げ、端部を直に折り曲げて口縁部としている。口縁端部はやや内傾する平坦面を作り出し、形態的には高杯の杯部に似る。底部外面はヘラ切り後ヘラ状工具によるナデ、内面は回転ナデ後ナデを施す。122は内湾する口縁部で、底部を欠く。口縁端部はわずかに外方へ折り曲げる。内外面ともに回転ナデを施す。形態から盤とすべきかもしれない。123～130は壺である。123・124は長頸壺の口縁部の資料である。直線的にのびる口縁部は端部を水平に折り曲げ、外方へ引き出す。内外とも回転ナデである。125・126は短頸壺である。口縁部は短く直立するが、126は外方へ開き気味となる。内外とも回転ナデである。127は壺の底部で、端部が肥厚し外方へ踏ん張る高台が付く。底・体部外面はヘラケズリ、高台部周辺は強いナデを施す。128～130は把手付きの壺である。128は把手である。上方はヘラで面取り、中央から下方まではヘラケズリ後ナデを施し、中央に穿孔をおこなう。129・130は同じ形の把手が付くもので、129は壺の肩部、130は肩部よりやや下がったところに貼り付ける。129は体部内外面ともに回転ナデを施す。130は体部外面上半に回転ナデ、下半にナデを施し、体部内面は回転ナデである。内面肩部には把手貼付け時の指頭痕が残る。131～134は甕の口縁部である。131は端部を引出し断面三角形とする。132～134は端部を方形に肥厚させ、端部外面を窪ませる。口縁部内外面ともに回転ナデ仕上げである。134は体部外面に格子目タタキ痕、内面に同心円の当具痕が残る。

(3) 小結

規模・構造などの詳細は不明であるが、操業時期は大半が灰原出土のものであり、明確ではないが、VIIA～VII B期と考えられる。



第 18 图 3号窯跡灰原上層出土遺物実測図③ (1/3)

7. 4号窯跡

(1) 窯の構造 (図版7)

3号窯跡の北側に位置する。断面の一部のみを確認したに留まるため詳細は不明である。出土遺物はなく、操業期間等は不詳。

8. 5号窯跡

(1) 窯の構造 (第19図、図版8～11)

比較的残存状況が良好で、全形を知ることができる。平面寸胴形の地下式窖窯で、奥壁から2.05mの位置でやや絞りこみがあり傾斜が変わることから、焼成部と燃焼部の境にあたると思われる。この付近の床面には長軸1.0m、短軸0.5m、深さ0.2mの落ち込みがあり、舟底状ピットの可能性があり、操業時には埋め戻されていたと考えられる。焼成部幅は1.0～1.05m、長さ2.05mで、傾斜角度は25度である。焼成部床面には焼台が設置され、床面上で蓋杯を中心に須恵器が出土した。奥壁側の一部に天井部が残り、床面から天井部までの高さは約0.8mである。煙道は直立し、上面は直径0.4mほどの円形を呈する。焼成部境から北側は「ハ」字形に開き前庭部を形成する。窯の下方及び左右が土坑状に落ち込み、この部分には灰層を形成する。土層図を確認する限り、操業面は1面と考えられる。窯の主軸方位はN-37°-Eである。なお、後述するように、窯の南側(P1)北西側(P2)に土坑がある。

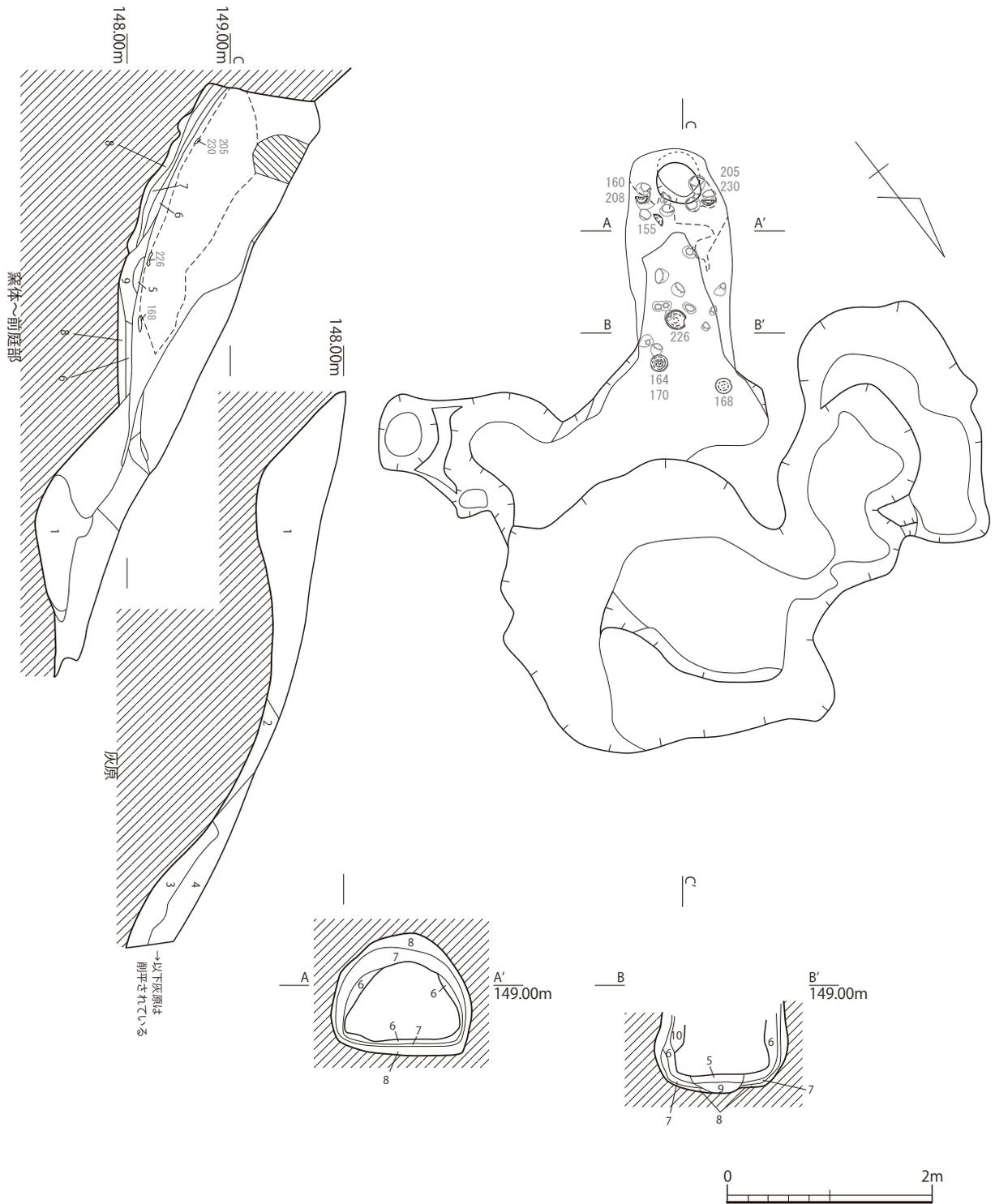
(2) 出土遺物 (第20～29図、図版28～35)

【表土層】

須恵器 (135～145) 135・136は杯蓋である。135は口縁端部を折り曲げるが突出は弱い。高めのボタン様のつまみを有し、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデを施す。136は口縁部にカエリを付けるものである。擬宝珠様のつまみを有し、天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、内面は回転ナデ後ナデである。別個体の残片が天井部に付着しており、重ね焼きの痕跡が認められる。137～139は杯で、口縁部はいずれも直線的に開く。137は底部外面に不定方向のヘラケズリ、内面はナデである。138・139は底部外面にヘラ切り後ナデを施すが、138の底部は丁寧なナデである。140・141は杯身で、口縁部は直線的に外方へのびる。140は断面四角の短い高台が付く。底部外面はヘラ切り後ナデを施す。141は底部を欠く。口縁部内外面ともに回転ナデを施す。142・143は皿である。どちらも口縁部は直線的で、短く外反する。いずれも内面と口縁部外面は回転ナデを施す。142の底部外面はヘラ切り未調整で、143は底部外面に板状圧痕が残る。144は壺の蓋で、扁平な擬宝珠様のつまみを有する。口縁部はほぼ直角に折り曲げ端部は丸く仕上げる。天井部外面中央はヘラ切り後ナデ、口縁基部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、天井部内面には回転ナデ後ナデを施す。145は把手片である。ヘラにより耳形に成形され、上位に穿孔がある。水瓶等に付く把手か。

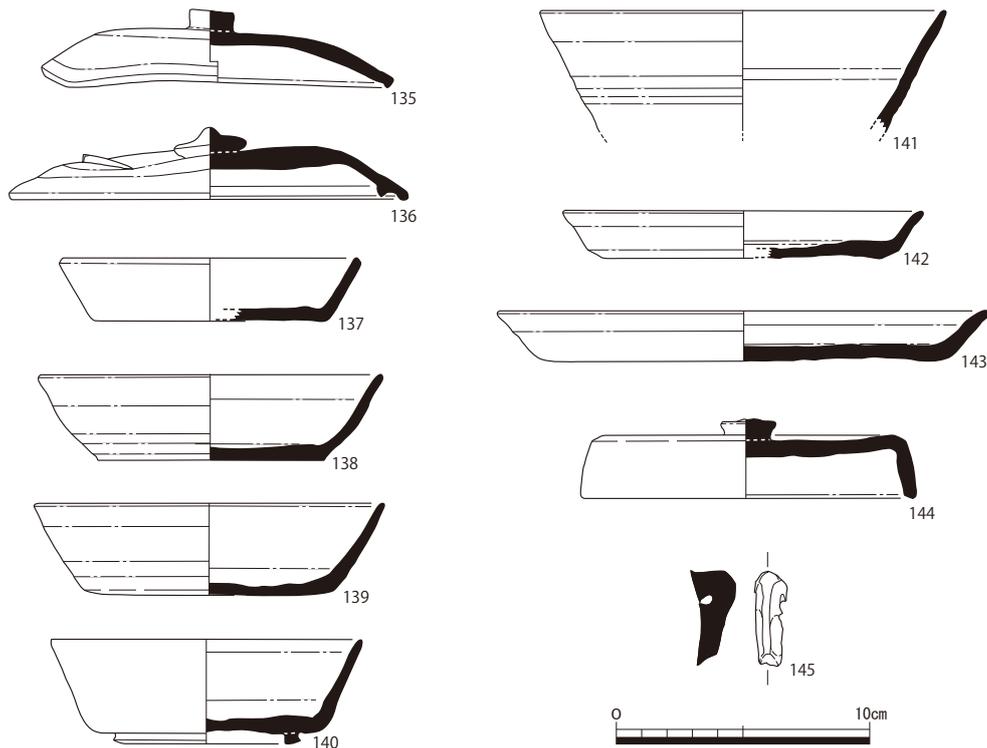
【窯体内埋土】

須恵器 (146～234) 146～185は杯蓋である。155はつまみが剥離して不明だが、147～154・156～159は擬宝珠様のつまみを、他はボタン様のつまみを付ける。天井部が膨らみを持つもの



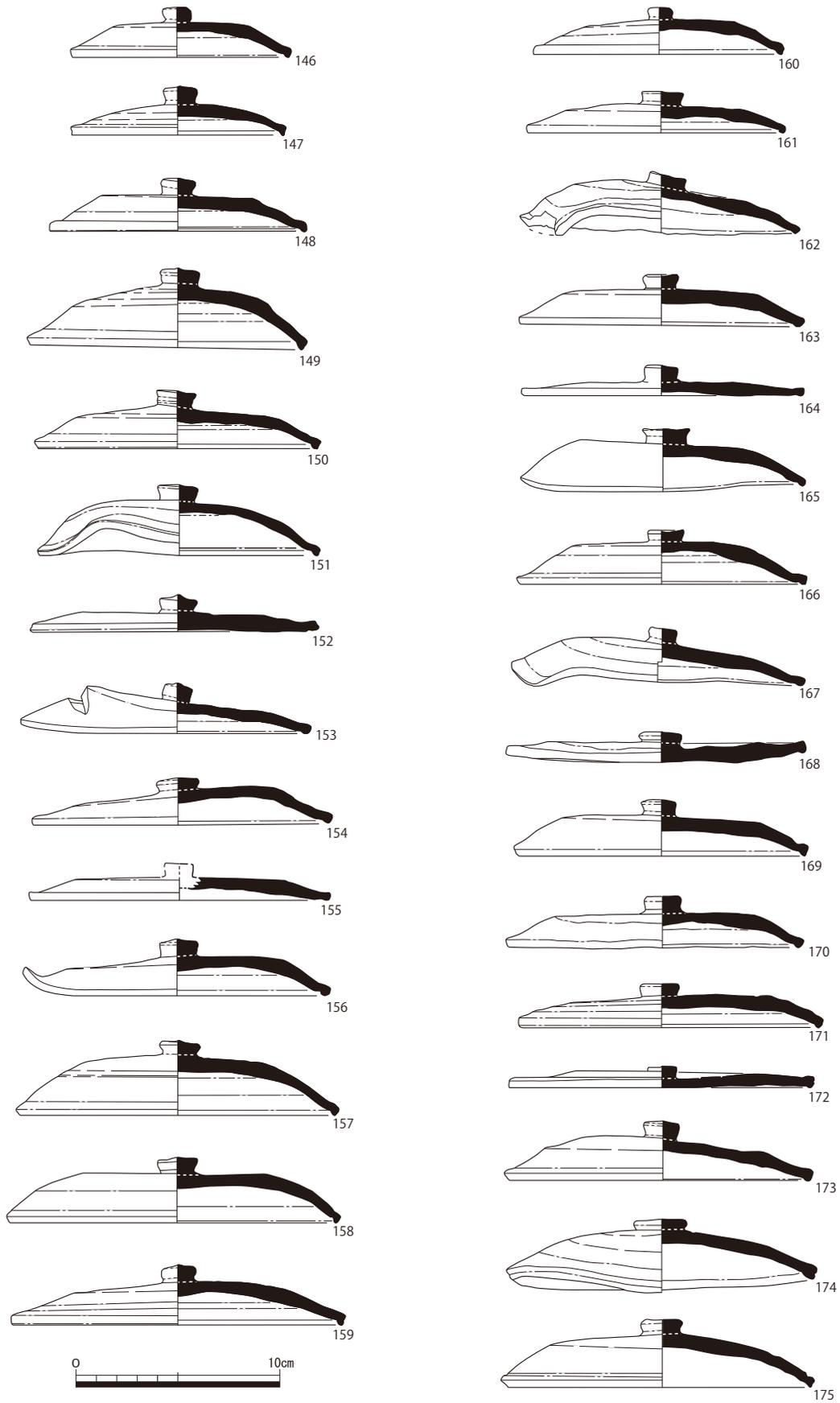
- 1 黒色土層 Hue10YR1.7/1 純粋な灰原 色調は10YR1.7/1よりむしろ鉛筆の芯の色といった方が近い 焼土(窯体の部分)と地山の土がブロック状に混入する
- 2 黄褐色土層 Hue10YR5/6 地山と灰層の漸移層 10YR5/6の地山に灰原の土がしみ状に混ざる
- 3 黒色土層 Hue10YR1.7/1 基本的には1層に同じだが窯体の部分・地山の土等の混入量が多い
- 4 黒色土層 Hue10YR1.7/1 3層よりも混入物が多く灰原の方が少ない むしろ焼土及び壁・天井の土などの層というべきであろうか
- 5 暗灰黄色土層 Hue2.5Y5/2 この5層と9層の部分はここだけ土を入れ替えたものと思われる
- 6 灰白色土層 Hue2.5Y8/1 花崗岩/パイラン土が直接焼成をうけた部分 ブルーチーズのような色調である
- 7 にぶい赤褐色土層 Hue5YR4/3 焼成を受けて赤変している
- 8 明赤褐色土層 Hue5YR5/6 この層までが赤変している
- 9 褐灰色土層 Hue10YR4/1 炭化物が混入する土層 窯やカマドからかき出したような土である この部分にピットを掘りこの9層の土をつめ、それが直接火を受けて5層のように変わったのであろうか?

第19図 5号窯跡実測図 (1/60)

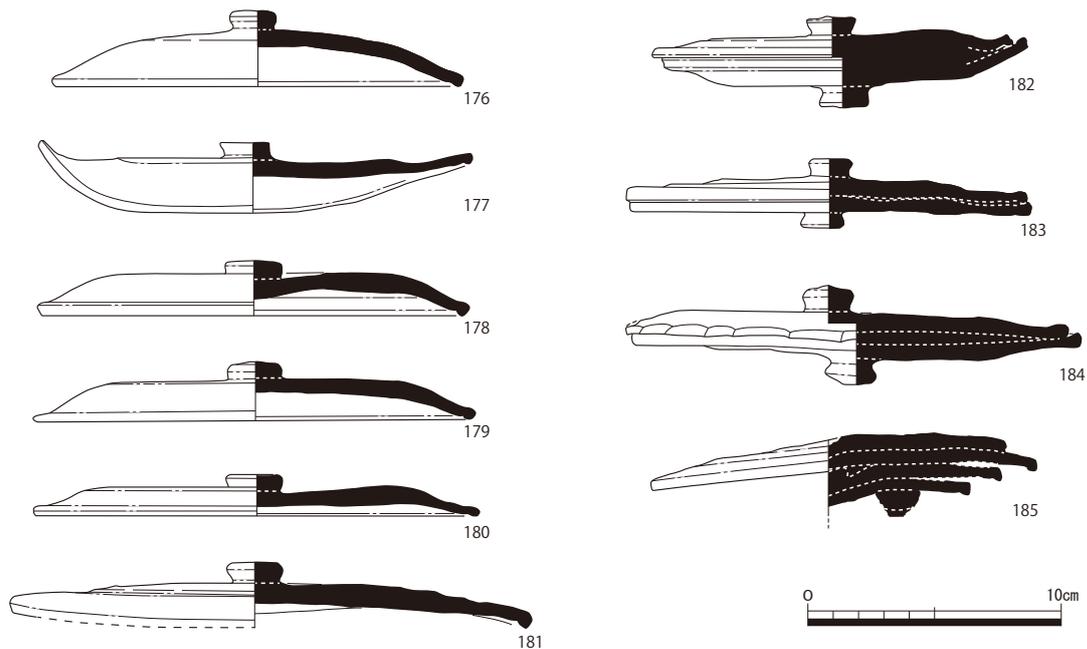


第 20 図 5号窯跡表土層出土遺物実測図 (1/3)

が大勢であるが、扁平なもの（152・155・164・168・172・182～185）がある。扁平なものは口縁端部の折り曲げは弱く、端部内面に沈線を巡らすものがある。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施すものが多いが、147・148・150は回転ヘラケズリ、153は天井部調整後にカキメ状圧痕が残る。157・159・168・169はヘラ切り後工具様ナデ、158はヘラ切り後丁寧なナデを施す。146・178～180は回転ヘラケズリ後ナデ、165・174・175・181は回転ヘラケズリ、166は板状圧痕が残る。167はヘラ切り未調整、172はハケ状圧痕が残る。182～185は重ね焼きで融着した資料である。いずれも扁平な蓋を重ねたもので、内面どうしを重ねたものが多いが、185は外面を5～6点重ねて焼いている。いずれも天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデである。186～193は杯である。ほぼ同様な形態で、口縁部は直線的に開く。190は焼け歪みがある。186はヘラ切り後ハケ状工具でナデている。187は底部外面にヘラ切り後ナデを施し、底部と体部の境にケズリを施す。188はヘラ切り後板状工具によるナデ、190の底部外面はヘラ切り後ナデている。189・191～193は底部外面をヘラ切り後工具状でナデる。194～213は杯身である。口径により小型、中型、大型がある。いずれも口縁部は直線的にのびる形態であるが、202は内湾気味に立ち上がる。また、212は中位でわずかに外反する。底部外面の調整はヘラ切り後ナデ、底部内面は回転ナデ後ナデであるが、194は底部外面がヘラケズリである。199はヘラ切り後板状工具によるナデを施し、200はヘラケズリ後ヘラ状工具によるナデである。203は底部外面にヘラケズリを施し、板状圧痕が残る。ヘラ記号を有する。208は底部内面に工具によるナデを施す。209は底部外面にヘラ切り後のハケ状工具痕が多く残る。211は高台貼付け時の工具によるオサエ痕が残る。214～228は皿である。214・223は底部が丸くなる形態で、他の物とは形態を異にするがここで扱う。214は底部外面



第 21 图 5 号窑迹窑体内埋土出土遗物实测图① (1/3)



第 22 図 5号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図② (1/3)

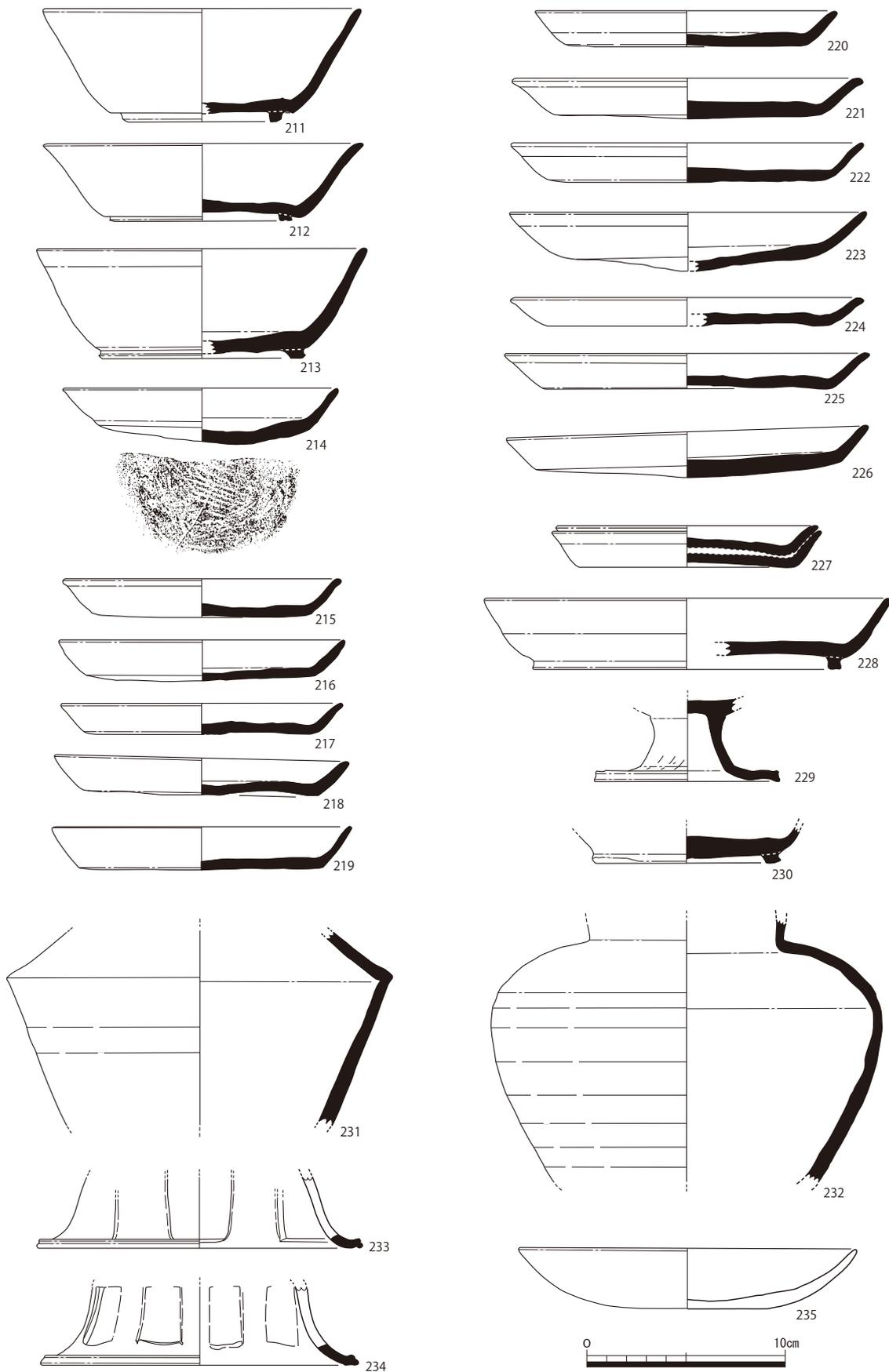
をヘラ切りし、その後にハケ状工具痕が残る。223 は焼け歪みの影響があるかもしれないが、尖り気味の丸底となる。底部外面はヘラ切り後ナデ、他は回転ナデである。215 ～ 222・224・225 は平坦な底部で、直線的に短く開く口縁部を持つもので、ほぼ同様の形態を示す。底部外面はヘラ切り後ナデ、内面は回転ナデ後中央部をナデる。226 はやや尖り気味の底部で、底部外面はヘラ切り後工具によるナデを施す。内面は回転ナデ後ナデを施す。227 は重ね焼きの例で同器種 2 枚が融着している。228 は高台の付く大型のもので、高台端部はわずかに外に開く。底部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデを施す。229 は短脚の高杯である。杯部を欠く資料で、脚裾は横方向に引き出され、端部は外側に平坦面を作る。脚部内面は回転ナデ、外面は上半が回転ナデ、下半はナデである。脚部から裾部へかけてシボリ痕が残る。230 ～ 232 は壺である。230 は底部のみの資料で、四角形でやや外に開く低い高台を有する。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はヘラ切り後ナデを施す。231 は長頸壺の体部で、肩部が屈曲して稜を成す。内面と外面上半は回転ナデ。外面下半はヘラケズリを施す。232 は短頸壺で、口縁端部及び底部を欠く。口縁部はほぼ垂直に立ち、肩部が丸みを帯び、底部に向かってすぼまる形態を示す。体部内面上位から中位は回転ナデ、内面下位は縦方向の工具によるナデである。体部外面は上位が回転ナデ、中位から下位は回転ヘラケズリを施す。233・234 は圈足円面硯である。いずれも細片であるが、復元脚裾径約 16cm 前後である。脚部は裾部に向かって緩く外反し、端部を肥厚させる。どちらも長方形の透かしを施す。それぞれの辺をヘラにより丁寧に面取りする。透孔の幅は 3.5cm で、端部の形状も随伴する。透かし穴は 8 カ所と推測される。

なお床面出土の遺物は第 19 図に示す通りである。

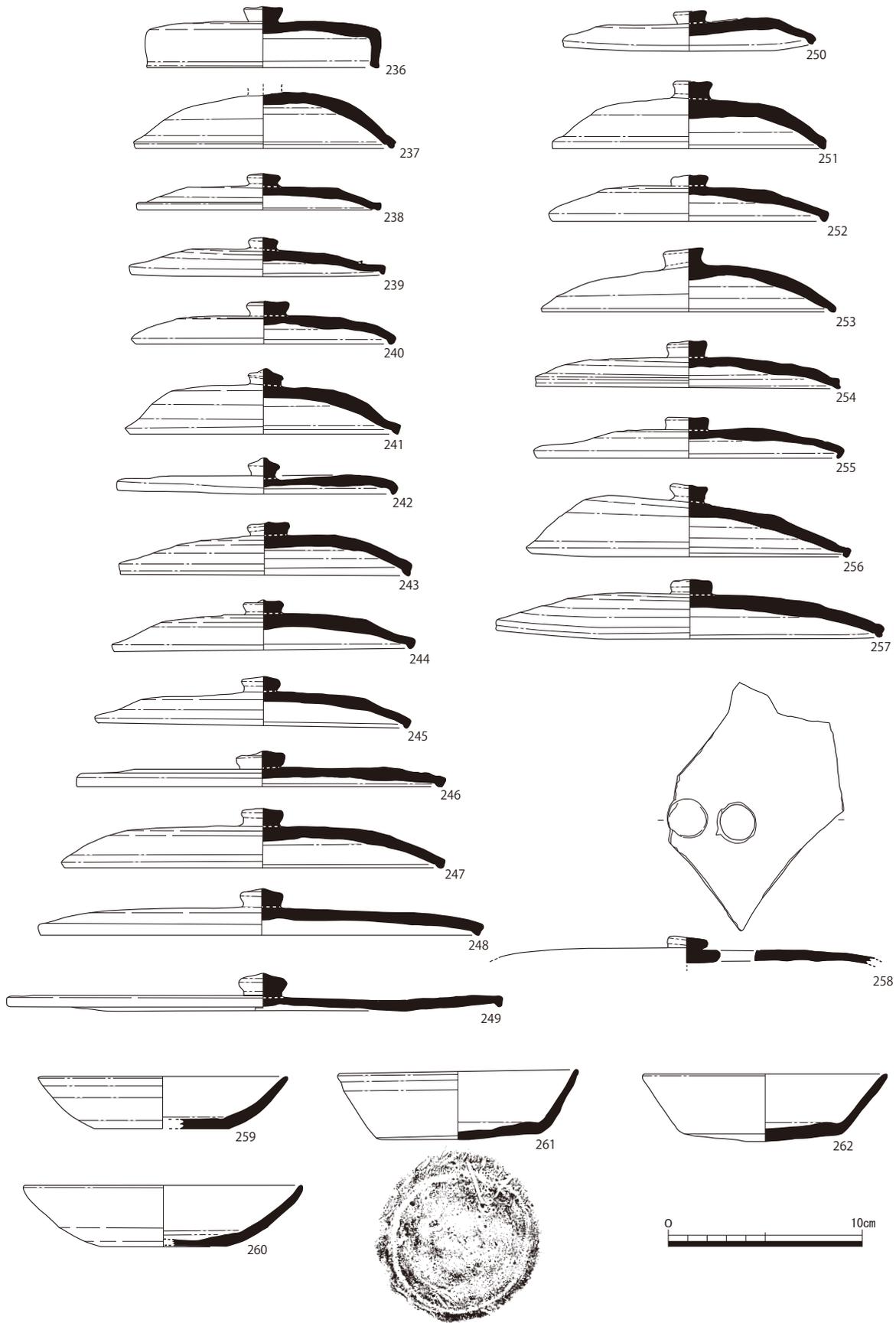
土師器 (235) 235 は杯である。平坦にヘラケズリされた底部から緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部に至る。体部内外とも回転ナデを行うが、一部研磨痕が残る。



第 23 图 5 号窑迹窑体内埋土出土遗物实测图③ (1/3)



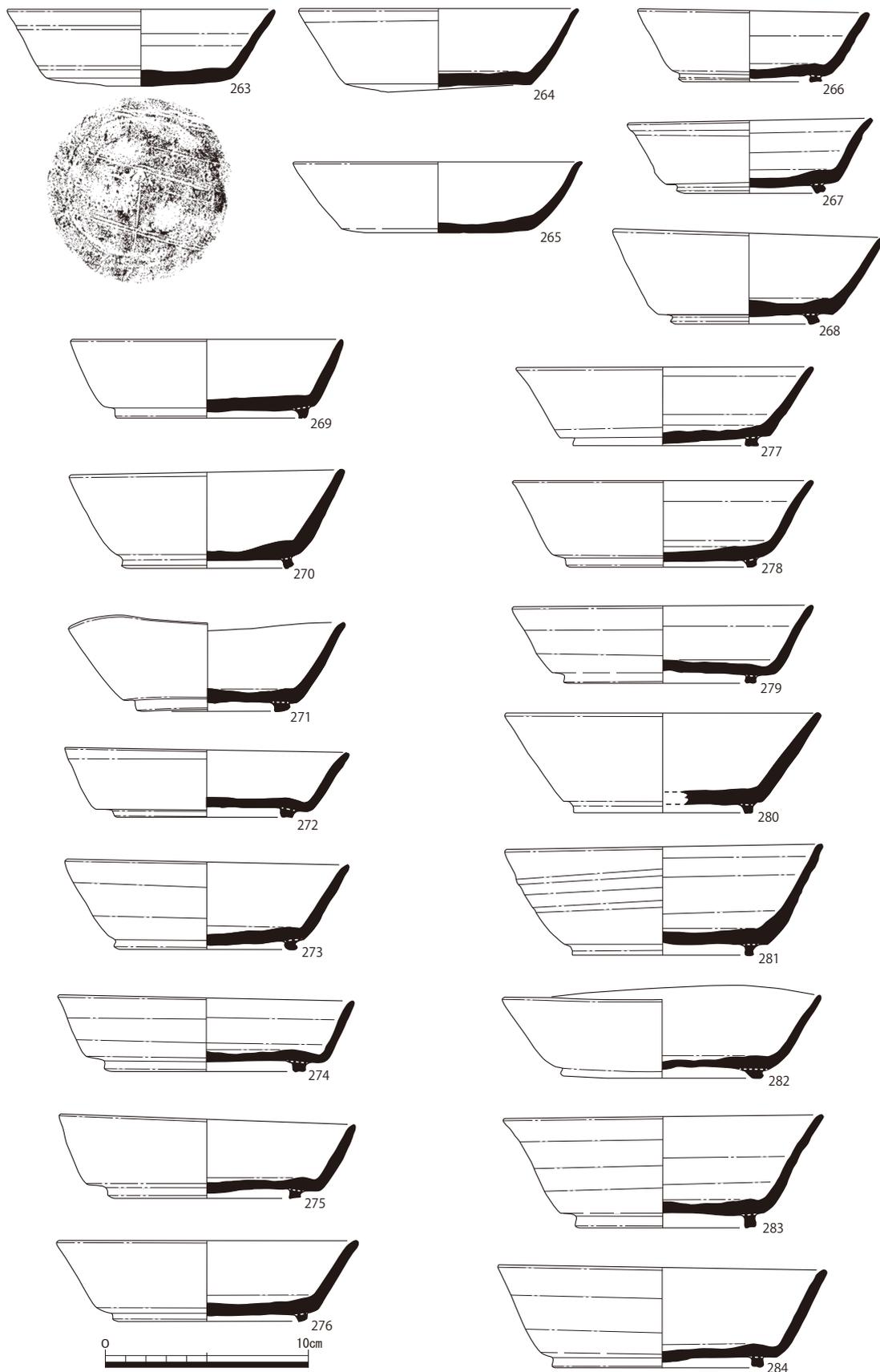
第 24 图 5 号窑迹窑体内埋土出土遗物实测图④ (1/3)



第 25 图 5 号窯跡灰原出土遺物実測图① (1/3)

【灰原】

須恵器 (236 ~ 319) 236 は蓋である。擬宝珠様のつまみを有し、口縁部は直角に折り曲げ、端部は平坦面となす。天井部内面は回転ナデ後ナデである。237 ~ 258 は杯蓋である。237 はつまみが剥離しているが全てつまみが付く。238 ~ 249 は擬宝珠様、250 ~ 258 はボタン様のつまみを有す。天井部が丸みを帯びるもの (237・241・251・253・256) と扁平なもの (242・246・248・249)、その中間的なものがある。いずれも口縁端部の屈曲は弱く、嘴状に突出させるものは少ない。239・240・244 ~ 249 は天井部外面をヘラケズリする。いずれも天井部内面は回転ナデ後ナデである。250 ~ 258 は天井部外面がヘラ切り後ナデ、天井部内面は回転ナデ後ナデを行う。252・254・255・258 は天井部外面をヘラケズリ、257 は天井部外面をヘラ切り後板状工具でナデている。258 は口縁端部を欠く。つまみの横に径 2 cm 弱の穿孔を焼成前に穿っている。250・251・254 ~ 256 はほぼ完形品である。259 ~ 265 は杯である。259・260 は平坦な底部から口縁部が緩やかに内湾して立ち上がるものである。土師器杯Dの模倣品と思われる。259 は底部外面を水平にヘラケズリし、底部内面にナデを施す。260 は底部外面中央に回転ヘラケズリ、底部と体部の境に回転ヘラケズリ後ナデを施し、底部内面は回転ナデ後ナデである。261 ~ 265 は口縁部が直線的に開く。264・265 は口縁端部がわずかに外方に突き出す。底部外面は 261 がヘラ切り後ナデだが、原体不明の圧痕が多く残る。底部内面はいずれも回転ナデ後ナデを施す。262・264 はヘラ切り後ナデ、263 はヘラケズリ後ナデで、原体不明の圧痕が残る。265 はヘラ切り後板状工具によるナデを施す。266 ~ 288 は杯身である。口縁部は直線的にのびるが、272・279・283 は口縁部の中位でさらに外反する。口径により小型、中型、大型がある。また、283・286・287・288 のように深めのものがある。いずれも底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、底部内面は回転ナデ後ナデが主である。他は、279 が底部外面に回転ヘラケズリ後ナデ、267・270・276・277・279 ~ 281・285・287 は底部内面にナデを施す。289 ~ 296 は皿である。289・294・295 は底部が直線的であるが、290 ~ 293 は底部が丸みを持つ。口縁部は直線的に開いて立ち上がるが、上半は外反す。289 は回転ヘラ切り後工具状のナデ、294 はヘラ切り後ナデ、295 はヘラ切り後板状工具によるナデを施す。いずれも底部内面は回転ナデ後中央部ナデである。292 の底部外面はヘラ切り後板状工具によるナデ、他はヘラ切り後ナデを施す。291・294・295 はほぼ完形品である。296 は高台を有するもので、口縁部は直線的に立ち上がる。底部外面はヘラケズリ、内面には板状工具によるナデを施す。297・298 は高杯である。297 は短脚の高杯脚部である。脚端部は上下に拡張し、外面平坦部は凹線状を呈する。脚部内面は回転ナデとナデを施し、指頭痕跡が残る。脚部外面には回転ナデを施す。298 は長脚の高杯で、脚端部を下方に拡張し外方に平坦面をつくる。脚部内面はナデ、脚部外面は回転ナデで、脚部内外面にシボリ痕が残る。299 ~ 307 は壺である。299 ~ 301 は短頸壺である。口縁部が直立し、口縁端部に平坦面を有する。299 は低く踏ん張る形態の高台が付く。口縁部は直立し、胴部最大径は上位にある。体部内面は回転ナデ、底部内面はナデを施す。体部外面上位は回転ナデ、体部外面中位はヘラケズリ後ナデ、体部外面下半から底部外面は回転ヘラケズリを施す。300 は口縁部・体部内外面ともに回転ナデ、301 は口縁部・体部内面と外面上半に回転ナデ、体部外面下半に回転ヘラケズリを施す。302・303 は壺の口縁部で、口縁端部を上方につまみ上げる。いずれも口縁部内外面とも回転ナデ

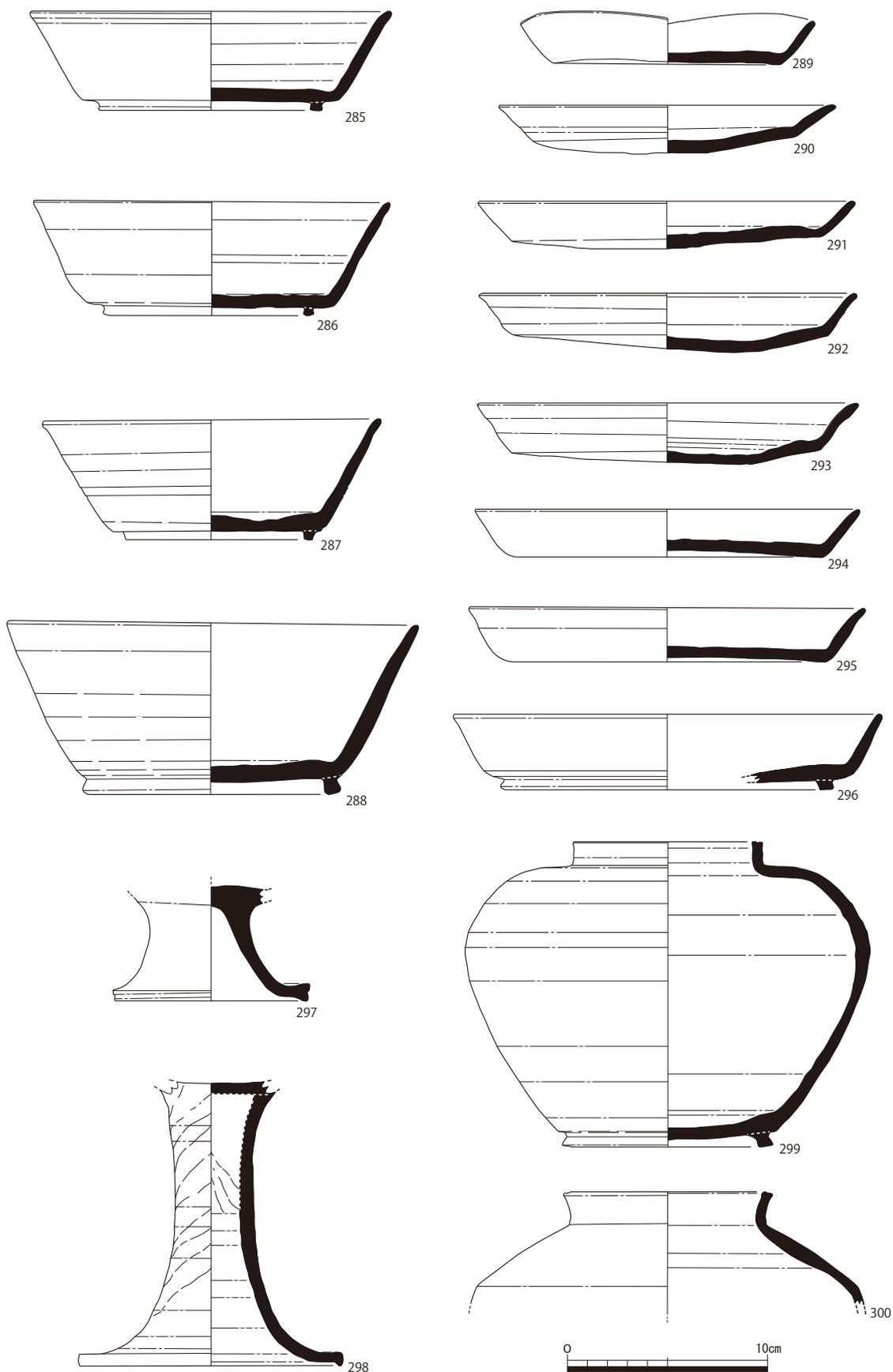


第 26 图 5 号窑迹灰原出土遗物实测图② (1/3)

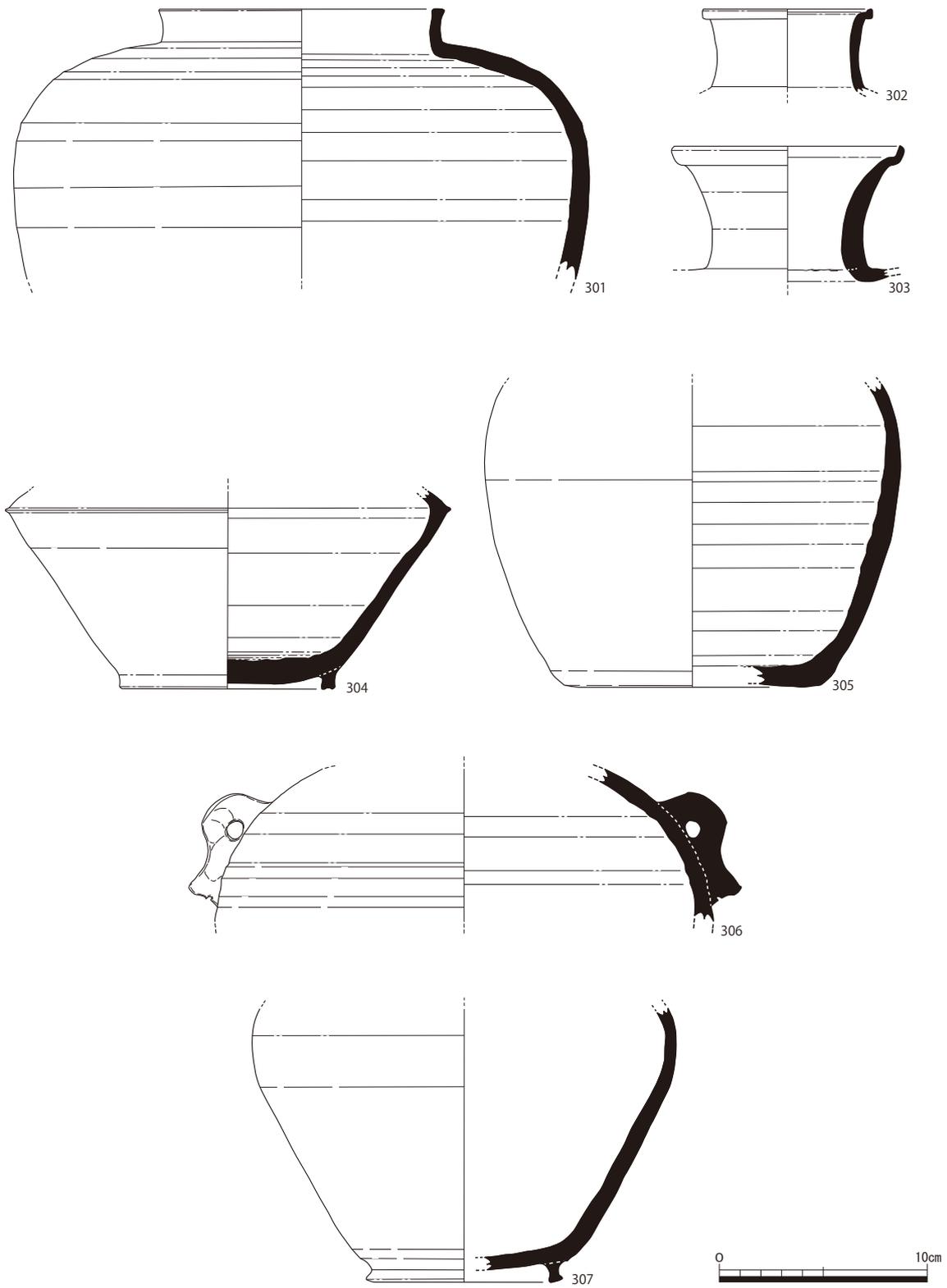
を施す。304は長頸壺の体部である。直立する高台を底部と体部の境に貼り付ける。体部から底部内面は回転ナデ、体部外面中位が回転ヘラケズリ後ヘラ状工具によるナデ、下半は回転ヘラケズリを施す。外底部は回転ヘラケズリ後ナデ、中央部は回転ヘラケズリ後ヘラ状工具によるナデを施す。305は平底の体部で、口頸部を欠く。体部内外面とも回転ナデ、底部内面は回転ナデ後ナデである。底部外面は工具によるナデ、底部と体部の境の外面には回転ヘラケズリを施す。306は双耳付瓶子である。体部内面は回転ナデ、体部外面はヘラケズリを施す。耳部は穿孔を有し、耳部上面と耳部穿孔横を面取りする。耳部穿孔横は指オサエ痕が残る。307は高台を有する体部である。高台は外方に突き出し、体部から底部内面は回転ナデ後ナデ、体部外面上半は回転ナデ、下半は回転ヘラケズリを施す。308は甕である。口縁部を帯状に厚く作り、凹線状に仕上げる。口縁部は内外面ともに回転ナデ、体部外面は格子目タタキ、体部内面は同心円の当具痕が残る。309～311は鉢である。309は口縁部から体部が直線的で、口縁部・体部内面と体部外面上半は回転ナデ、体部外面下半はヘラケズリを施す。底部外面はヘラ切り後丁寧なナデで仕上げる。310は鉄鉢形鉢で、底部を欠く。体部は内湾しながら伸び、上位を大きく内湾させ、口縁部を作る。口縁部は端部をわずかに肥厚させて内傾する平坦面を作る。体部内面上半は回転ナデ、体部内面下半は縦方向のナデである。口体部外面下半は回転ヘラケズリを施し、中位は研磨している。311は「く」の字に屈曲する口縁部で、体部は丸みを帯びている。口縁部は内外面ともに回転ナデ、体部内面は縦方向のナデ、体部外面は板状工具による回転ナデを施す。312・313は稜椀である。底部を欠く資料で、直線的にのびる体部の先端を外方へ折り曲げ口縁部とする。口縁端部は外傾する平坦面をなす。体部中位を屈曲させ、外側に明瞭な稜を作り出す。体部内外面ともに回転ナデである。312・313は同じような形態だが細部をみると別個体である。314は陶臼で、基底部のみの資料である。外底面に刺突が顕著に認められ、内面は平滑である。315～317は不明製品である。315は薄く小さな耳に似た形態のもので、器物に貼り付ける把手様のものである。手づくね成形だが縁辺部はヘラケズリ、ナデ等で整えている。316は筒に鏝を取り付けた形態で、類例不明である。内外面ともに回転ナデを施す。317は細長い板状のもので、一端は直角に折れ曲がる。各辺をヘラにより面取りし、他は丁寧にナデている。ナデと指頭痕が残る面がある。平瓶等の把手か。318・319は硯である。318は円形硯で、一部を欠くが、ほぼ完形である。皿の底部内面の周縁部を窪ませ海とし、中央部分を陸とする。陸の一角を底部ごと押し下げて墨溜の窪みを作ると同時に、底部外面に小突起をつくり脚の一つとする。底部外面には高さ1cmほどの柱状の粘土塊を2ヶ所貼付し、先の小突起と合わせて三脚とするが、小突起（墨溜）が低い斜めの状態で、風字硯のような使い方となる。319は圈足円面硯で、脚裾部の復元径22cmを測る。脚は直立気味で、裾を横方向に引出し、端部を小さく丸める。脚に長方形・円形の透孔を交互に施す。また、円孔上位に沈線を巡らす。

(3) 小結

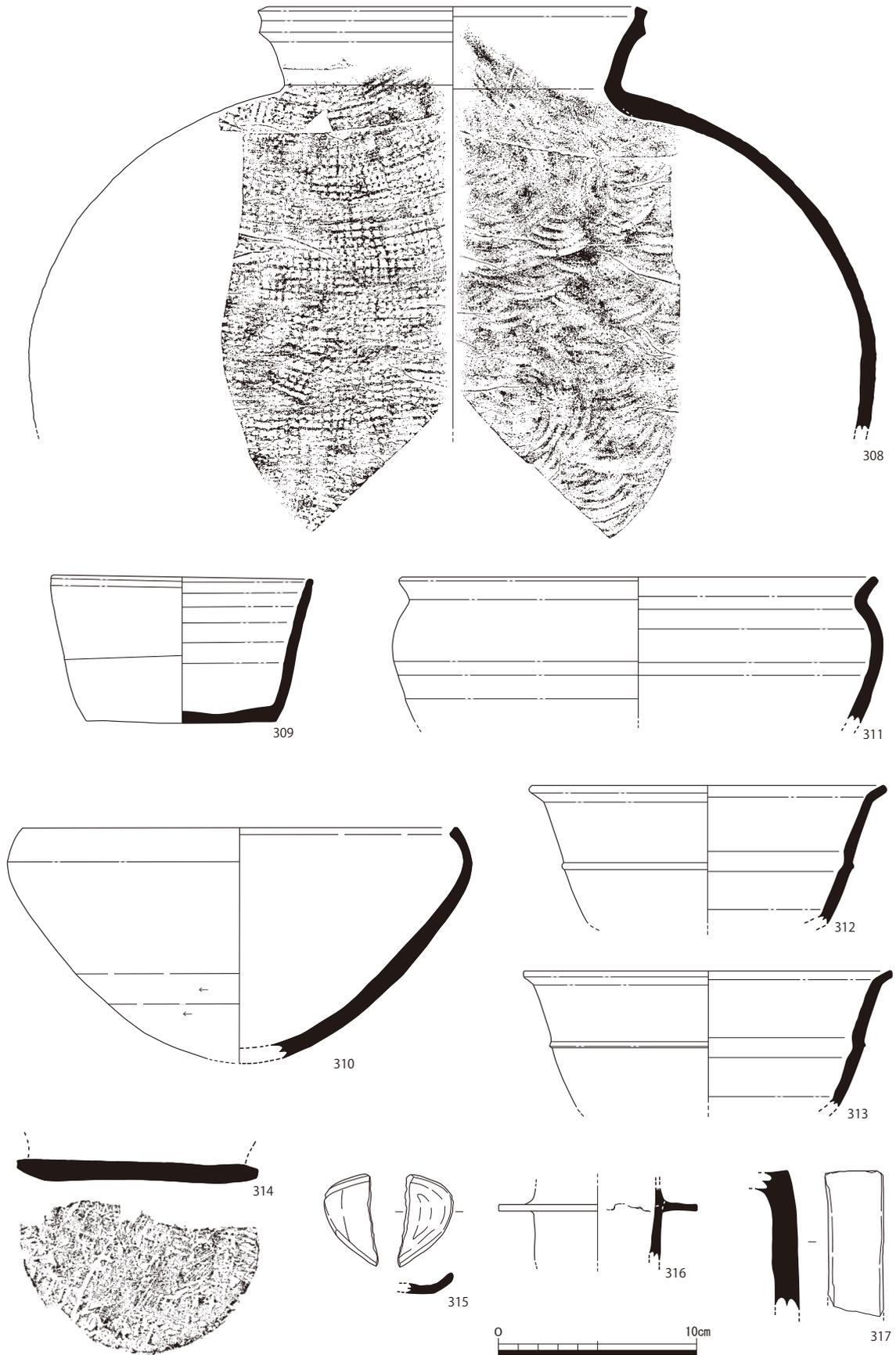
5号窯跡は全長約3m、平面寸胴プランの小型の直立煙道窯である。操業時期は焼成部床面出土遺物からVII B期と考えられる。



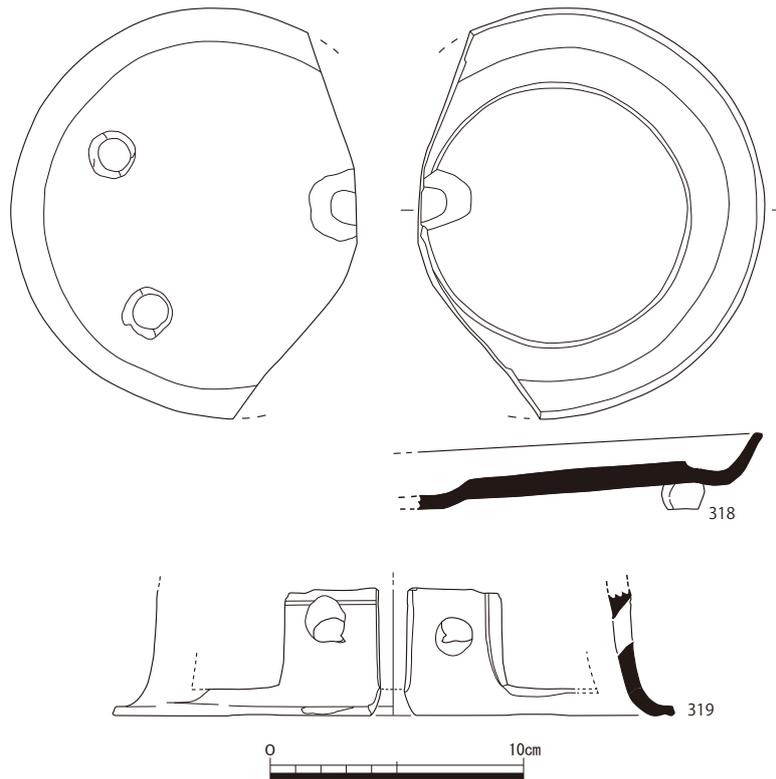
第 27 图 5 号窑迹灰原出土遗物实测图③ (1/3)



第 28 图 5 号窑迹灰原出土遺物実測图④ (1/3)



第 29 图 5 号窑迹灰原出土遗物实测图⑤ (1/3)



第 30 図 5号窯跡灰原出土遺物実測図⑥ (1/3)

9. 5号窯跡周辺土坑 (P 1・P 2)

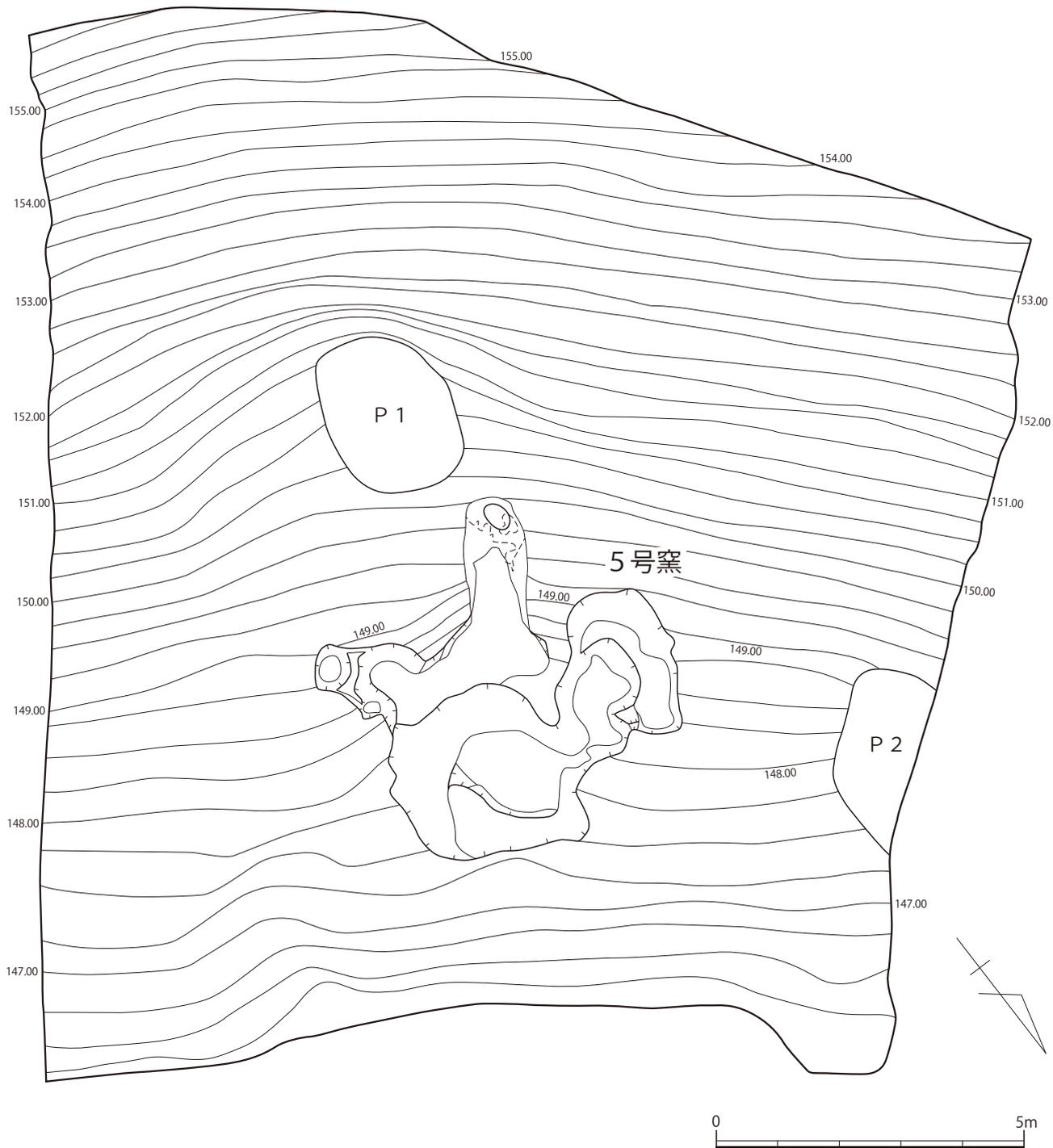
(1) 遺構の構造 (第 31 図、図版 10)

5号窯の南側と北西側に土坑があり、それぞれP 1、P 2と遺構番号を付している。P 1は長軸2.8 m、短軸2.0 mの楕円形である。P 2は一部調査区外に広がるため全形は不明であるが、長軸2.7 m、短軸1.3 m以上の楕円形である。埋土中から5号窯跡と同時期の須恵器が出土しており、窯の操業に関わる遺構と考えられるが詳細は不明である。

(2) 出土遺物 (第 32～34 図、図版 35・36)

【P 1】

須恵器 (320～334) 320～323は杯蓋で、口縁端部の嘴状の突起は弱いものである。322は天井部を欠き、つまみの有無は不明である。320はつまみが剥離しており、形態は不明である。321・323はボタン様につまみを付ける。いずれも天井部外面はヘラ切り後ナデと回転ナデ、天井部内面は回転ナデ後ナデを施す。323はほぼ完形である。324は杯である。丸みを帯びた底部から直線的に外方へのびる口縁部である。底部外面はヘラ切り後ナデ、底部内面は回転ナデ後ナデである。325・326は杯身である。325は完形であるが焼け歪みが著しい。口縁部は直線的に外方へのびる。底部外面はヘラ切り、内面はナデである。326は口径20.6cmを測る大型の深いもので、直線的にのびる口縁部は端部を小さく外方へ丸める。高台はずんぐりとして、口縁と底部の境に貼付する。底部外面は回転ヘラ切り、内面はナデ、体部外面は回転ヘラケズリを施す。327・328は皿である。327は口縁部がわずかに外反する。底部外面はヘラケズリ後ナデ、内面は回転ナデ後ナデを施す。

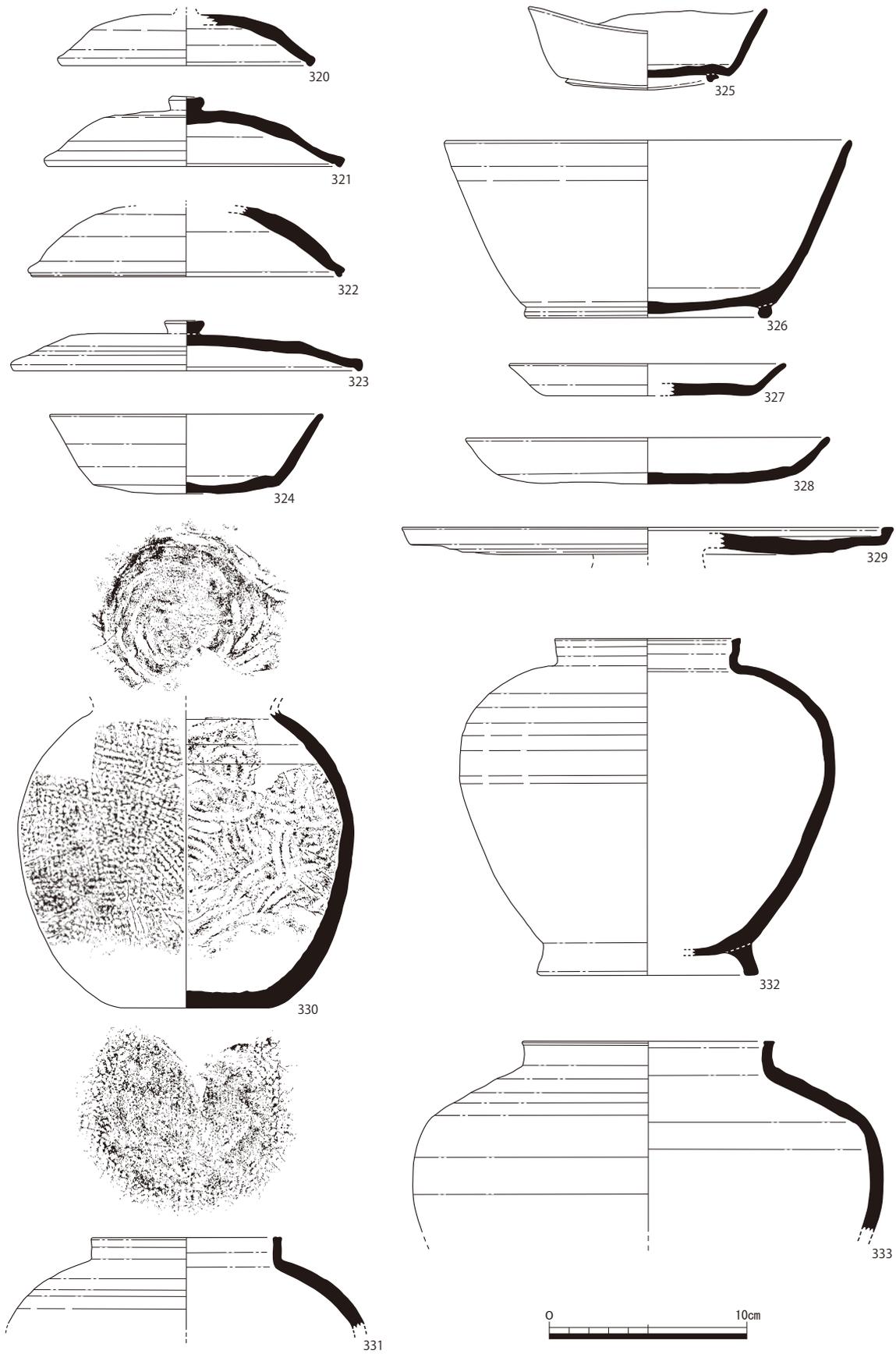


第 31 图 D地点 5号窑迹周边地形测量图、P 1 · P 2 配置图 (1/100)

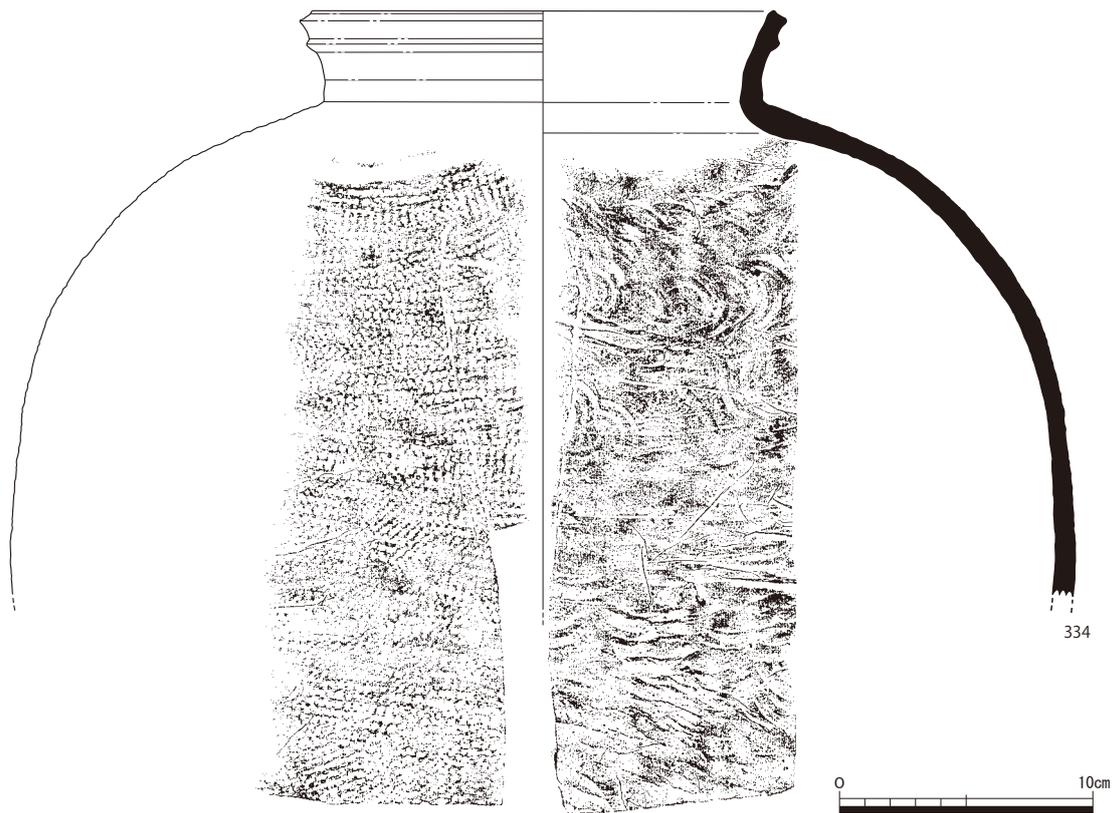
328 は底部が丸みを帯び、口縁部は緩やかに立ち上るため、口縁部と底部との境の屈曲が弱い。底部外面はヘラ切り後ナデ、内面はナデ、体部内外面は回転ナデ後ナデを施す。329 は高杯である。杯部片の資料で、脚部を欠く。口縁端部を上方に小さく折り曲げ、端部は拡張させ面をなす。底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデである。330 ～ 333 は壺である。330 は平底の広口壺で、口頸部を欠く。胴部最大径を中位に置く。外面は体部が格子目タタキ、底部がタタキ後不定方向のナデを施す。内面は同心円文の当具痕が底部まで残り、底部は当具の後ナデを施す。331 ～ 333 は短頸壺である。331 は口縁部がわずかに内傾する。体部内面と外面上位は回転ナデ、体部外面中位は回転ヘラケズリを施す。332 は内湾する口縁部を持つ。肩は張らず最大径を上位に置く。やや高めのおんぐりとした高台を付ける。体部外面中位以下を回転ヘラケズリ、他は回転ナデを施す。333 は外反気味に直立する口縁部である。やや肩が張る胴部である。体部内面と外面上半は回転ナデ、体部外面下半はヘラケズリを施す。334 は甕で、胴部最大径以下を欠く資料である。口縁部はゆるく外反し端部は断面四角にするが、口縁部下端に1条の突線を巡らす。体部外面は格子目タタキ、体部内面は同心円文の当具痕があり、その上から横方向にナデる。

【P2】

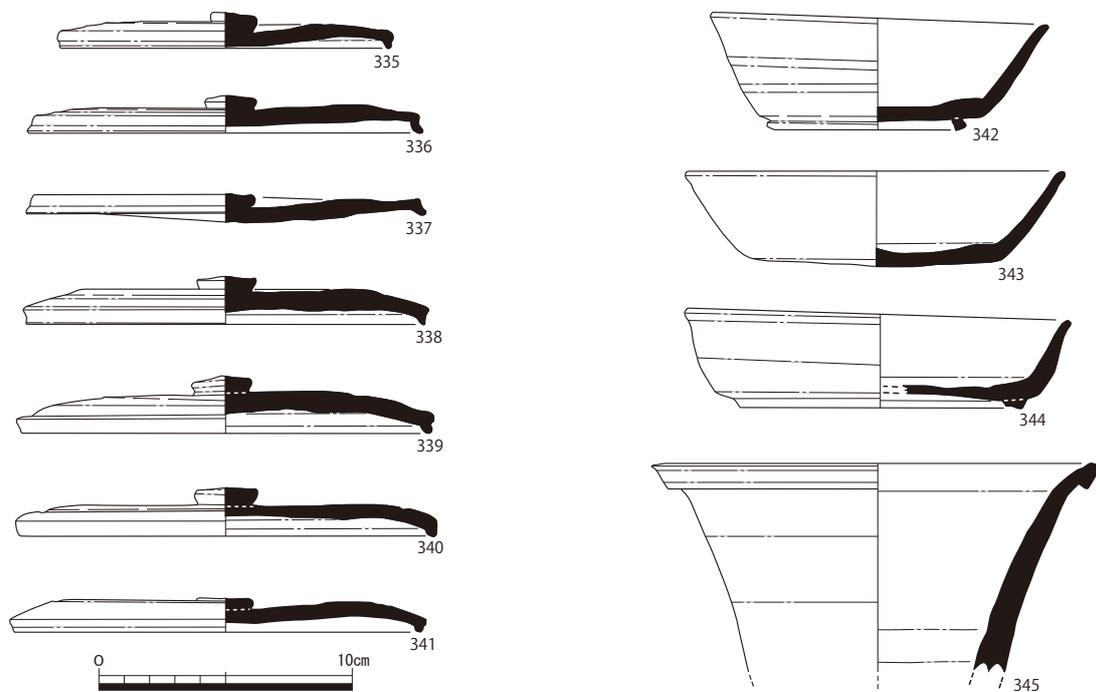
須恵器 (335 ～ 345) 335 ～ 341 は杯蓋で、全て扁平な形態のものである。いずれもつまみが付き、336 ～ 340 は擬宝珠様、335・341 はボタン様つまみである。口縁端部の嘴状の突起は認識でき、336・337 の口縁端部は外方に突き出している。ほとんどの調整は天井部外面が回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデであるが、338 の天井部内面は回転ナデ後不定方向のナデ、335・339 には天井部外面にヘラ切り後ナデを施す。336・338・340 はほぼ完形である。342・344 は杯身である。342 は口縁部が直線的に開き、底部との境に稜を成す。小さく外へ開く高台が付く。底部外面にヘラ切り後板状圧痕が残る。344 は器壁を薄くしながら湾曲する口縁部である。低い幅広の高台が付けられる。底部外面はヘラ切り後ナデ、内面は回転ナデ後ナデを施す。343 は杯である。やや丸みのある底部から直線的に外方へ開く口縁部を持つ。底部外面はヘラ切り後ナデ、他は回転ナデで、底部内面にナデが認められる。345 は壺の口頸部で、直線的に開く口縁部は端部を断面四角形に肥厚させ、上端を水平にする。内外ともに回転ナデである。



第 32 图 5 号窑迹 P 1 出土遗物实测图① (1/3)



第 33 图 5号窯跡P 1 出土遺物実測図② (1/3)

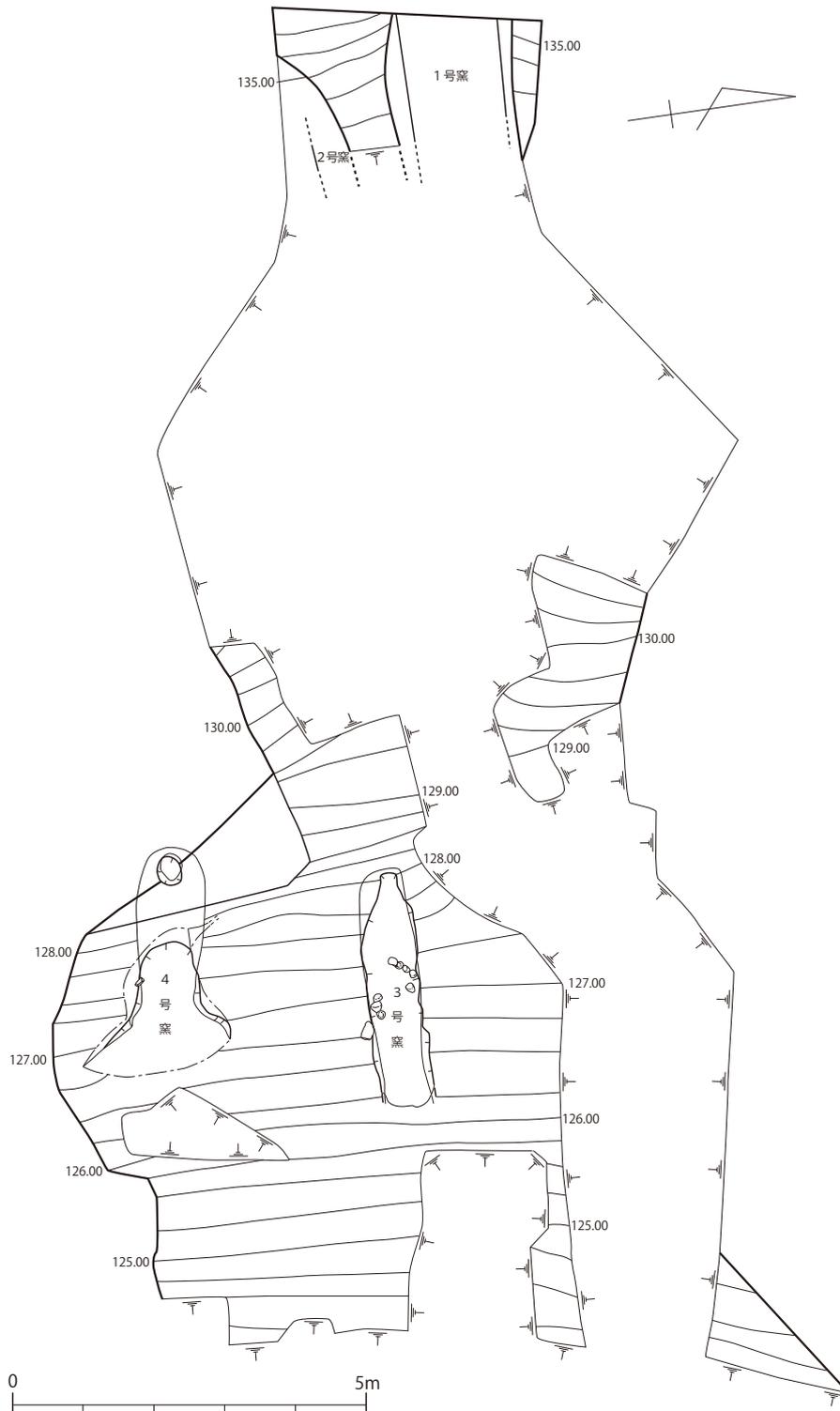


第 34 图 5号窯跡P 2 出土遺物実測図 (1/3)

IV. 石坂窯跡F地点

1. 調査の概要

石坂窯跡群は牛頸須恵器窯跡の一支群（平野川支群）にあたる。牛頸山から北側に派生する丘陵のうち、北側斜面に位置する（大字牛頸 2190 番 1 ほか）。発掘調査は砂防ダム建設工事に伴い実施



第 35 図 F 地点遺構配置図 (1/100)

したもので、発掘調査は平成17年6月9日から着手し、同8月2日に完了した。調査面積は350㎡で、出土遺物は須恵器を中心にパンケース12箱分出土した。

4基の窯跡が確認され、いずれも東側斜面に位置する。1・2号窯跡は調査区西端部に位置し、一部のみを検出したに留まるため、詳細は不明である。3・4号窯跡は調査区東側に位置し、残存状況は比較的良好である。

2.1 号窯跡

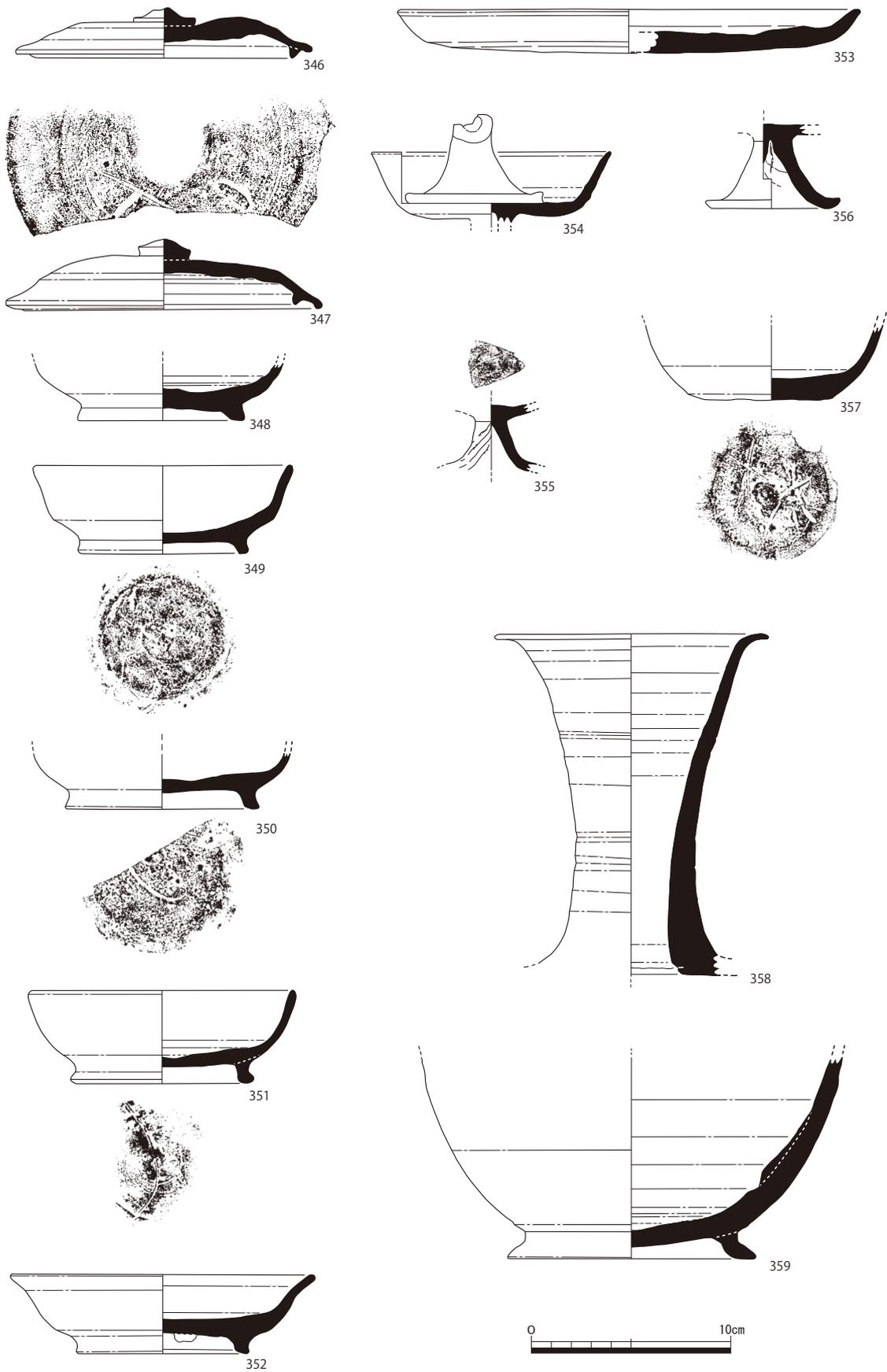
(1) 窯の構造 (第35図、図版14)

調査区西端部の標高135m付近に位置し、南側に2号窯跡が近接する。大半が調査区外に広がり一部を検出したにとどまるため、全容は不明である。幅1.8mほどの小型窯と考えられる。須恵器蓋杯・高杯・皿・杯・鉢・甕・長頸壺・中空硯などが出土した。

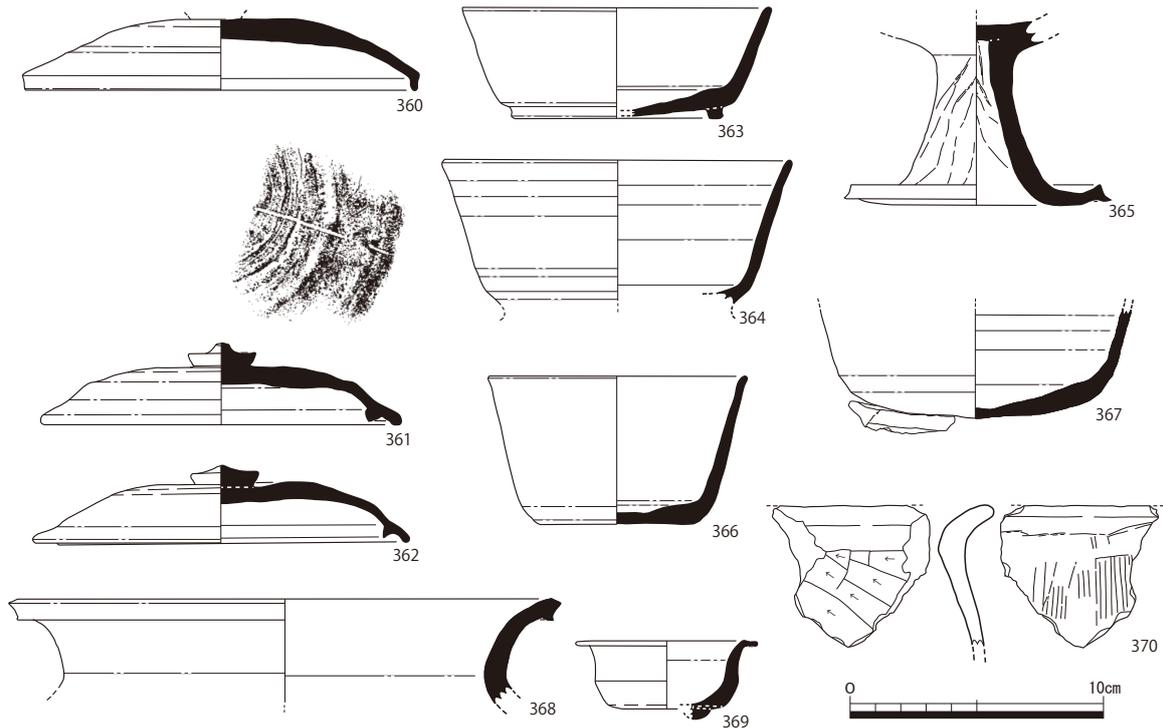
(2) 出土遺物 (第36～42図、図版37～39)

【表土層】

須恵器 (346～359) 346・347は杯蓋である。いずれもカエリを持ち、擬宝珠様のつまみを付ける。346はカエリが口縁下に突き出す。天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデを施す。347はカエリが口縁部より突出しない。天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデを施すが凹凸が著しい。348～352は杯身である。348・350は口縁部を欠く資料である。いずれも高台は太めで、外方へ踏ん張る形態のものである。いずれも底部内外面ともナデ仕上げで、350は底部外面にヘラ記号を有する。349は口縁部が中位で屈曲し、直立気味となる。底部内外面ともナデを施す。底部外面にヘラ記号がある。351は口縁部が内湾しながら立ち上がり。端部はわずかに肥厚させて丸く仕上げる。高台はやや高めで、端部を外方へ引き出す。底部内面はナデ、外面はヘラ切り未調整である。底部外面にヘラ記号がある。352は口縁部が中位でさらに外反する。底部内面はナデ、外面には砂粒が多量に付着して調整は不明である。353は皿である。口縁部は直線的で、端部をわずかに外方に引き出す。底部内面は回転ナデ後ナデを、外面は回転ヘラ切り後ナデ、底部と口縁部の境付近の外面は回転ヘラケズリを施す。354～356は高杯である。354は高杯の杯部の上に小型高杯の脚部が融着し、重ね焼きの一形態を示す。口縁部は斜め上方に直線的に開く。杯部内面は回転ナデで、底部と口縁部の境の内面に指頭痕が残る。杯底部外面中央は回転ナデ、下半は回転ヘラケズリを施す。355・356は小型高杯である。355の杯部内面はナデ仕上げでヘラ記号を有する。外面は回転ナデ、脚部外面はシボリ痕が残る。356は脚部内外とも調整不明だが脚部内面に工具痕が残る。357は鉢で、口縁部を欠く。内面は回転ナデ、外面はヘラ切り未調整である。底部と口縁部の境は手持ちヘラケズリを施す。底部外面にヘラ記号を有する。358・359は壺である。358は長頸壺の口頸部で、口縁端部は外方に引き出すように外反させる。頸部内外面に回転ナデを施し、頸部に接合痕が見られる。359は壺の体部下半である。高台は外方に大きく引き出す形態である。体部内外面は回転ナデ、底部はヘラ切り後ナデである。



第 36 图 1 号窑迹表土层出土遗物实测图 (1/3)



第 37 図 1 号窯跡遺構検出時出土遺物実測図 (1/3)

【遺構検出時】

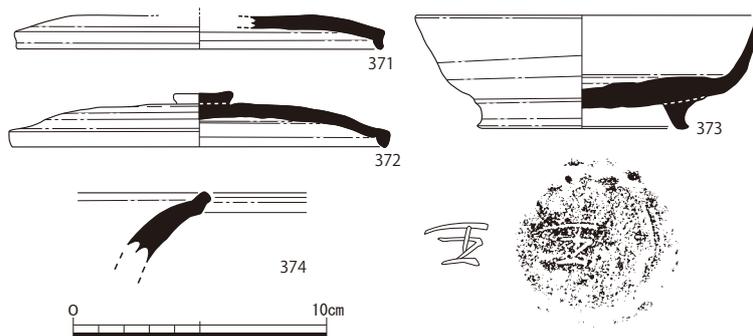
須恵器 (360～369) 360～362 は杯蓋である。360 はつまみが剥離している。口縁端部を折り曲げ下方に突き出す。天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面は回転ナデ後不定方向のナデを施す。361・362 はカエリが付くもので、いずれもカエリは口縁内に収まり、擬宝珠様のつまみを有する。天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデを施す。362 は天井部外面にヘラ記号を有する。363・364 は杯身である。いずれも口縁部が直線的に開くものである。363 は低い高台が付く。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面は回転ヘラケズリである。364 は高台を欠く。内外面とも回転ナデを施す。365 は高杯である。杯部を欠く資料で、杯底部の一部を残す。脚裾は外方に引出し、端部は上下に肥厚させ、擬凹線状に仕上げる。外面は回転ナデ、内外面にはシボリ痕を有す。366・367 は碗もしくは鉢である。366 は平底で、口縁部は直線的に開く。底部内面中央にナデ、外面はヘラ切り後ナデで、他は回転ナデである。367 は底部が丸みを帯び、口縁部は直線的に引き上げられる。底部内外面ともナデである。体部外面に灰黒色の自然釉が部分的にかかる。368 は甕である。口縁部は大きく外反し、口縁端部は下方に拡張し面を持つ。口縁部内外面ともに回転ナデを施す。369 は口径 7.2cm と小型で、口縁端部を折り曲げ、外方に引き出した杯状の器形である。口縁部内面上半はナデアゲており、下半から底部内面は強いナデを施す。底部外面は回転ヘラ切りされるが、切り損じの粘土塊が付着している。

土師器 (370) 370 は甕の口縁部片である。口縁部は「く」の字状に外反する。体部外面は縦ハケ、体部内面は斜め方向のケズリを施す。口縁部内外面はヨコナデ、頸部外面の一部にヘラ状工具痕が残る。

【埋土】

須恵器 (371 ~ 374) 371・

372は杯蓋である。いずれも口縁端部を折り曲げ、嘴状にするものである。371は中央部が欠損しており、つまみの有無は不明だが、372はボタン様のつまみを有する。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナ



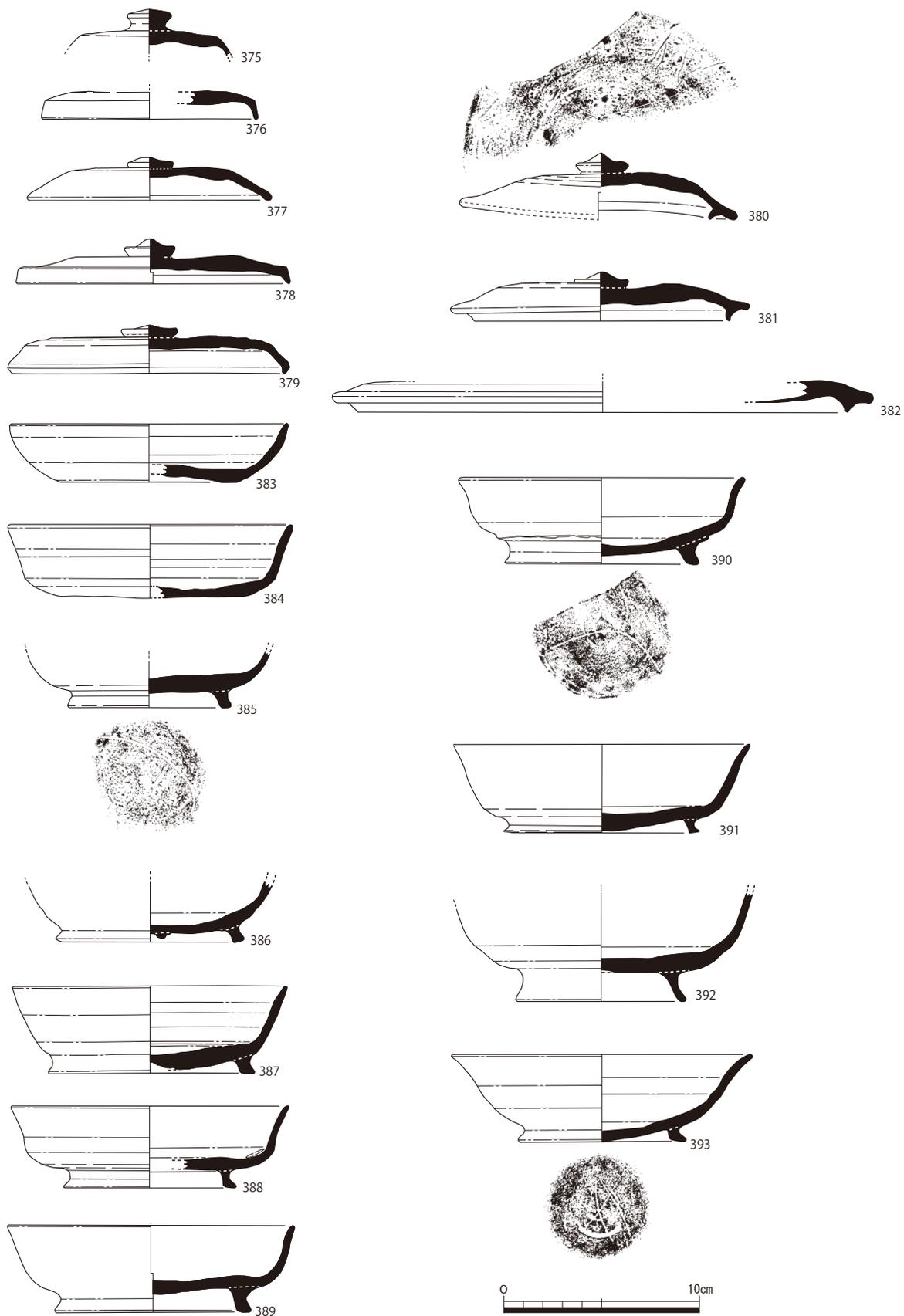
第38図 1号窯跡埋土出土遺物実測図 (1/3)

デを施す。373は杯身である。やや細身で高い高台は端部を外方へわずかに跳ねる。器壁の厚い底部から口縁部が直線的にのびるが、端部をわずかに肥厚させる。底部内面はナデ、他は回転ナデである。底部は回転ヘラ切りで、底部と体部の境付近は回転ヘラケズリを施す。底部高台内にはヘラ書きにより、漢字の「五」が手慣れた筆跡で刻まれている。374は甕の口縁部片である。口縁部は外反してのび、端部は外上方に引出して、外傾する平坦面を作る。内外面とも回転ナデを施す。

【灰原】

須恵器 (375 ~ 413) 375 ~ 382は杯蓋である。376・382のつまみの有無は不明であるが、他は擬宝珠様のつまみを付ける。カエリを持つもの(380 ~ 382)と口縁端部を折り曲げるもの(375 ~ 379)がある。375は肩が張るもので、口縁部を欠く。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、天井部内面は回転ナデである。376は端部を折り曲げ下方へ長く引き出す。天井部外面に回転ヘラケズリ、内面中央には一定方向のナデを施す。377は天井部外面にヘラ切り後ナデ、内面は不定方向のナデを施す。378は口縁端部が下方に突き出し、外方に平坦面を作る。天井部外面はヘラケズリ後研磨を施し、内面は不定方向のハケ状痕が残る。ほぼ完形である。379は天井部外面に回転ヘラケズリ、口縁端部付近はヘラ状工具による面取りを行う。天井部内面は一方向ナデが部分的に認められる。380はカエリが口縁内部に収まるもので、天井部外面にヘラ記号を有する。どちらも天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデである。381はカエリが口縁下に突き出すもので、天井部は回転ヘラケズリ、内面はナデである。382は口径25.0cmを測る大型品である。扁平な作りで、カエリが口縁下に突き出している。盤又は大皿の蓋かと思われる。口縁部外面は回転ナデ、口縁部内面は不定方向のナデを施す。383・384は杯である。383は口縁部が内湾して立ち上がる。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はヘラ切り後不定方向のナデを施す。384は口縁部が外反気味に立ち上がるもので、底部外面は回転ヘラケズリを施す。他はナデである。385 ~ 393は杯身である。いずれも外方へ踏ん張る形態の高台を付ける。385は口縁部を欠く。底部は回転ヘラケズリされ、底部内面中央に不定方向のナデを施す。386は口縁部を欠く。丸い底部に断面長方形の高台が外開きに付けられる。底部外面にヘラ記号があるが、降灰のため不明瞭である。387は直線的にのびる口縁部で、底部内面に回転ナデ、外面にはヘラ切り後ナデを施す。388は口縁部が基部から外反する。底部と口縁部の境内面に指頭痕が残る、外面には回転ヘラケズリを施す。389は口縁部が内湾気味に立ち上がる。やや太めの高台は端部を肥厚させ、外へ突き出す。底部内面がナデ、底部外面は

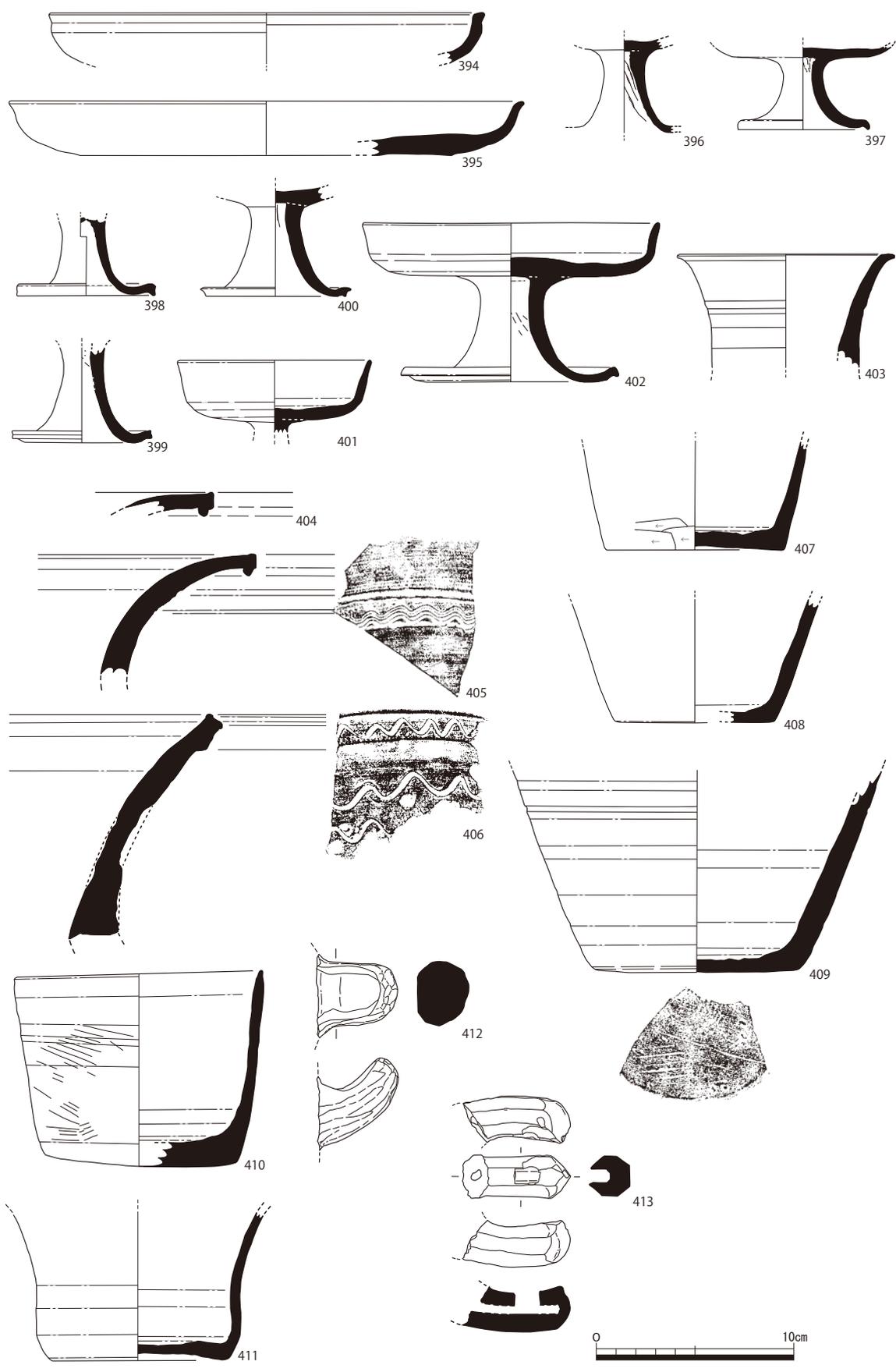
ヘラ切り未調整である。390 は中位で外反する口縁部で、太めの高台を付ける。底部は回転ヘラ切り、底部内面にナデを施す。391 は底部内面に不定方向のナデ、外面は回転ヘラケズリ後ナデ、底部と体部の境は回転ヘラケズリされる。他は回転ナデである。392 は丸く立ち上がる口縁部で、やや高めの細い高台が付けられる。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はナデで、中央に指頭痕が残る。393 は底部から大きく開く口縁部で、高台端部は外方に引き出される。底部は回転ヘラケズリ、内面に回転ナデ後ナデを施す。385・390・393 はヘラ記号を有する。394・395 は盤である。394 は口縁部片である。口縁部は内湾し、端部の上面に平坦面を作り、外方へ突き出す。口縁部内外面に回転ナデを施す。395 は大型の皿かもしれない。平坦な底部から内湾しながら立ち上がる口縁部は先端を外方へ広げる。口縁部内外面は回転ナデ後ナデを施す。底部内面に板状工具痕が残る、底部と体部の境はナデ仕上げ、底部外面にハケ状工具によるケズリを施す。396～402 は高杯である。396～400 はいずれも脚部で、397～399 の脚裾は402 と同様であるが、399 は下方への突き出しは弱い。400 は脚端下方に小突起を作る。いずれも脚部内外面とも回転ナデで、396・397・399・400 は脚部内面にシボリ痕が残る。401 は脚を欠く資料である。口縁部は器壁を薄くしながら直立する。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面は回転ヘラケズリを行い、他は回転ナデである。402 は脚裾部が反り上がり、端部を下方に突き出して断面三角形にする。端部外面は回転ナデにより平坦面をつくる。杯部は平坦な底部からほぼ直角に立ち上がる口縁部を持ち、端部は外反気味に丸く仕上げる。杯底部中央は回転ナデ後不定方向のナデ、他は回転ナデを施す。口縁基部内面は強く押さえた回転ナデの痕跡が残る。対応する外面は回転ヘラケズリし、脚部内面にはシボリ痕が残る。403 は壺である。口縁部の資料で、頸部以下を欠く。やや外反気味に開く口縁部は端部を短く外方へ水平に引き出す。頸部外面に1条の沈線を巡らす。内外面とも回転ナデである。404～406 は大型甕の口縁部である。406 は小片で、大きく外方へ引き出された口縁端部の資料である。端部下端に1条の突帯を巡らす。内外面とも回転ナデである。405 は大きく外反する口縁部で、端部を肥厚させ、下方に突起を引出し、突帯状とする。中位に2条の沈線を巡らし、その間を櫛描き波状文で埋める。内外面とも回転ナデであるが、内面の一部に縦方向のナデが残る。406 は直立気味に緩く外反する。端部を長方形に肥厚させ、帯状に巡らせる。そこに1条のヘラ描き波状文、その下方には2条のヘラ描き波状文を施す。内外面とも回転ナデで、内面に斜め方向のナデ痕跡が認められる。407～411 は鉢である。410 以外はいずれも口縁部を欠く。体部が直線的に開くもの(407～409)、直立するもの(410)、中位がくびれるもの(411)がある。407 は底部内面中央にナデ、体部外面上半は横方向のハケ後ナデ仕上げ、下半は横方向の手持ちヘラケズリ、底部はヘラ切り未調整である。409 はやや大型である。体部外面上位に沈線を巡らす。内面は回転ナデ、体部外面は板状工具によるナデ、底部外面はヘラ切り後板状工具によるケズリを施す。底部外面にヘラ記号がある。410 は口縁端部が肥厚して先端が尖り気味となる。底部外面はヘラ切り後研磨を施し、体部外面は回転ナデの後、ハケ状痕が一部に残る。411 は一旦すぼまった体部が緩やかに外反する。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はヘラ切り後ナデを施す。底部外面に砂が付着する。412 は把手片で、把手部上面はヘラケズリ、他の面は工具ナデを施す。413 は中空硯の把手で、断面八角形に面取りされる。上面に長方形の孔を穿ち、その孔は長辺中心部を貫通している。



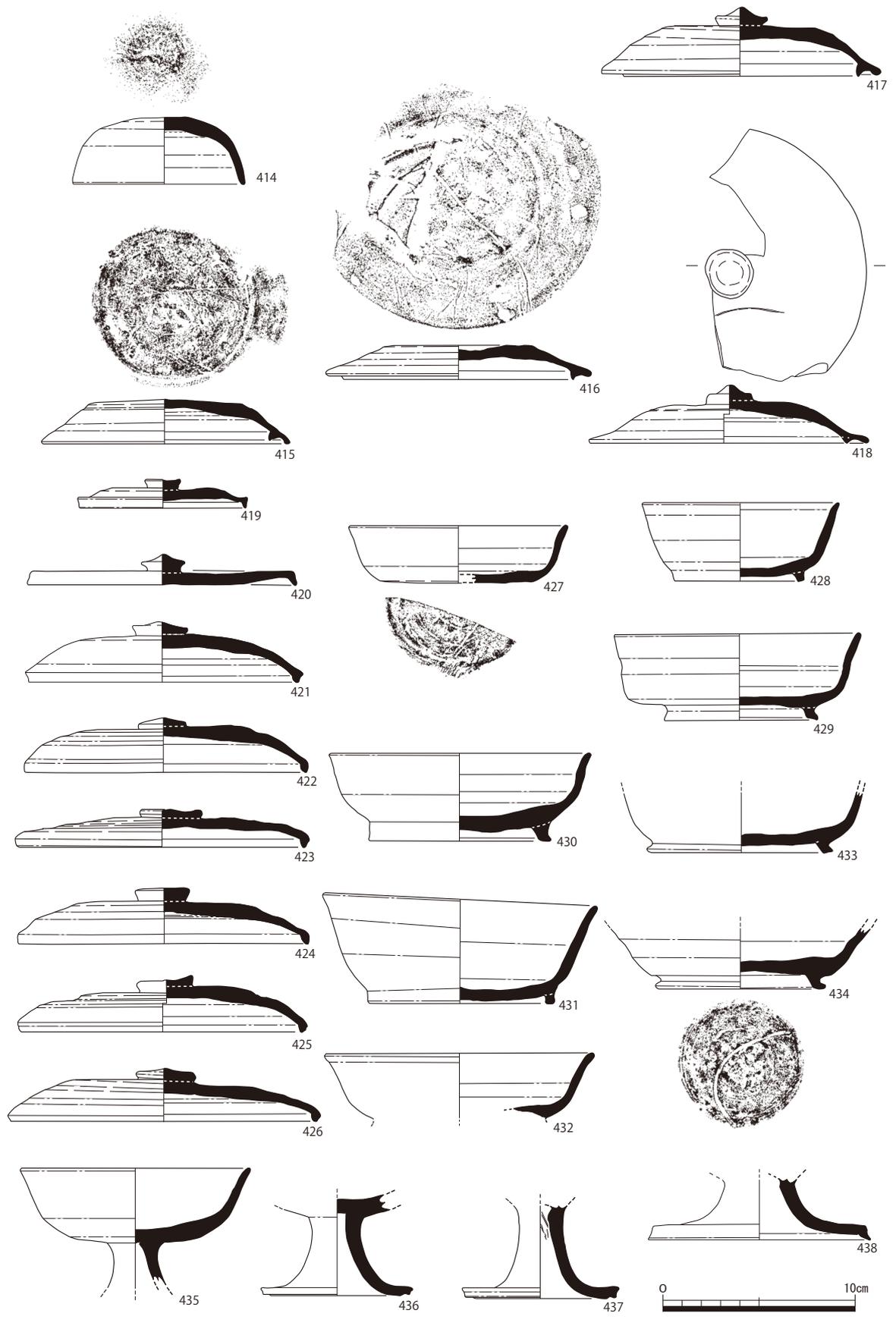
第 39 图 1 号窯跡灰原出土遺物実測図① (1/3)

【灰原下層】

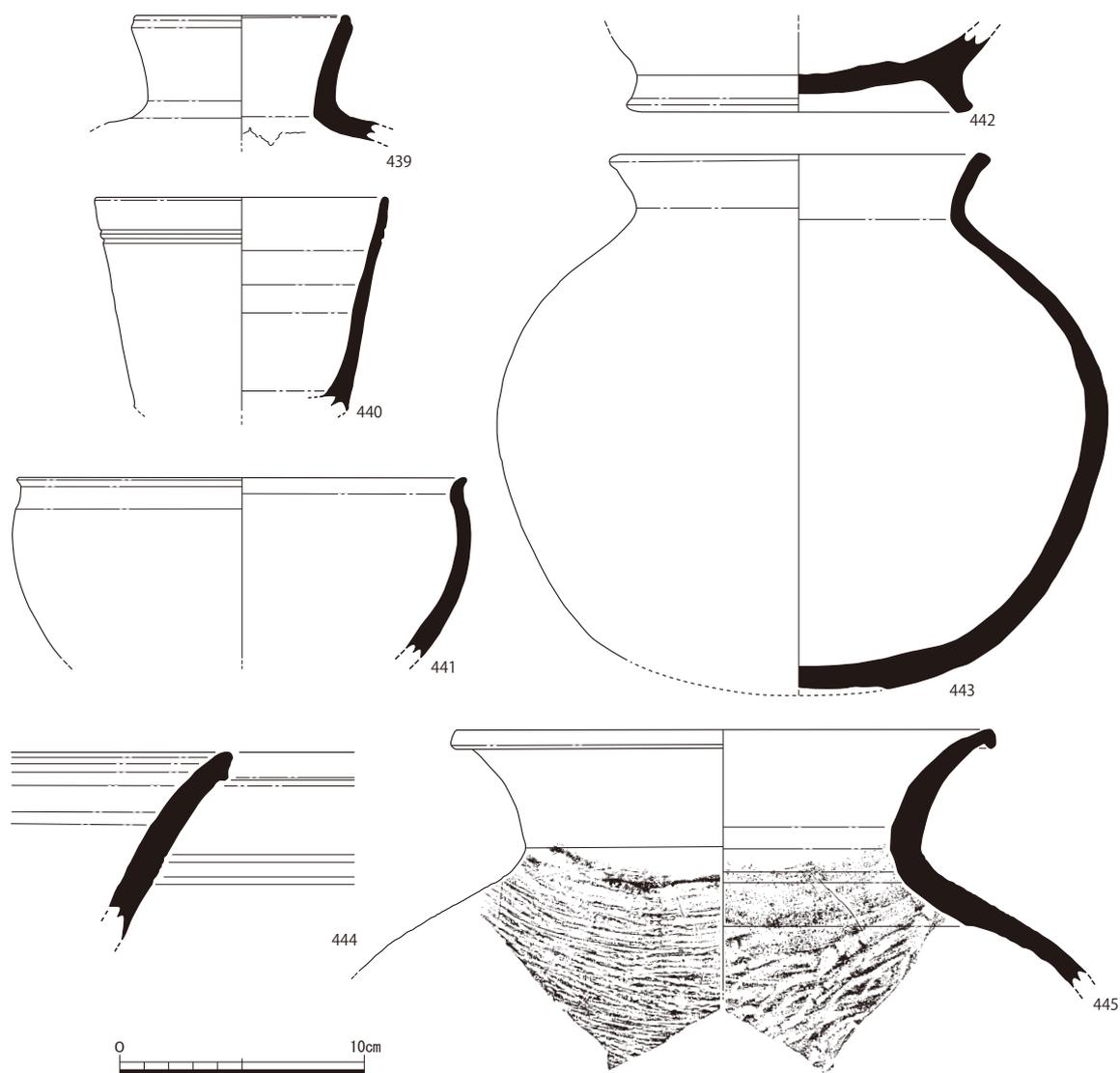
須恵器 (414 ~ 445) 414 は蓋である。丸みのある天井部から直線的に下る口縁部で、端部は丸く収める。天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデを施す。415 ~ 426 は杯蓋である。415 ~ 418 はカエリが付くもので、カエリは416 が口縁部から突出する以外は口縁内に収まる。415・416 はつまみが付かず、417・418 は擬宝珠様のつまみが付く。415 は天井部外面をヘラ切りし、内面は回転ナデ後ナデを施す。完形品である。416 は天井部外面を回転ヘラケズリ後ナデ、内面は回転ナデ後ナデを施す。417 は天井部外面を回転ヘラケズリ、内面には回転ナデ後ナデを施す。418 は天井部外面が回転ヘラケズリ、内面はナデを施す。415・416・418 には天井部外面にヘラ記号を有する。419 ~ 426 は口縁部端を折り曲げて嘴状にするものである。419・423 ~ 425 にはボタン様のつまみが、420 ~ 422・426 には擬宝珠様のつまみが付く。421・422・425・426 は天井部外面に回転ヘラケズリ、内面には回転ナデ後ナデを施す。419・420 は扁平な器形で、口縁端部を下方に鋭く引出す。天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデを施す。423 は天井部から口縁部外面に回転ナデを施し、天井部外面中位付近は回転ヘラケズリを施す。424 は天井部外面が回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデである。427 は杯である。底部は平坦で、直立気味に立ち上がる口縁部は中位でさらに外反する。底部外面にカキメ状の調整を施す。他は回転ナデで、底部内面中央部はナデである。428 ~ 434 は杯身である。口縁部は直線的に広がるもの(428・431・433・434)と中位で屈曲するもの(429・430・432)がある。429・430・433・434 は端部が外方に引き出す形態の高台で、いずれも底部内面はナデ、外面はヘラ切り後ナデが施される。434 の底部外面にヘラ記号を有する。428・431 は断面方形の短い高台が直立する。428 は底部外面に回転ナデを施す。431 は底部内面中央と底部外面はヘラ切り後ナデ、外面にヘラ状工具によるナデが見られる。435 ~ 438 は高杯である。435 は脚裾を欠く資料で、杯部は内面をナデ、他は回転ナデである。外面に別個体の破片が付着している。436 ~ 438 は脚部片である。436・437 は脚裾を横方向へ引き出し、端部内面に沈線状の窪みを作りだす。いずれも内外面に回転ナデを施し、437 の脚部内面にシボリ痕が残る。438 は端部を下方に折り曲げ尖らす。脚部内外面上半はナデ、他は回転ナデを施す。439 は口縁部破片で、壺もしくは横瓶である。口縁部は直立気味に外反し、端部は上方に突き出す。内外面ともに回転ナデを施す。440・441 は鉢である。440 は底部を欠く資料で、口縁部が直線的に立ちあがる。外面口縁部下に2条の沈線を巡らす。内外面とも回転ナデで、回転ナデ後外面にナデを施す。441 は内湾する体部に短く外反する口縁部で、底部を欠く。口縁部内面と外面上半は回転ナデ、体部外面下半は回転ヘラケズリを施す。442・443 は壺である。442 は底部片で、緩やかに外方に引き出すための高台を有する。底部内面は回転ナデ、外面はヘラ切り後ナデである。443 は広口壺で、口縁部は緩やかに外反し、端部を丸く仕上げる。体部外面下半から底部にかけて回転ヘラケズリし、他は回転ナデである。完形品で、橙褐色を呈する。444・445 は甕である。444 は大甕の破片である。口縁部端は丸くするが、外面に小突起を作る。外面に2条の沈線を巡らす。口頸部内面上半と口頸部外面は回転ナデ、口頸部内面下半は回転ナデ後ナデを施す。445 の口縁部は大きく外反し、端部は下方に折り曲げ丸く仕上げる。口頸部内外面は回転ナデ、体部外面には平行タタキを施し、内面には同心円の当具痕を残す。



第 40 图 1 号窯跡灰原出土遺物実測图② (1/3)



第 41 图 1 号窑迹灰原下層出土遺物実測图① (1/3)



第 42 図 1号窯跡灰原下層出土遺物実測図② (1/3)

(3) 小結

1号窯跡は、幅 1.8 m 前後の小型の窯と考えられる。操業時期は出土遺物から VI～VII A 期と考えられる。

3. 2号窯跡

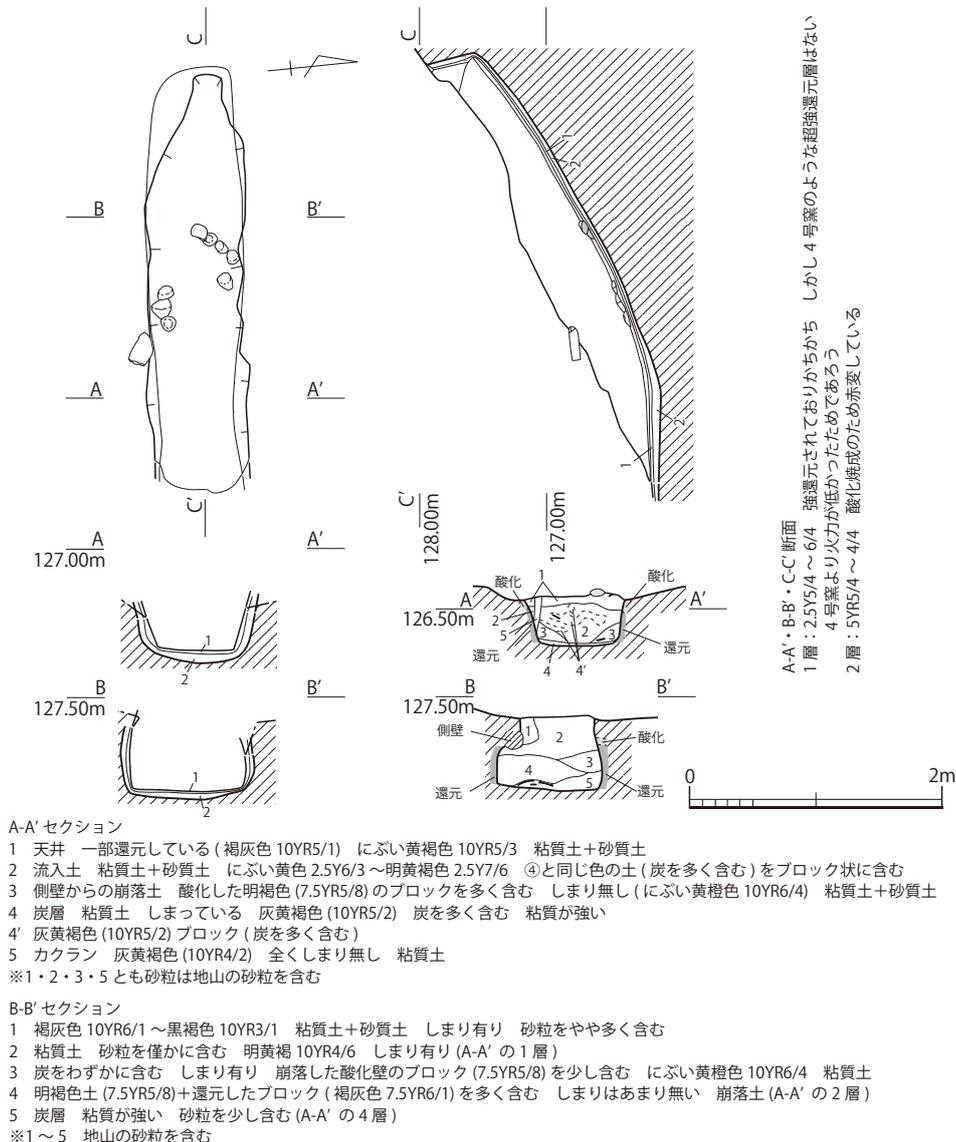
(1) 窯の構造 (第 35 図、図版 14)

調査区西端部の標高 135 m 付近に位置し、北側に 1号窯跡が近接する。大半が調査区外に広がり一部を検出したにとどまるため、全形は不明である。幅 0.8 m 以上の小型窯と考えられる。出土遺物はなく、操業時期は不明である。

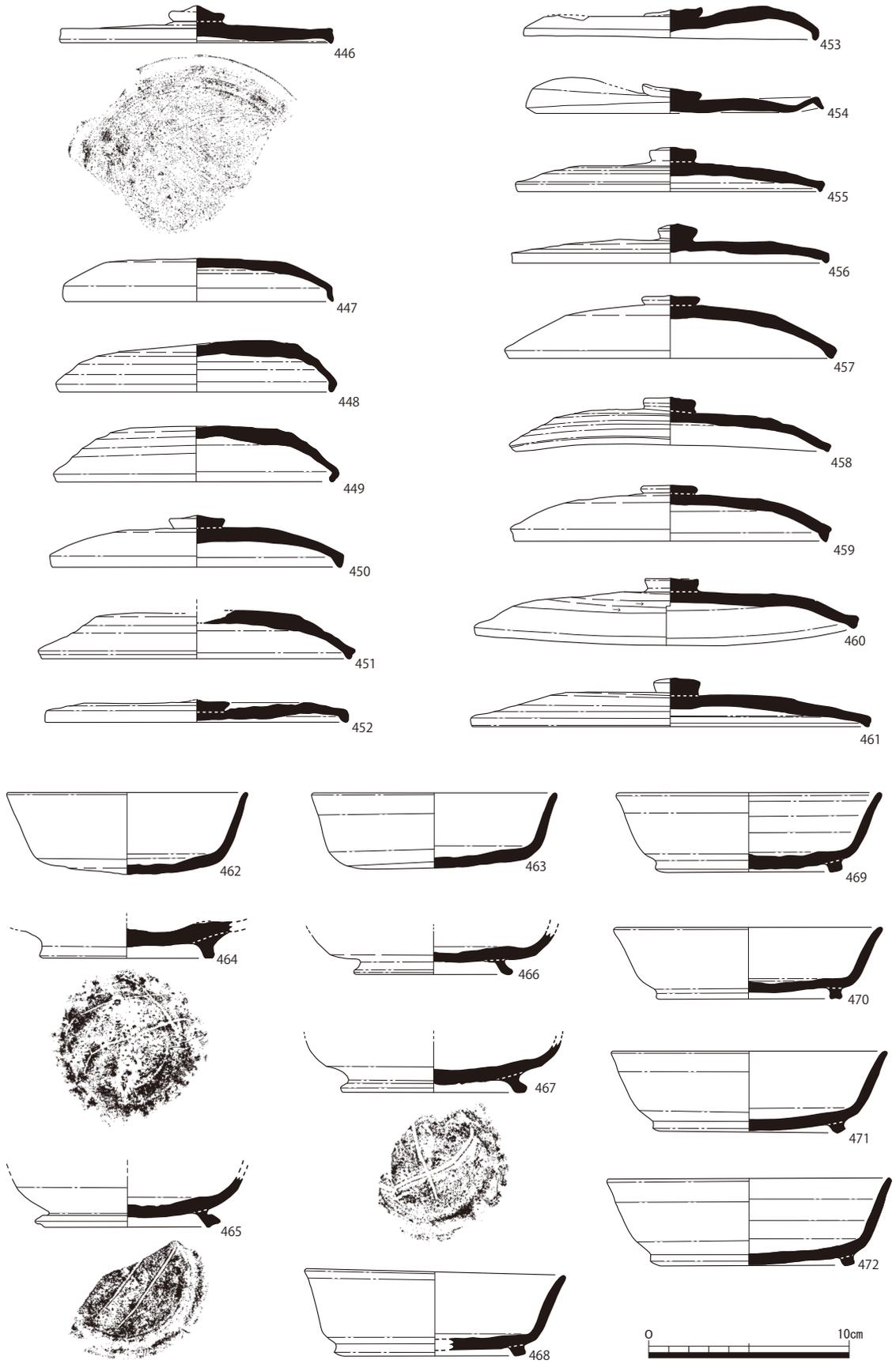
4. 3 号窯跡

(1) 窯の構造 (第 43 図、図版 15 ~ 17)

調査区東側の標高 127 m 付近に位置し、南側に 4 号窯跡が近接する。東端部の一部が消滅するが、残存長 3.35 m、焼成部幅 0.6 ~ 0.75 m、平面寸胴形を呈する。奥壁から東へ 2.35 m の地点で傾斜変換点があり、この付近が焼成部境と考えられる。焼成部床面の傾斜角度は燃焼部側で 25 度、煙道側で 33 度ほどで、焼台と考えられる拳大の礫が置かれている。窯の主軸方位は N-95°-E である。煙道の天井部は削平を受けるが、奥壁に向かって絞り込まれており (幅 0.25 m ほど)、直立煙道になるものであろう。焼成部・燃焼部ともに床面・壁面が強い還元を受けている。灰原の範囲等は不明である。



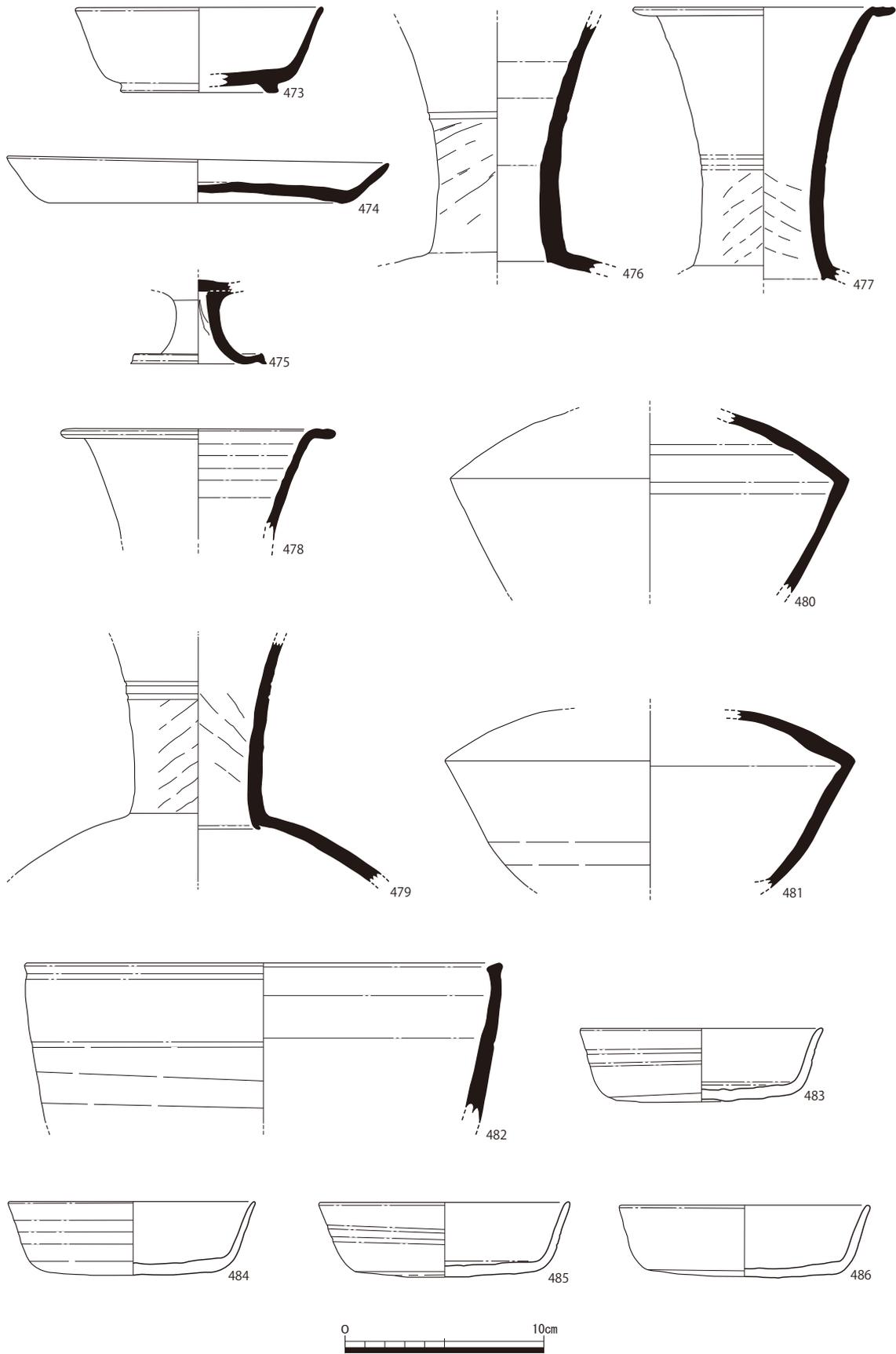
第 43 図 3 号窯跡実測図 (1/60)



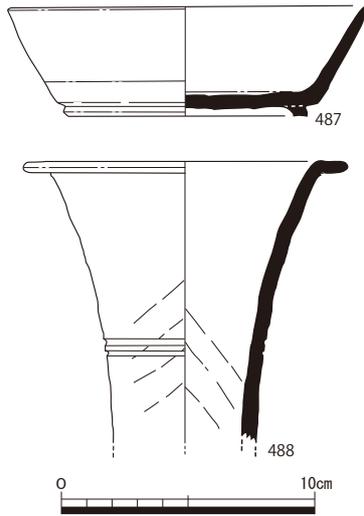
第 44 图 3 号窑迹窑体内埋土出土遗物实测图① (1/3)

(2) 出土遺物 (第 44 ~ 46 図、図版 39 ~ 41)**【窯体内埋土】**

須恵器 (446 ~ 482) 446 ~ 461 は杯蓋である。447 ~ 449 はつまみを付けないもので、口縁端部をやや長めに折り曲げる。いずれも天井部外面はへら切り未調整、内面はナデである。448 の天井部にはへら切り後ナデが認められる。447 はほぼ完形品である。447 ~ 449 以外はつまみの付くものである。451 はつまみの有無は不明であるが、446・450・452 ~ 457 は擬宝珠様、453・454・458 ~ 461 はボタン様のつまみを付ける。擬宝珠様のつまみが付くもののうち、450・452・454 は扁平な形態で、口縁端部の折り曲げは弱い。いずれも天井部外面は回転へラケズリ、内面は回転ナデを施す。450 には天井部に横方向のハケ状ケズリ痕がある。451 は天井部外面が回転へラケズリ、天井部内面に回転ナデ後ナデを施す。453 は天井部外面を回転へら切り後、板状工具による不定方向のナデを施す。455 は天井部外面が回転へラケズリ、内面は工具様のナデである。456 は天井部外面に回転へラケズリ後ナデを施す。457・458 は焼け歪みが大きい、口縁端部の形状から天井部が丸みを持つものと思われる。天井部外面は回転へラケズリ、内面は回転ナデを施す。459 は口縁端部の折り曲げは目立たず、端部内面に沈線を有するものである。天井部外面に回転へラケズリ後ナデ、内面はナデを施す。460・461 はいずれも天井部外面が回転へラケズリ、内面は回転ナデ後ナデを施す。453・459・460 はほぼ完形である。462・463 は杯である。いずれも丸味のある底部から直線的に立ち上がる口縁部であるが、463 は屈曲気味である。462 はほぼ完形品で、底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はへら切り後ナデを施す。463 は底部内面に回転ナデ、外面はへら切り未調整である。464 ~ 473 は杯身である。464 ~ 467 は高台が高めで外に開く形態であるが、468 ~ 472 は短く断面方形の高台がやや開き気味に付く。473 は口縁部の器壁が薄い作りで直線的にのびる。464・465・467 は底部外面にへら記号を有する。いずれも底部外面は回転へら切り、底部内面は464 が回転ナデ、465 がナデ、467 が不定方向ナデである。21 は底部内面がナデ、底部と体部の境外面は回転へラケズリ、底部外面はへら切り後ナデであり、工具痕が残る。468 ~ 472 は口縁部が直線的にのび、端部がわずかに外反するものである。468・469・471 は底部内面が回転ナデ後ナデ、外面はへら切り後ナデを施す。470 は底部外面がへら切り未調整、内面は一方向のナデを施す。472 は焼成が甘く、内面が橙色で、外面がにぶい橙色を呈する。底部外面はへら切り、内面はナデである。473 は底部がへら切り未調整で、他は内外面ともナデを施す。474 は皿である。口縁部は直線的に広がる。ほぼ完形品である。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はへら切り後ナデを施す。475 は高杯である。小型のもので、杯部を欠く。脚裾はわずかに跳ね上げ、端部は折り曲げて断面三角形とする。内外面とも回転ナデを施し、脚柱部内面にはシボリ痕が残る。476 ~ 481 は壺である。いずれも長頸壺で、476 ~ 479 は口頸部、480・481 は胴部の資料である。477・478 は緩く外反する頸部の先端を水平方向に引出し、口縁部とする。どちらも内外面に回転ナデを施す。477 は頸部に2条の沈線を巡らし、頸部内外面下半にシボリ痕が残る。476・479 は頸部内面上半に強い回転ナデ、外面は回転ナデ後ナデを施す。頸部外面下半にシボリ痕が残る。頸部外面中位に476 は1条、479 は2条の沈線をそれぞれ巡らす。480・481 は肩部が張り、稜を成す形態である。480 は体部内面が回転ナデ、外面は体部下位をへラケズリする。他は回転ナデであるが、上半部にナデを施す。



第 45 图 3号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図② (1/3)



第46図 3号窯跡灰原出土
遺物実測図(1/3)

481は体部上半が丸みを帯びて下がり気味となり、肩の稜を鋭くする。体部外面下半にヘラケズリを施し、他は回転ナデである。482は甗である。口縁部はわずかに内傾し、端部を肥厚させて上端に平坦面を作る。体部上位に1条の沈線を巡らす。体部外面下半は回転ヘラケズリ、他は回転ナデを施す。

土師器(483～486) 483～486は平底の杯である。直線的に立ち上がる口縁部である。483・485は口縁部中位に沈線を有する。いずれも底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はヘラ切り後ナデを施す。ほぼ完形品である。色調は明黄橙色を呈し、意識的に酸化炎下で焼成されたものと思われ底部外面に黒斑が残るものがある。

【灰原】

須恵器(487・488) 487は杯身である。口縁部は直線的に開く。低い断面四角形の高台が付く。底部外面はヘラ切り未調整、内面は回転ナデ後ナデを施す。488は長頸壺の口頸部で、口縁端部は水平方向に大きく引き出す。頸部中位には2条の沈線を巡らす。頸部内外面は回転ナデで、シボリ痕が残る。

(3) 小結

3号窯跡は残存長3.35m、平面寸胴形の小型の直立煙道窯である。操業時期は窯体内埋土出土遺物からVII B期と考えられるが、一部VI～VII A期の資料も含む。

5. 4号窯跡

(1) 窯の構造(第47図、図版18～20)

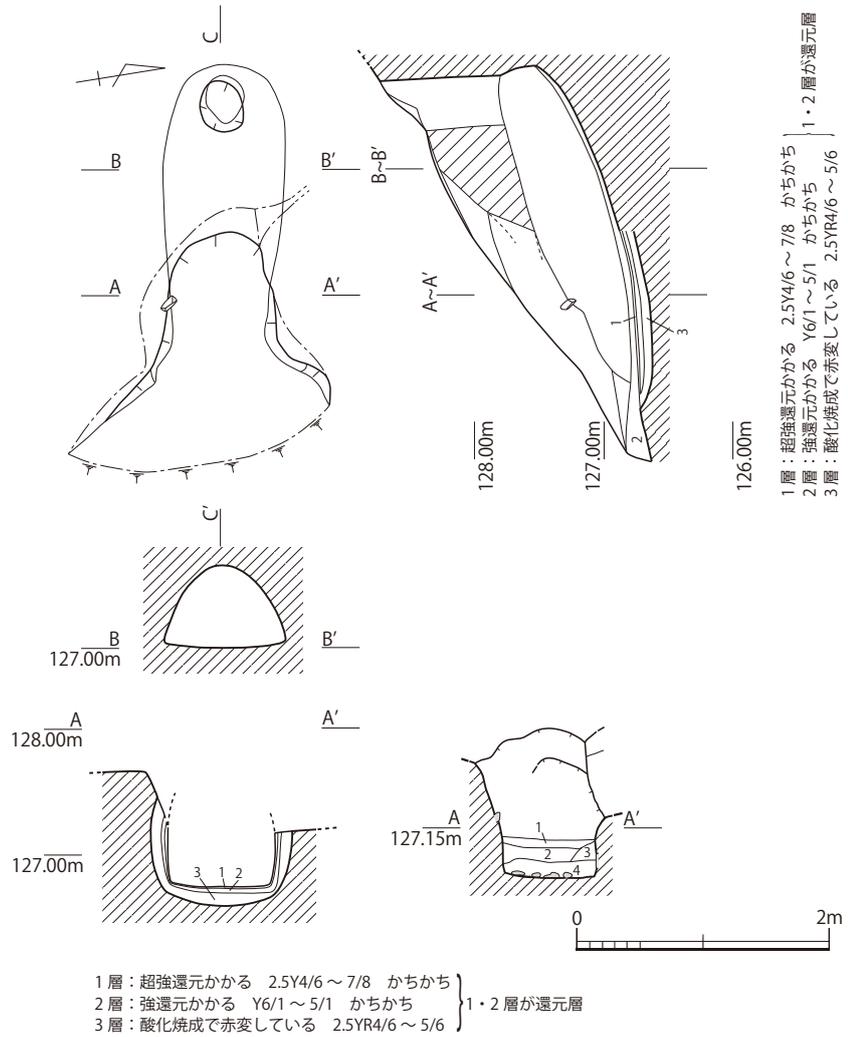
調査区東側の標高127m付近に位置し、北側に3号窯跡が近接する。東端部の一部が消滅するが、残存長2.85m、焼成部幅0.7～0.95m、平面寸胴形を呈する。奥壁から東へ2.2mの地点で絞込みがあり、この付近が焼成部境と考えられる。焼成部床面の傾斜角度は奥壁側で28度である。窯の主軸方位はN-98°-Eである。焼成部の西側半分は天井部が残り、床面からの高さは0.6m、横断面形は三角形で、燃焼部側の壁面は直立する。焼成部床面には焼台と考えられる拳大の礫が置かれている。焼成部境から燃焼部側にかけては「ハ」字形に開き、前庭部の平坦面へと連なる。煙道は直立し上面の直径は0.35mほどとなる。焼成部・燃焼部ともに床面・壁面が強い還元を受けている。灰原の範囲等は不明である。

(2) 出土遺物(第48・49図、図版41)

【遺構検出時】

須恵器(489～492) 489は杯蓋である。笠状の形態で、ボタン様のつまみが付く。口縁端部の折り返しは弱く、端部内面に沈線が巡る。天井部外面はヘラ切り後ナデ、他は回転ナデであるが、

天井部内面には工具様の回転ナデを施す。490・491は杯身である。490は低い方形の高台を有し、口縁部は内湾気味に上方にのびる。底部内面はナデ、外面はヘラ切り後ナデを施す。491は丸味のある底部から外反気味に開く口縁部である。高めの高台が付き、端部を外方へ引き出す。底部外面はヘラケズリ後ナデ、他は回転ナデを施す。底部高台内にヘラ記号がある。492は長頸壺の口縁部で、端部は水平方向に引き出すが、中央を窪ませ受け口状としている。内外面とも回転ナデを施す。



【窯体内埋土】

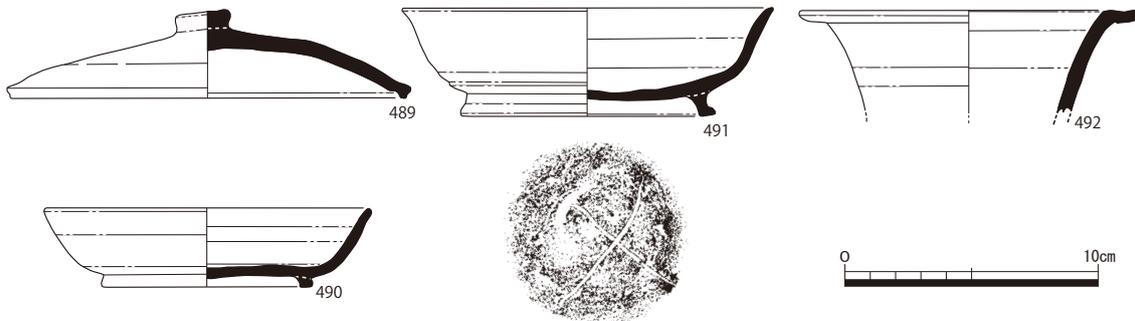
須恵器 (493 ~ 501)

493 ~ 495は杯蓋である。493・494はカエリが付くもので、493は不明だが、494には高い擬宝珠

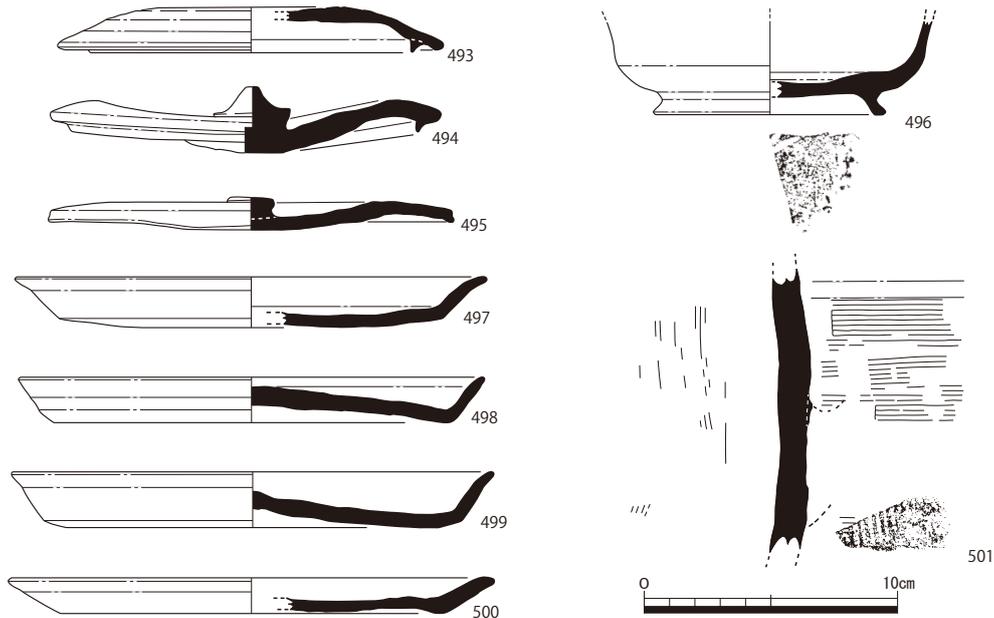
- 1 粘質土 砂粒を少し含む (径2~4ミリ) 黄褐色 10YR5/6 2・3・4に比べたらしまりがある
- 2 粘質土 しまりがない 明黄褐色 2.5Y6/6
- 砂質土 砂粒を少し含む (径2~4ミリ)
- 3 粘質土 しまり無し にぶい黄色 2.5Y5/4 砂粒を少し含む (径2~4ミリ)
- 4 粘質土 しまり無し 黄褐色 2.5Y5/4 砂粒をやや多く含む (径2~4ミリ)

※粘質土は地山のバイラン土の砂粒のような砂

第 47 図 4号窯跡実測図 (1/60)



第 48 図 4号窯跡 遺構検出時出土遺物実測図 (1/3)



第 49 図 4 号窯跡 窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3)

様のつまみが付く。493 のカエリは口縁部からわずかに突出する。494 は変形が著しいが、カエリは小さく棘状に突き出す。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ後ナデを施す。495 はカエリが無いもので、口縁端部は折り曲げが弱く、小さな突起をつける程度である。ボタン様つまみを有する。天井部外面はヘラ切り後ナデ、他は回転ナデを施すが、天井部内面中央には回転ナデ後ナデが施される。496 は杯身である。口縁端を欠く。高台は長めで、端部を外方に引き出す。口縁部は端部を欠くが湾曲しながら立ち上がるものである。底部外面高台内にヘラ記号が付けられる。底部内面は回転ナデ後ナデ、底部外面はヘラ切り後ナデを施す。497 ～ 500 は皿である。497 は丸味のある底部に外反する口縁部が付く。底部内面は回転ナデ後ナデ、外面はヘラ切り後ナデを施す。498 は直立する口縁部である。底部内面は回転ナデで、中央はナデている。外面中央はヘラ切り後工具状の粗いナデ痕跡がある。499 は外反気味に立ち上がる口縁部である。底部内面は回転ナデ後一定方向のナデ、外面はヘラ切り後ナデで、中央部には板状圧痕が残る。498・499 は焼け歪みが著しい。500 は口縁部の器壁が他より少し厚い。底部内面は不定方向のナデ、外面はヘラ切り未調整である。501 は体部の破片資料である。外面には把手の貼付痕が残り、甑かと思われる。体部外面は上位に横方向のハケと下位に格子目タタキ痕、体部内面は縦方向のハケ状工具痕がある。色調は橙色を呈する。

(3) 小結

4 号窯跡は残存長 2.85 m、平面寸胴形の小型の直立煙道窯である。窯体埋土の土器は、VI期～VII B 期までのものを含み、明確な操業時期は不明である。

V. 総括

石坂窯跡D地点では7基の窯跡、F地点では4基の窯跡が確認された。このうち、D5号窯跡では複数の陶硯や稜椀、F1号窯跡では中空硯やへら書き須恵器「五」が出土したほか、複数の窯跡で中・大型の供膳具を生産していることが明らかとなった。以下では、各窯跡の操業年代を提示した上で、中・大型供膳具、稜椀、へら書き須恵器、陶硯について検討し、報告のまとめとする。

1. 各窯跡の年代

(1) D地点

0-A号窯跡：表土中からではあるが、VII A期の須恵器が出土しており、8世紀前半に操業した可能性がある。

0-B号窯跡：窯体内からVII B期を中心とした須恵器が出土しており、8世紀後半に操業したものと考えられる。

なお、0-A号・0-B号窯跡に伴う灰原からは、高台端部が外方に踏ん張る杯B身があることや、丸底で口縁端部を面取りする台付皿があることから、一部、VI期にさかのぼる可能性がある資料もある。

1号窯跡：窯体内埋土出土土器からVII B期の操業と考えられるが、表土出土のものにはより古相の杯Bも含む。なお、表土中からは、口径40 cmを超える盤やU字鋤先が出土しており注目される。

2号窯跡：窯体内埋土出土土器からVII A期の操業と考えられる。

3号窯跡：灰原資料が中心のため、操業期間は不明であるが、VII A期を中心にVI期・VII B期の資料を含む。

4号窯跡：一部を確認したに留まるため詳細は不明で、出土遺物もない。

5号窯跡：焼成部床面出土土器からVII B期の操業と考えられる。また、表土からはVI期の杯B蓋が出土した。生産器種は蓋杯を中心に、杯・台付皿・長頸壺・硯があり、灰原からは稜椀・短頸壺・鉄鉢・甕などが出土した。

(2) F地点

1号窯跡：灰原出土資料から、VI～VII A期の操業が想定される。

2号窯跡：出土遺物がなく、操業時期は不明である。

3号窯跡：窯体内埋土出土土器はVII A期を中心に、一部VI期・VII B期の須恵器を含む。

4号窯跡：窯体内埋土からは、VI期の須恵器とVII B期の須恵器が出土している。

(上田)

2. 中・大型供膳具の検討

器高が低く、口径20cm前後を超えるものを中・大型供膳具と仮定した上で、該当資料を抽出すると、D地点では0・1・3・5号窯跡、F地点では1号窯跡に事例がある。また、D1号窯跡では口径40 cmを超える超大型品が、F1号窯跡では中・大型供膳具に伴う可能性がある蓋（口径

25.0cm) がある。

近年、小田裕樹氏は飛鳥・奈良時代の古代宮都と周辺遺跡における土器様相を検討し、台付・平底の大型供膳具を上位器種と位置づけ、これらの出土量の多寡と遺跡・遺構の性格が相関する可能性を指摘した(小田 2016)。また、長直信氏は古代九州の土器編年研究を進める中で、土器様相の差異と遺跡の性格差を追求していくべきと問題提起をした(長 2017)。以下では、こうした視点も踏まえながら牛頸窯跡群を中心に、周辺の集落や官衙出土資料を対象として検討する。なお、口径が大きく(口径 20cm 前後以上)、器高が低い(径高指数 20 以下)、いわゆる皿・盤と表現される須恵器を主な対象とするが、一部に器高が高いものや口径が小さいものも参考資料として取り上げる。

(1) 7世紀の事例

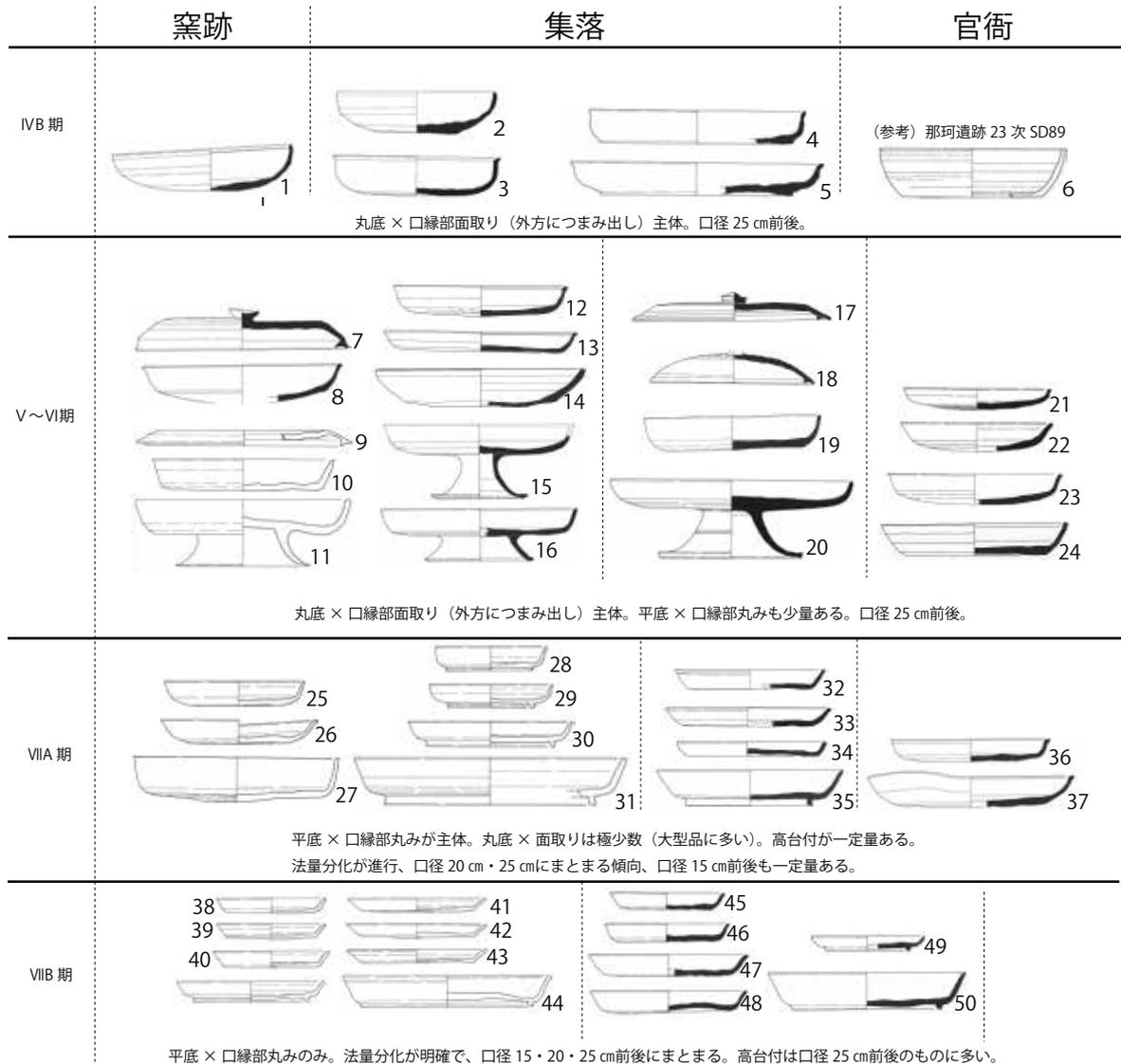
①**IVB期(7世紀前半)** 窯跡では野添窯跡7次2号窯跡で、丸底で口縁部を面取りする資料があり、現在のところ最古相に位置付けられる。集落では日ノ浦遺跡大溝や本堂遺跡7次谷部の資料があり、丸底で口縁部を面取りするものや、平底で口縁部が丸みを帯びるものがある。また、惣利西遺跡5・10号住居や仲島遺跡SD46では、器高が高い資料がある。なお、当該期の官衙関連遺跡である比恵・那珂遺跡では事例が少ないものの那珂遺跡23次SD89では平底で器高が高いものがある。当該期の資料の多くは器高4cm前後で口径25cmを超えるもの(径高指数15前後)が多い。丸底で口縁部を面取りするものが主流で、平底で口縁部が丸みを帯びるものも存在する。底部外面に手持ちヘラケズリを施すものが多い。このほか、径高指数25前後の器高が高い資料も一定量ある。資料数が少なくバリエーションも豊富で、安定した器種ではない。

②**V～VI期(7世紀中頃～後半)** V期に限定できる資料は少ない。VI期を中心とした宮ノ本窯跡・後田窯跡・平田窯跡などの資料では法量に明確なまとまりはないものの、20～25cmの間に集中する。丸底・口縁部面取りのものが主流であるが、平底で口縁部が丸みを帯びるものが増加する。径高指数は10～20の間にまとまり、器高が高いものはない。また、少数ながら高台が付くものや脚台を有すものがある。集落の事例は資料数が少ないが、窯跡と同様の傾向を示す。官衙では明確に遺構に伴う事例が少ないが、大宰府政庁周辺では丸底・口縁部面取りのものが多く、当該期に位置づけられる可能性がある。

(2) 8世紀の事例

①**VIA期(8世紀前半)** VIIA期の窯跡資料は少ないものの、ハセムシ窯跡や道の下窯跡では、平底で体部が直立し、口縁部が丸みを帯びるものがほとんどである。口縁部を面取りするものは口径25cmを越える大型品に多い。高台がつくものが一定量あり、脚台を有すものはない。法量は口径20～25cm、器高3cm前後にまとまるほか、口径15cm前後のものが増加する。官衙では前代同様に明確な時期が判明する事例は少ないが、大宰府政庁周辺の不庁地区SD2340では丸底・口縁部面取りするものがある。集落の事例は少ない。

②**VIB期(8世紀中頃～後半)** VIIB期でも古相の後田窯跡77地点1号灰原資料は、口径20cm前後・器高3cm前後に集中し、口径25cm前後・器高3～4cmにもまとまりがある。平底で口縁部は丸みを帯び体部は直線的に立ち上がる。7世紀代のものとは異なり定型化し、法量分化が明瞭になる。VIIB期新相の井手窯跡B2地区灰原資料では、口径が15cm前後、20cm前後、25cm前後でまと



1：野添遺跡 7 次、2・3：惣利西遺跡、4・5：日の浦遺跡、6：那珂遺跡、7・8：浦ノ原窯跡、9～11：平田窯跡 E 地点、12～16：宮ノ本窯跡、17：御笠団印出土地周辺遺跡、18・19：塚原、20：龍頭遺跡、21・22：大宰府政庁跡、23：蔵司跡、24：条坊 98SX005、25～31：道ノ下窯跡、32・33：日ノ浦、34・35：本堂、36・38：不丁地区、38～44：井手窯跡、45～50：日ノ浦

第 50 図 7～8 世紀の中・大型供膳具 (牛頸窯跡群周辺) (1/10)

まり、器高の高低とも概ね相関する。口径 25cm 前後のものは器高 4 cm 以上になることが多く、これは高台が付くことを反映しており、口径の大小と高台の有無が相関する可能性がある。こうした傾向は集落遺跡の日ノ浦遺跡・塚原遺跡などの事例とも矛盾せず、大 (口径 25cm 前後)・中 (口径 20cm 前後)・小 (口径 15cm 前後) と明確な法量分化がうかがえる。高台が付くものは全体の 1～2 割と少ない。

(3) 中・大型供膳具の動態と石坂窯跡 D・F 地点の位置づけ

以上、中・大型供膳具について大きく 7 世紀の事例と 8 世紀の事例に分け、形態的な特徴や法量の視点から検討した。以下では、中・大型供膳具の動態を整理するとともに、石坂窯跡 D・F 地点出土資料の位置づけを行う。

初源的なものは 7 世紀前半には出現する。丸底で古墳時代的な様相を残すが、口縁部を面取りし、

口縁端部を内外面に突出させるものがあるなど、金属器的な側面もある。一方で、8世紀以降に主流となる平底のものも一定量ある。数量は少なく、形態的な変異が大きいことや法量にまとまりがないことから、安定的な存在ではない。7世紀後半には窯跡での事例が増加し、一定量の生産が見込まれる。前代に引き続き丸底・口縁部面取りのものが主流である。こうした特徴は8世紀には非常にまれであり、7世紀の特徴と考えることができる。また、脚台を有すものもこの時期に限定される。牛頸周辺の集落では非常に少ない反面、大宰府政庁周辺に多い傾向があり、遺跡の性格差と器種の相違を反映する可能性がある。

8世紀前半には、7世紀にみられた丸底・口縁部面取りのものがほぼ消滅し、平底・口縁部丸みを有すものが主体となる。口径20cm前後・25cm前後にまとまる傾向があり、大型品を中心に高台が付くものが増加する。前代同様に一般集落では事例が少ない。

8世紀中頃～後半は前代の様相を踏襲するとともに、口径15・20・25cmの3群に法量分化する。また、大型品を中心に高台が付くものが一定量ある。

D0-A・B号窯跡出土の34は、底部が丸く口縁部を面取りする点や高台の形状が7世紀後半の杯B身に近い点で、7世紀後半の所産である可能性が高い。ただし、VI期の資料で高台を付すものは少なく、VIIA期までくだる可能性もある。D1号窯跡の45は、表土中の遺物であり年代的な位置づけは不明であるが、牛頸窯跡群最大級のものの一つである。D3号窯跡の121は丸底で口縁部を面取りし、底部外面手持ちヘラケズリである点で古相を呈す。VIIA期以前と考えられる。F1号窯跡表土出土の353は丸底気味で口縁端部をわずかに突出、灰原出土の394・395も口縁部面取り・外側に突出させており、VI期～VIIA期の可能性が高い。同窯の操業年代とも矛盾しない。なお、同灰原では口径25.0cmの大型蓋(382)が出ており、大型供膳具に伴う可能性もあるが、セットとなる器種は不明である。

以上、石坂窯跡群ではD・F地点でVI～VIIA期を中心に中・大型供膳具を生産していることが明らかとなった。当該期における中・大型供膳具は、一般集落では少なく大宰府政庁周辺に比較的多く分布している。牛頸窯跡群と大宰府との関係性の一旦を示す資料であり、今後、他の器種や土師器の大型供膳具も含め改めて検討を深める必要がある。

(上田)

3. 稜椀とヘラ書き須恵器

(1) 稜椀

D5号窯跡で2点の破片が出土した。石木秀啓氏の集成(石木2008)によると、牛頸窯跡群周辺では日ノ浦遺跡群で2点、本堂遺跡で2点あり、大宰府周辺を含めても類例が非常に乏しい。いずれも8世紀中頃～後半の集落出土例である。ここでは、稜椀の諸例を比較する。

石坂窯跡の事例(第51図5・6) 器形・調整・色調などが酷似する。体部は直線的に外方にのび、口縁部はゆるやかにL字状に屈曲する。外面の体部中位に稜が巡り、これと対応する内面は強い回転ナデにより凹面状を呈する。内面の強い回転ナデは器形に影響を及ぼすものではなく、稜は外面の回転ナデにより作出されたものと考えられる。稜付近の回転ナデは他の部位の回転ナデを切って

おり、やや光沢があることから、ある程度乾燥が進行した段階に施した可能性がある。また、外面には降灰があるが内面にはなく、本来蓋を伴っていた可能性がある。焼成はやや甘く灰色を呈する。本例は牛頸窯跡群において確実に須恵器窯跡に伴う初めての事例である。

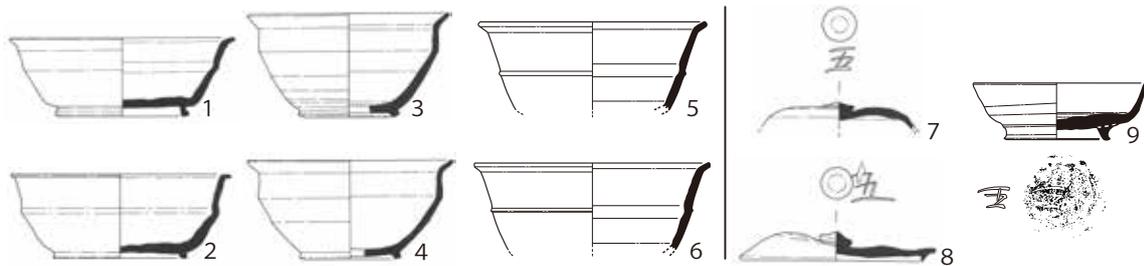
日ノ浦遺跡の事例（第51図1・2） SK17・SK20でそれぞれ1点ある。SK17例は、体部が直線的に外方にのび、口縁部はゆるやかにL字状に屈曲する。体部内面中位は強い回転ナデにより凹面状を呈し、これと対応する外面が緩やかに突出する。内面の強い回転ナデにより外面の稜を作出した可能性がある。口縁端部～体部外面と内面の焼成具合が異なり、本来蓋を伴っていたと考えられる。焼成不良で瓦質を呈する。SK20例は、体部が直線的に外方にのび、口縁部は強く屈曲し上面が水平となる。体部内面中位は強い回転ナデにより凹面状を呈し、これと対応する外面が緩やかに突出する。外面の稜付近には、さらに回転ナデを加えて稜を強調している。口縁端部～体部外面に降灰があるが、内面には降灰がなく、本来蓋を伴っていたと考えられる。焼成は良好である。なお、日ノ浦例は、石坂例・本堂例と比べやや器高が低い。

本堂遺跡の事例（第51図3・4） 6次SX06で2点報告されている。器形・調整・色調などが酷似しており、同一個体の可能性もあるが、口縁部上面の形態がわずかに異なる。体部は深く、下半部は丸みを帯び、上半部は直立する。口縁部は緩やかにL字状に屈曲し、上面は強い回転ナデにより凹線状を呈す。体部内面中位は強い回転ナデにより凹線状を呈し、これと対応する外面に稜が生じている。さらに外面の稜線から下位に回転ヘラケズリを施し、稜を強調している。外面には降灰が認められるが、内面には降灰がなく、口縁端部の一部に釉着痕があることから、本来蓋を伴う可能性がある。

以上、3遺跡の事例について概要を記した。石坂窯跡の事例は、唯一生産地の出土例であり、消費地の事例と比較することにより需給関係を明らかにできるのではないかと考えたが、製作技法や器形など三者三様であり、明確な結果を得ることができなかった。ただし、いずれも外面の稜に対応する内面に強い回転ナデをくわえることが共通しており、牛頸窯跡群の稜碗の特徴といえるかもしれない。今後、他地域の事例も検討する必要がある。

（2）ヘラ書き須恵器

F1号窯跡で、杯B身の底部外面に「五」と記したヘラ書き須恵器がある。しっかりとした筆跡ではあるが、一般的な書き順の二画目となる縦画を最後に記す。器形からVI期の所産と考えられる。牛頸窯跡群周辺で「五」のヘラ書き須恵器は塚原遺跡で2点ある。いずれも正しい書き順で書いており、石坂例とは異なる。時期はいずれもVI期と考えられ、石坂例と同時期に位置づけられる。興味深いのが2点とも大きく歪んでいることで、特に第51図8は焼成時に割れが生じている。塚原遺跡群は須恵器工人集落と位置づけられ、ヘラ書き須恵器の文字を記した集落という意見（石木2008）や、須恵器の集積地・選別場であったという意見もある。「五」という単純な文字ではあるが、生産地と消費地で同時期の同様のヘラ書き須恵器が存在することは、須恵器の需給関係を推測する上で大きな手がかりとなる。石坂例は生産地における1次選別で廃棄したもの、塚原例は2次選別により廃棄されたものと理解することができるのであれば、石坂窯跡と塚原遺跡の需給関係を示し、塚原遺跡が須恵器の集積地・選別場であったという考えを補強する。牛頸窯跡群における生産体制



【稜椀】

1：日ノ浦遺跡 SK17、2：日ノ浦遺跡 SK20、3・4：本堂遺跡 6次 SX06、5・6：石坂窯跡 D 地点 5号窯跡

【へら書き須恵器「五」】

7：塚原遺跡群 SK13、8：塚原遺跡群 P776、9：石坂窯跡 F 地点 1号窯跡

第 51 図 牛頸窯跡群周辺の稜椀・へら書き須恵器「五」(1/6)

や生産物の管理・流通を考える上で、非常に興味深い資料といえよう。今後、牛頸周辺以外の消費地におけるへら書き須恵器「五」の発見が期待される。

(上田)

【参考文献】

石木秀啓 2008「Ⅲ. まとめ 2. 奈良時代の本堂遺跡群」(大野城市教育委員会『牛頸本堂遺跡群Ⅴ』大野城市文化財調査報告書第 76 集)

石木秀啓 2017「牛頸窯跡群出土のへら書き須恵器について」『考古学・博物館学の風景 中村浩先生古希記念論文集』

遠藤茜 2008「Ⅲ. まとめ 4. 牛頸塚原遺跡群出土のへら書き須恵器」(大野城市教育委員会『牛頸本堂遺跡群Ⅶ』大野城市文化財調査報告書第 81 集)

小田裕樹 2016「古代官衙とその周辺の土器様相」『第 19 回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と土器 2』

長直信 2017「西海道の土器編年研究 - 7 世紀における土器編年の現状と課題 -」『徹底追及！大宰府と古代山城の誕生』

【報告書】

〈大野城市〉1981『牛頸平田窯跡 - E 地点 - 』大野城市文化財調査報告書第 7 集、1991『牛頸後田窯跡群』大野城市文化財調査報告書第 33 集、1994『牛頸日ノ浦遺跡群』大野城市文化財調査報告書第 42 集、1995『牛頸塚原遺跡群』大野城市文化財調査報告書第 44 集、2006『牛頸野添遺跡群Ⅳ～第 7 次調査～』大野城市文化財調査報告書第 70 集、2008『牛頸本堂遺跡群Ⅴ』大野城市文化財調査報告書第 76 集

〈春日市〉1981『浦ノ原窯跡群』春日市文化財調査報告書第 11 集、1985『春日地区遺跡群Ⅲ』春日市文化財調査報告書第 15 集

〈九州歴史資料館〉2002『大宰府政庁跡』、2013『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅳ - 不丁地区 遺物編 1 - 』、2020『大宰府政庁周辺官衙跡ⅩⅡ - 蔵司地区 平坦部編 1 - 』

〈太宰府市〉1992『宮ノ本遺跡 - 窯跡篇 - 』太宰府市文化財調査報告書第 10 集、1996『大宰府条坊跡Ⅸ』太宰府市文化財調査報告書第 30 集、2000『御笠団印出土地周辺遺跡Ⅰ - 第 7・9・10 次 - 』太宰府市文化財調査報告書第 47 集

〈福岡県〉1988『牛頸窯跡群Ⅰ』福岡県文化財調査報告書第 80 集、1989『牛頸窯跡群Ⅱ』福岡県文化財調査報告書第 89 集、1996『龍頭遺跡』福岡県文化財調査報告書第 123 集

〈福岡市〉1992『那珂遺跡 4』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 291 集

4. 陶硯の位置付け

石坂窯跡D地点5号窯およびF地点1号窯では、陶硯が出土した。牛頸窯跡群では300基を超える窯跡が調査されてきたが、陶硯の出土量は極めて少ないことが明らかとなっている（山元2021a）。報告資料は、牛頸窯跡群における陶硯生産の実態を解明する上で、重要な位置を占めるため、種類ごとに検討を加え、位置付けについて述べる。なお、牛頸窯跡群における陶硯の時期的変遷や出土状況については、すでに『史跡牛頸須恵器窯跡1』（大野城市文化財報告書第186集）にまとめているため、そちらを参照いただきたい。

(1) 圈足円面硯

圈足円面硯はD地点5号窯の窯体内埋土から2点、灰原から1点の計3点出土した（第24図233・234、第30図319）。共伴する須恵器から、8世紀後半に位置付けられる。いずれも硯部を欠いており、全体をうかがえるものはない。脚部はL字状に屈曲し、端部がわずかに垂下するもので、須恵器高杯の脚部に類似する。透かしはいずれも長方形を呈し、319のみ円形と長方形を組み合わせた特徴的な構成である。長方形の透かしは、牛頸産の圈足硯において最も普遍的な装飾である。一方の円形透かしは、牛頸窯跡群で初めて確認された装飾である（註1）。大宰府出土資料においても、長方形透かしと円（長円）形透かしの割合は概ね10:1を示し、客体的な存在と言える（山元2021b）。なお、透かしを施す際、233・234については内面の角を丁寧に面取りしている。面取りは、7世紀後葉から8世紀前葉の古い段階の資料には普遍的に認められ、8世紀後葉段階には省略傾向にあることから、233・234は丁寧な作例と言えるだろう。

(2) 円形硯

円形硯は、8世紀後半に位置付けられるD地点5号窯灰原から1点出土した（第30図318）。牛頸窯跡群では、本資料が初例となる。須恵器皿をベースとしたもので、皿の中央に円形の硯面を作り出し、その周囲には海をめぐらせる。底部には円柱状の低い脚を2つ並べて貼り付け、硯面に傾斜をつける。傾斜した硯面の最も低くなる部分にはくぼみが設けられ、墨汁はまずこのくぼみに溜まる仕組みである。形態は異なるものの、構造としては風字硯に近い。牛頸窯跡群における風字硯の生産開始は8世紀後半にあたり、畿内とはほぼ同時期に導入されたことが明らかになっている。今回報告した円形硯も8世紀後半に位置付けられる点を踏まえると、風字硯の構造を把握した（製作していた？）工人によって創出された陶硯である可能性が高い。

大宰府出土事例の検討 脚のついた円形硯は大宰府において類例が見出せるため、これらの資料と石坂例との比較を行う。大宰府出土資料は形態的特徴から、A・Bの2つに分類できる（第52図）。A類は須恵器杯蓋をベースとするもので、逆位に据えた杯蓋に3つの脚がつく。脚は3箇所均等に配置され、2つは長方形の低い脚を貼付し、残りの1つは器面をくぼませて海部兼用の脚としている。この海を兼ねる脚は、他の2脚と比べて低く作られていないため、硯面は水平に近いものと推測される（註2）。石坂例との形態的な差異は大きいものの、墨汁を溜めるくぼみを有する点は類似する。第52図2は8世紀前葉の土器群に伴うことから、当該期には存在したことは確実だが、類例が少ないため、出現時期や存続幅は不明である。

B類はいずれも全形をうかがうことはできないが、皿をベースとしたものとみられる。底面に2

つ並んで脚を貼り付け、傾斜した状態での使用を意図している点は、石坂例と一致する。一方で、突出する硯面（陸部）を持たない、脚の先端をつまみ出して獣脚状に成形するといった相違点も認められる。いずれも良好な出土状況に恵まれず、時期を特定することは難しい。

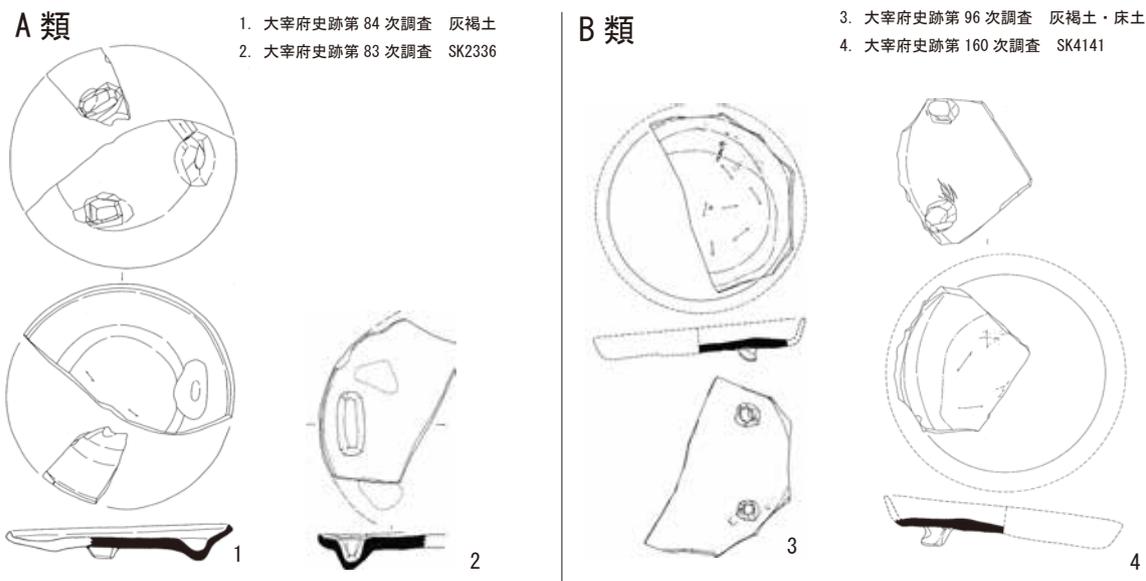
上記の比較を踏まえると、石坂例は円形硯B類に相当する資料と言えよう。石坂例は大宰府のものに比べて残存状況がよく、硯面を傾斜させて使用することが明確に分かる好例である。また、B類の年代的定点となる点も重要である。今回提示した各型式の時期幅は明らかでないが、A類は8世紀前半、B類は8世紀後半に存在したことは確実であるため、A→Bの出現順序と仮定しておく。そうであるならば石坂例は、墨汁を溜めるくぼみを作り出す古手の要素（A類）、硯面を傾斜させる新来の要素（B類）を同時に有する折衷的な存在と評価できよう。

(3) 把手付中空円面硯

F地点1号窯から把手部分が1点出土しており（第40図413）、共伴した須恵器から7世紀後葉に位置付けられる。中央は空洞で、上面にあけられた長方形の穿孔と繋がる。おそらく硯部も中空で、把手と接続していたとみられる。表面は丁寧に面取りされ、先端が尖ることから亀をモチーフにしたものとみられるが、口や目の表現はない。窯に確実に伴う資料としては、3例目である。

筑前国出土事例の検討 把手付中空円面硯については、これまでも九州北部地域で多くの類例が紹介されており、本地域に分布の集中が認められる（杉本1987）。今回は牛頸産須恵器の主要な消費地である筑前国を対象を絞り、資料を集成した（表1・第53図）（註3）。

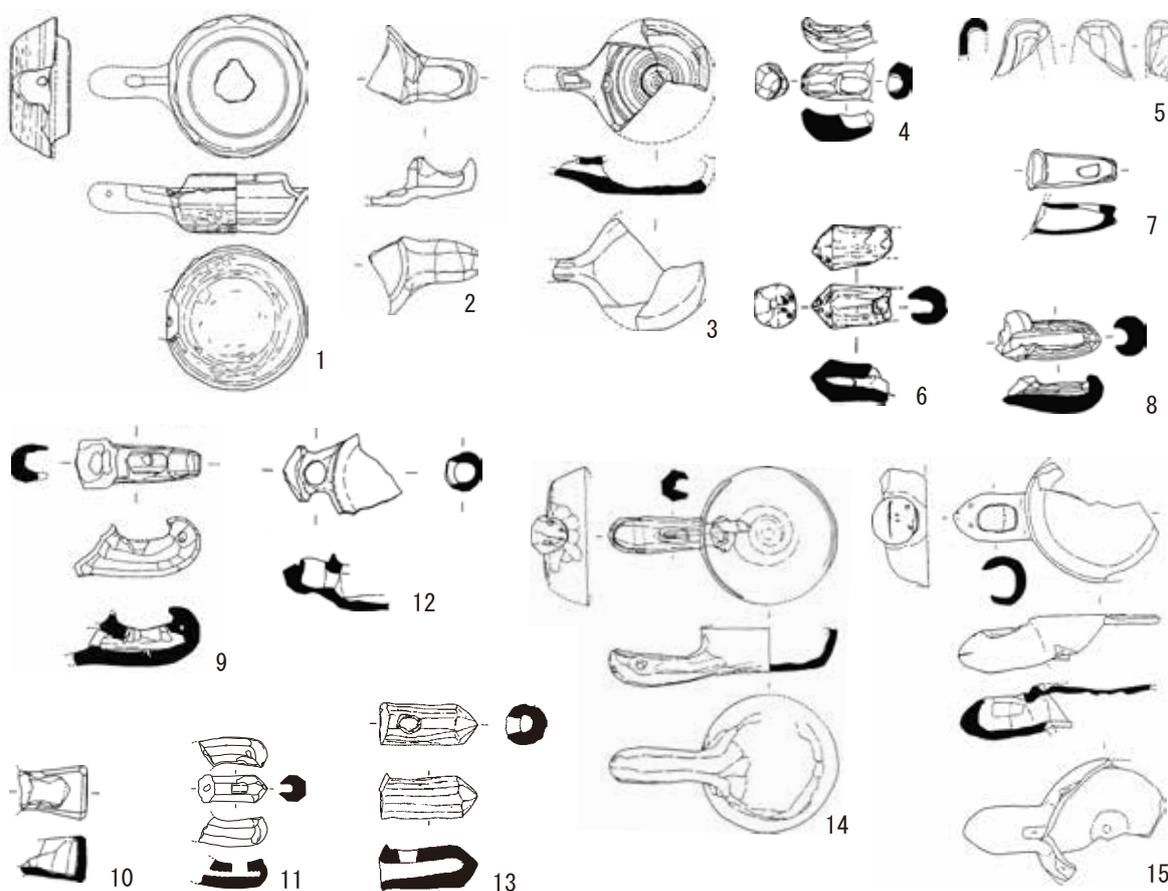
まず分布状況を見ると、大野城市南部地域、つまり牛頸窯跡群内に最も集中する。窯跡に伴うものとしては、春日市浦ノ原4号窯や大野城市ハセムシ窯のものがある。前者は7世紀後葉の資料で、口や目がへら描きされており、明確に亀を表現する。後者は7世紀後葉から8世紀初頭の資料で、亀形とされるが、三角形の頭部を有する点は他に類例を見出せない。その他、窯跡の一角に位置する集落遺跡である春日市惣利北遺跡や大野城市本堂遺跡群、梅頭遺跡群からも出土している。これらには、鳥（もしくは亀）をモチーフにしたものや方形のものなど、多様な把手形態が認められる。



第52図 大宰府出土円形硯の諸例 (1/6)

表 1 筑前国出土把手付中空円面硯

No	遺跡名	種別	遺構	所在地	時期	把手形態			出典
						亀	鳥	その他	
1	元岡・桑原遺跡群7次	官衙	SX123	福岡市西区元岡	7C後～		?		福岡市1012集
2	元岡・桑原遺跡群20次	官衙	SX002	福岡市西区元岡	7C末～8C後	○?			福岡市902集
3	元岡・桑原遺跡群31次	製鉄	2面Tr1	福岡市西区元岡	—		?		福岡市1103集
4	観世音寺(大宰府史跡109次)	寺院	黒褐色土	太宰府市観世音寺	—	○			大宰府史跡S63概報
5	大宰府政庁周辺官衙不丁地区(大宰府史跡14次)	官衙	SD320	太宰府市観世音寺	7C後～8C	○?			大宰府政庁周辺官衙跡V
6	前田遺跡5次	官道	SD02	太宰府市大佐野	—	○			太宰府市63集
7	本堂遺跡群7次	窯跡?	谷部B区5層	大野城市上大利	—	○			大野城市81集
8	本堂遺跡群7次	窯跡?	灰原1上層	大野城市上大利	—	○?			大野城市81集
9	本堂遺跡群12次	窯跡?	第2面包含層	大野城市上大利	—	○?			大野城市80集
10	梅頭遺跡群2次	窯跡?	2・3区間谷部褐色土	大野城市上大利	—			○	大野城市84集
11	石坂窯跡群F地点	窯跡	1号窯	大野城市牛頭	7C後	○			大野城市210集
12	ハセムシ窯跡群	窯跡	最下段灰原	大野城市牛頭	7C後～8C初	○?			大野城市30集
13	九州大学筑紫キャンパス遺跡群	官道/寺院?	9E区整地層	春日市春日公園	—	○			九州大学埋文調査室6集
14	浦ノ原窯跡群	窯跡	4号窯	春日市大土居	7C後	○			春日市11集
15	惣利北遺跡	集落	1号住居	春日市春日	7C後	○			春日市16集



※番号は表 1 に対応

第 53 図 筑前国出土把手付中空円面硯の諸例 (1/6)

牛頭窯跡群に次いで多く出土しているのが、福岡市西区の元岡・桑原遺跡群である。墨書土器や木簡を伴うことから、公的機関との関連が推測される。なお、周辺に須恵器窯は見つかっていないが、焼き歪んだ須恵器や当具などの土器生産に関連する木製品が出土するなど、須恵器の生産が示唆されることから、陶硯も地元で生産された可能性が考えられる。

意外なことに牛頭産陶硯の一大消費地である大宰府では、不丁官衙地区で 1 点、観世音寺跡で 1

点のわずか2点しか出土しておらず、その他には府庁域から外れた太宰府市前田遺跡で1点確認できるのみである。

次に、形態に着目する。把手部分をみると、亀を模したものが最も多い。多様な表現方法が認められるが、ヘラ書きなどで亀の顔を表現したものや先端部を削り出して亀の頭だけを表現したものが多く、把手はいずれも中空で、上面に穿孔が施される点はすべてに共通する。

最後に時期について確認しておく。生産地の資料は、いずれも7世紀後葉から8世紀初頭に収まる。牛頸窯跡群における陶硯生産の開始は7世紀後葉であることから、陶硯導入期の比較的短期間に生産された可能性がある。消費地については、時期を特定できる資料が少ないものの、概ね生産地と同様の傾向を示すようである。

以上、筑前国出土の把手付中空円面硯について概要を整理した。出土量が少ないこともあり、大まかな傾向の把握に留まったが、特に亀形の把手が多い点は指摘できよう。出土遺跡の内容をみると、官衙や寺院、窯跡からの出土が多く、一般的な陶硯と同様の傾向を示すものの、筑前国最大の陶硯出土量を誇る大宰府での少なさが際立つ。短期間の生産に起因する可能性もあるが、選択的受容の結果である可能性も想定される。今後の出土例の増加を踏まえ、改めて検討したい。

(4) まとめ

今回報告した資料には圈足円面硯・円形硯・把手付中空円面硯がみられ、7世紀後半から8世紀後半に至るまで、多様な陶硯を生産していた様子がより鮮明になった。特に脚付きの円形硯は、牛頸窯跡群唯一の出土例で、確実な生産を示す重要な資料である。こうした特殊な円形硯は、現状のところ大宰府でのみ確認されるため、牛頸窯跡群と大宰府との密接な需給関係を補強するものといえるだろう。

(山元)

【註】

- (1) 牛頸窯跡群内に位置する大野城市塚原遺跡のSK04からは、楕円型の透かしを有した円面硯が出土している。形態や胎土、色調から牛頸産である可能性が高い。
- (2) 第52図1は、破片資料を復元しており、傾き等は明確でない。
- (3) 今回は把手が確実に伴うもののみを対象とし、把手のつかない中空円面硯は除外した。

【参考文献】 ※紙幅の都合上、報告書は割愛した。

杉本 宏 1987「飛鳥時代初期の陶硯」『考古学雑誌』第73巻2号 日本考古学会

山元瞭平 2021a「牛頸窯跡群出土の陶硯」『史跡牛頸須恵器窯跡1』大野城市文化財調査報告書第186集 大野城市教育委員会

山元瞭平 2021b「大宰府の陶硯と牛頸窯跡群」『九州考古学』第96号 九州考古学

表2 石坂窯跡D地点出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)			
1	須恵器	杯蓋	0-A号窯 表土層	①10.5 ②1.6	外面:回転ヘラズリ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
2	須恵器	杯蓋	0-A号窯 表土層	①14.9 ②2.8 ⑤つまみ径3.0・受部径:15.5	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
3	須恵器	杯蓋	0-A号窯 表土層	①16.7 ②2.7 ⑤つまみ径2.9	外面:ナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
4	須恵器	杯	0-A号窯 表土層	①12.8 ②3.1	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰10Y5/1	
5	須恵器	杯身	0-A号窯 表土層	②(2.85) ③(7.0)	外面:回転ナデ・高台貼付ナデ・ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石・微細石英少量 B:不良 C:内外、浅黄2.5Y7/3	全体的に摩耗
6	須恵器	杯身	0-A号窯 表土層	①(14.4) ②4.2 ③(10.4)	外面:回転ナデ・高台貼付・回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石・微細石英少量 B:やや不良 C:内外、灰白7.5Y8/1	全体的に摩耗
7	須恵器	杯身	0-A号窯 表土層	①14.1 ②5.6 ③10.0	外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰B6/1	
8	須恵器	杯身	0-A号窯 表土層	①(14.8) ②6.15 ③(9.8)	外面:回転ナデ・ヘラズリ・高台貼付時ヨコナデ・回転ヘラ切り後ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量・微細金雲母微量 B:良好 C:内外、灰N6/	土器片付着
9	須恵器	高杯	0-A号窯 表土層	②(4.7) ③(10.8)	外面:回転ナデ・ヘラズリ後ヨコナデ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗オリーブ灰2.5GY4/1内、灰N4/	
10	須恵器	甕	0-A号窯 表土層	①(38.8) ②(14.3)	外面:回転ナデ・板状工具によるヨコナデ・ナデ・沈線文・ヘラ沈線 内面:回転ナデ・板状工具によるヨコナデ・押え痕後ヨコナデ・同心円文	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N4/	
11	須恵器	杯蓋	0-A号窯 窯体内埋土	①13.0 ②1.6	外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm赤色粒子少量 B:不良 C:外、にぶい橙7.5YR7/3 内、浅黄橙7.5YR8/3	
12	須恵器	杯蓋	0-A号窯 窯体内埋土	①16.6 ②2.2 ③つまみ径2.3	外面:ヨコナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰黄2.5Y7/2	
13	須恵器	杯身	0-A号窯 窯体内埋土	①12.2 ②3.8 ③9.0	外面:回転ナデ・ケズリ・高台貼付・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、オリーブ灰2.5G6/1	
14	須恵器	杯身	0-A号窯 窯体内埋土	①(14.8) ②5.45 ③(11.4)	外面:回転ナデ・高台貼付回転ナデ・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、にぶい橙7.5YR5/3 内、暗黄灰2.5Y5/2	
15	須恵器	杯身	0-A号窯 窯体内埋土	②(2.3) ③(9.4)	外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ切り後未調整・ヨコナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	
16	須恵器	杯身	0-A号窯 窯体内埋土	②(2.3) ③(10.4)	外面:ナデ・高台貼付・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm角閃石少量 B:不良 C:外、灰5Y4/1 内、にぶい黄2.5Y6/3	
17	須恵器	杯身	0-A号窯 窯体内埋土	①15.0 ②4.9 ③11.2	外面:回転ナデ・高台貼付ヨコナデ・回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英・1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰5Y4/1 内、灰オリーブ5Y4/2	
18	須恵器	短頸壺	0-A号窯 窯体内埋土	①(13.0) ②(6.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、オリーブ灰2.5GY6/1	
19	須恵器	杯蓋	0-B号窯 窯体内埋土	①(14.0) ②2.1 ⑤つまみ径1.9	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、青灰10BG6/1 内、青灰10BG5/1	
20	須恵器	杯蓋	0-B号窯 窯体内埋土	①(16.3) ②2.8 ⑤つまみ径2.7	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・ヘラ記号 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、にぶい橙5YR6/3 内、にぶい橙7.5YR7/3	
21	須恵器	杯蓋	0-B号窯 窯体内埋土	①20.8 ②3.6 ⑤つまみ径2.9	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、浅黄橙7.5YR8/6	
22	須恵器	杯身	0-B号窯 窯体内埋土	①(17.4) ②(4.7)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白2.5Y7/1	
23	須恵器	杯身	0-B号窯 窯体内埋土	②(1.9) ③(13.0)	外面:回転ナデ・貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm赤色粒子少量 B:不良 C:内外、浅黄橙7.5YR8/4	
24	須恵器	杯身	0-B号窯 窯体内埋土	①(21.8) ②5.8 ③(14.3)	外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm角閃石少量 B:やや不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/3 内、にぶい橙7.5YR7/4	
25	須恵器	皿	0-B号窯 窯体内埋土	①(15.6) ②2.7 ③(12.7)	外面:回転ナデ・丁寧なヘラズリ 内面:付着物・ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、灰白N7/	
26	須恵器	甕	0-B号窯 窯体内埋土	①(18.0) ②(4.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリーブ黒5Y3/1 内、灰N4/	
27	須恵器	杯蓋	0号窯 灰原	①(11.5) ②1.4	外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	
28	須恵器	杯蓋	0号窯 灰原	①(15.5) ②2.3	外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1.5mm石英微量 B:不良 C:内外、にぶい黄橙10YR7/3	
29	須恵器	杯蓋	0号窯 灰原	①14.6 ②2.5 ⑤つまみ径2.8	外面:ヨコナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 2mm黒色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰白5Y8/2	
30	須恵器	杯蓋	0号窯 灰原	①14.0 ②3.0 ⑤つまみ径2.5	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1-3mm石英少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
31	須恵器	杯身	0号窯 灰原	②(2.4) ③8.4	外面:回転ナデ・高台貼付・回転ヘラズリ 内面:強いナデ	A:精良 2mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰白7.5Y7/1	
32	須恵器	杯身	0号窯 灰原	②(3.0) ③(7.3)	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・高台貼付・ヘラズリ後ナデ 内面:ナデ・指オサエ	A:精良 1-1.5mm石英少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
33	須恵器	杯身	0号窯 灰原	①(16.7) ②(4.7)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	
34	須恵器	皿	0号窯 灰原	①(21.4) ②4.6 ③(11.8)	外面:回転ナデ・高台貼付・回転ヘラズリ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、褐灰10YR5/1	
35	須恵器	長頸壺	0号窯 灰原	②(7.4) ③(11.2)	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・高台貼付ナデ・回転ヘラ切り 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、にぶい橙5YR6/3	
36	須恵器	短頸壺	0号窯 灰原	②(9.8)	外面:回転ナデ・把手貼付ナデ・降灰 内面:ヨコナデ・指頭痕	A:精良 1-2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、黄灰2.5Y6/1	
37	須恵器	杯	0号窯 灰原	①(13.0) ②3.8 ③(10.0)	外面:回転ナデ・ヘラズリ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 3mm石英少量 B:不良 C:外、にぶい黄褐10YR5/4 内、明黄褐10YR6/6	
38	土師器	杯蓋	1号窯 表土層	①10.9 ②1.9	外面:ヘラ切り・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	
39	須恵器	杯蓋	1号窯 表土層	①12.0 ②3.4 ⑤つまみ径2.3	外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y6/6	歪んでいる

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元)(残存)				
40	須恵器	杯蓋	1号窯 表土層	①15.0 ②2.8 ⑤つまみ径:2.5		外面:ヨコナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm黒色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/2 内、灰白2.5Y8/2	
41	須恵器	杯身	1号窯 表土層	①12.5 ②4.7 ③8.5		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰5B5/1 内、青灰5PB6/1	
42	須恵器	杯身	1号窯 表土層	①(13.4) ②3.7 ③(9.0)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
43	須恵器	杯身	1号窯 表土層	①14.1 ②3.8 ③9.5		外面:回転ナデ・貼付高台・ヘラ切り 内面:回転ナデ・回転ナデ後工具ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、暗青灰5B4/1	
44	須恵器	杯身	1号窯 表土層	①(14.0) ②5.9 ③(9.3)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ・ 接合痕 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英・微細白色粒子少量 B:不良 C:内外、灰白5Y7/	
45	須恵器	盤	1号窯 表土層	①(49.0) ②(4.6)		外面:回転ナデ・ヘラズリ・剥離 内面:回転ナデ・凹線・降灰	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、オリブ黒5GY2/1	大皿か・断面内焼 き跡あり
46	須恵器	短頸壺	1号窯 表土層	①(13.4) ②(2.8)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰5Y6/1	
47	須恵器	壺	1号窯 表土層	②(7.0) ③(9.3)		外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ・ヘラ切り後 ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英・微細白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10Y6/2 内、褐灰10Y6/1	
48	須恵器	鉢	1号窯 表土層	①(32.0) ②18.65 ③(19.0)		外面:ヨコナデ・沈線・ナデ・ヘラズリ・降灰 内面:ヨコナデ・ナデ、指頭痕・降灰	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y4/1/ 内、灰7.5Y5/1/	
49	鉄製品	U字型鋤先	1号窯 表土層	⑤残存長8.5 残存幅16.8 刃部幅2.8				
50	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①(13.5) ②1.4		外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・付着物 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	付着物有
51	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①(13.8) ②2.2 ⑤つまみ径2.2		外面:ナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	
52	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①13.9 ②2.9		外面:ナデ・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後一定方向のナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰7.5Y5/1	
53	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①13.5 ②4.0		外面:回転ナデ・回転ヘラズリ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 1mm雲母微量 B:不良 C:外、にぶい赤橙10R6/4 内、灰赤2.5YR6/2	
54	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①14.7 ②2.3		外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後一定方向のナデ・回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰10Y6/1 内、灰白N7/	
55	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①(14.0) ②(1.9)		外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	
56	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①(15.9) ②2.5		外面:回転ナデ・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、浅黄2.5Y7/3 内、にぶい橙7.5YR7/4	
57	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①17.0 ②2.2		外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:不良 C:外、黄褐2.5Y5/3 内、黄灰2.5Y4/1	つまみ剥離
58	須恵器	杯蓋	1号窯 窯体内埋土	①(20.0) ②(1.9)		外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石微量 1mm赤色粒子・1mm白色粒 子少量 B:不良 C:内外、灰白5Y8/1	
59	須恵器	杯	1号窯 窯体内埋土	①13.0 ②3.1		外面:回転ナデ・ヘラズリ・ヘラ切り未調整 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:やや不良 C:内外、黄灰2.5Y6/1	
60	須恵器	杯身	1号窯 窯体内埋土	①(12.9) ②4.6 ③8.7		外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ切り 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm黒色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y8/2	
61	須恵器	杯身	1号窯 窯体内埋土	①(13.3) ②4.2 ③(10.0)		外面:回転ナデ・高台貼付ヨコナデ・ヘラズリ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、にぶい黄橙10YR7/4	
62	須恵器	杯身	1号窯 窯体内埋土	①(13.8) ②3.7 ③9.4		外面:回転ナデ・高台貼付ヨコナデ・回転ヘラズリ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、灰白5Y7/1	
63	須恵器	杯身	1号窯 窯体内埋土	①(17.0) ②5.15 ③(10.0)		外面:回転ナデ・ヘラズリ・高台貼付 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰白N7/	
64	須恵器	長頸壺	1号窯 窯体内埋土	②(4.8)		外面:回転ナデ・ナデ 内面:オサエ痕・回転ナデ	A:精緻 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、にぶい赤褐5YR5/3 内、灰5Y6/1	
65	須恵器	杯蓋	2号窯 窯体内埋土	①(14.0) ②1.7		外面:磨減の為調整不明 内面:磨減の為調整不明	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、浅黄橙10YR8/3	
66	須恵器	杯蓋	2号窯 窯体内埋土	①(16.2) ②2.2		外面:回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm黒色粒子多量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、浅黄2.5Y7/3	
67	須恵器	杯蓋	2号窯 窯体内埋土	①(14.3) ②1.6 ⑤つまみ径:2.5		外面:ナデ・回転ヘラズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
68	須恵器	杯身	2号窯 窯体内埋土	②(1.6) ③(9.2)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、淡黄2.5YR8/3	
69	須恵器	杯身	2号窯 窯体内埋土	①(13.0) ②4.1 ③(9.4)		外面:回転ナデ・貼付高台、回転ナデ・ヘラ切り 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	
70	須恵器	杯蓋	3号窯 表土層	①(13.4) ②(2.9)		外面:つまみ剥離・ヘラ切り後工具ナデ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ・降灰・焼成時膨張	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰N6/	重ね焼き時土器片 付着
71	須恵器	杯身	3号窯 表土層	①12.3 ②3.5 ③7.2		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、 工具痕が格子状に残る 内面:強い回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰10BG3/1 内、暗青灰10BG4/1	
72	須恵器	杯身	3号窯 表土層	①(15.8) ②5.4 ③9.2		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、灰白N4/ 内、淡黄2.5Y8/3	
73	須恵器	杯	3号窯 表土層	①13.2 ②3.75 ③8.4		外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・降灰、ワラ状の痕跡あ り 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰5Y4/1	
74	須恵器	皿	3号窯 表土層	①(14.0) ②2.3 ③(10.6)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、灰N6/	
75	須恵器	壺	3号窯 表土層	②(8.8) ③(14.4)		外面:回転ナデ・回転ヘラズリ・高台貼付時ヨコナデ・ 回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後タテ方向の工具ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、青灰5PB6/1 内、青灰5B5/1	
76	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①(12.2) ②1.8		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	
77	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	②(0.9)		外面:ナデ・穿孔・ナデ・降灰 内面:ナデ・穿孔・ナデ	A:精良 1mm白色粒子僅少 B:やや不良 C:内外、灰N5/	天井部破片

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)				
78	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①13.2 ②2.6 ⑤つまみ径:2.4		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、灰白7.5Y7/1	
79	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①13.4 ②2.8 ⑤つまみ径:2.6		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白10YR8/2	
80	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①14.0 ② (1.5)		外面:つまみ剥離・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ・焼成時に割れあり	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:不良 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、黄灰2.5Y7/3	
81	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①14.2 ②3.1 ⑤つまみ径:2.5		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・接合痕・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英や少量 B:不良 C:外、にぶい赤褐2.5YR5/3-灰褐7.5YR6/2 内、にぶい赤褐5YR5/3	
82	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①14.2 ②2.6 ⑤つまみ径:2.6		外面:ナデ・ヘラケズリ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ・降灰	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、暗青灰10BG3/1 内、灰7.5Y5/1	
83	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①(14.8) ②3.0 ⑤つまみ径:3.1		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、にぶい黄橙10YR7/4	
84	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①(14.8) ②2.3 ⑤つまみ径:3.5		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1-2mm長石・1-2mm石英少量 B:不良 C:外、にぶい赤褐5YR5/3 内、にぶい赤褐5YR5/4	
85	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①14.4 ②2.9 ⑤つまみ径:2.8		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	
86	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①14.8 ②3.1 ⑤つまみ径:2.8		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、灰7.5Y4/1 内、灰7.5Y5/1	
87	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①15.0 ②2.5 ⑤つまみ径:2.9		外面:ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:不良 C:内外、灰黄2.5Y6/2	
88	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①15.0 ②1.7 ⑤つまみ径:2.4		外面:ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:不良 C:内外、灰白7.5Y8/1	全体的に摩耗
89	須恵器	杯蓋	3号窯 灰原上層	①15.4 ②2.9 ⑤つまみ径:3.4		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	全体的に磨滅
90	須恵器	杯	3号窯 灰原上層	①(10.4) ②2.9		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・降灰により不明	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、オリープ黒7.5Y3/1	
91	須恵器	杯	3号窯 灰原上層	①(12.0) ②2.9 ③(9.8)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後工具ナデ、工具痕多・降灰・付着物 内面:回転ナデ・降灰	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
92	須恵器	杯	3号窯 灰原上層	①(12.4) ②2.8 ③(9.8)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後工具ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y4/1	
93	須恵器	杯	3号窯 灰原上層	①11.6 ②2.7 ③8.7		外面:回転ナデ・降灰・ヘラ切り後工具ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
94	須恵器	杯	3号窯 灰原上層	①12.2 ②2.8 ③9.6		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・焼成時に割れアリ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰5Y4/1	底部付着物
95	須恵器	杯	3号窯 灰原上層	①14.2 ②3.75		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後板状圧痕 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰オリープ5Y6/2 内、灰白7.5Y7/1	歪みあり
96	須恵器	杯	3号窯 灰原上層	①(15.2) ②3.4 ③(10.8)		外面:回転ナデ・ヘラ切り、一部赤変している 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、にぶい橙7.5YR7/4	
97	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(10.8) ②3.35 ③(7.4)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・回転ヘラケズリ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 2mm長石・2mm石英少量 B:良好 C:内外、灰5Y4/1	
98	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(11.5) ②3.9 ③(7.8)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ・降灰 内面:回転ナデ・ナデ・降灰	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、オリープ黒5Y3/1	
99	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(12.0) ②3.5 ③7.8		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・微細白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
100	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(12.2) ②4.4 ③(9.8)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白N5/ 内、黄灰2.5Y5/1	
101	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(12.3) ②3.6 ③(8.7)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、黄灰2.5Y5/1	
102	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(12.4) ②4.8 ③(8.6)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰5Y5/1	
103	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①12.7 ②3.6 ③8.5		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、緑灰7.5GY6/1	
104	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(12.6) ②3.9 ③(8.7)		外面:回転ナデ・貼付高台・ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・1mm白色粒子少量・小石含む B:良好 C:内外、灰N6/	
105	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	② (2.5) ③9.1		外面:回転ナデ・貼付高台・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y8/1	
106	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.0) ②4.3 ③9.7		外面:回転ナデ(メマツ)・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ(メマツ)・回転ナデ後ナデ(メマツ)	A:精良 1mm長石少量 1mm赤色粒子多量 B:不良 C:外、にぶい橙7.5YR7/4 内、橙7.5YR7/6	
107	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(12.7) ②3.9 ③(8.6)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm黒色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、黄灰2.5Y5/1	
108	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.4) ② (4.9)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y5/1	
109	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.4) ②4.4 ③8.7		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、灰褐5YR6/2 内、灰黄褐10YR5/2	
110	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.4) ②4.3 ③9.2		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラケズリ後ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	
111	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.4) ②3.8 ③(8.0)		外面:回転ナデ・貼付高台・ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
112	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①13.7 ②4.3 ③9.6		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石・微細白色粒子少量 B:不良 C:外、灰黄2.5YR6/2 内、灰褐黄10YR6/2	
113	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.5) ②3.75 ③9.0		外面:回転ナデ・貼付高台・ヘラ切り未調整 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、灰N6/	底部ヘラ記号か
114	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.6) ②4.5 ③9.7		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後板状工具によるナデ 内面:回転ナデ・ナデ・指押さえナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm赤色粒子少量 B:不良 C:内外、浅黄橙10YR8/4	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元)(残存)				
115	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(14.0) ②5.4 ③(9.8)		外面:回転ナデ・貼付高台・回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:やや不良 C:外、青灰5B6/1 内、黄灰2.5Y6/1	
116	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(13.8) ②4.3 ③(9.2)		外面:回転ナデ・貼付高台・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	
117	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	②(4.45) ③9.1		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、灰白5Y8/2	
118	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(19.0) ②5.1 ③(11.6)		外面:回転ナデ・貼付高台・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・微細白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、褐灰10YR6/1	
119	須恵器	杯身	3号窯 灰原上層	①(18.6) ②5.1 ③(10.4)		外面:回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラケズリ・降灰・一部砂付着 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ・焼け影れ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰7.5Y5/1	全体的に歪んでいる
120	須恵器	皿	3号窯 灰原上層	①(17.1) ②2.5 ③(13.2)		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:不良 C:外、にぶい黄緑10YR6/4 内、にぶい黄緑10YR7/4	
121	須恵器	皿	3号窯 灰原上層	①(22.8) ②3.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ヘラナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰オリーブ7.5Y6/2 内、灰7.5Y5/1	
122	須恵器	皿	3号窯 灰原上層	①(22.8) ②(4.5)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N4/	
123	須恵器	長頸壺	3号窯 灰原上層	①(12.8) ②(4.8)		外面:回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、青灰5B5/1	
124	須恵器	長頸壺	3号窯 灰原上層	①(13.4) ②(5.1)		外面:回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、灰5Y4/1	
125	須恵器	短頸壺	3号窯 灰原上層	①(10.4) ②(4.6)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細角閃石・微細長石僅か・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、黄灰2.5Y5/1	
126	須恵器	短頸壺	3号窯 灰原上層	①(12.4) ②(5.6)		外面:回転ナデ・降灰・重ね焼変色 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	重ね焼き付着物
127	須恵器	壺	3号窯 灰原上層	②(4.4) ③(12.0)		外面:ヘラケズリ・強いナデ・ナデ・強いナデ・ヘラケズリ・降灰・自然釉 内面:ナデ	A:精良 B:良好 C:外、暗灰N/3 内、褐灰7.5YR5/1	
128	須恵器	壺	3号窯 灰原上層	②(5.6) ⑤把手部孔径:0.4-0.6		外面:ヘラ切り、ヘラケズリ後ナデ、ナデ・穿孔 内面:あて具痕、青海波状文	A:精良 微細長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、暗灰2.5Y5/2	
129	須恵器	壺	3号窯 灰原上層	②(5.7)		外面:把手・回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、黄灰2.5Y6/1	胴部把手付
130	須恵器	壺	3号窯 灰原上層	②(8.9)		外面:ヨコナデ・把手・ナデ・降灰 内面:ヨコナデ・把手貼付時の押え痕・焼成時粒子膨らむ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰オリーブ5Y5/2 内、灰10Y5/1	
131	須恵器	甕	3号窯 灰原上層	①(18.4) ②(3.7)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、オリーブ黒5Y3/1	
132	須恵器	甕	3号窯 灰原上層	②(3.6)		外面:回転ナデ・自然釉 内面:回転ナデ・自然釉・付着物	A:精良 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y4/1	
133	須恵器	甕	3号窯 灰原上層	②(4.7)		外面:回転ナデ・接合凹凸部 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	
134	須恵器	甕	3号窯 灰原上層	②(8.9)		外面:ヨコナデ・格子目文 内面:ヨコナデ・あて具痕	A:精良 1mm長石僅か B:やや不良 C:内外、灰白5Y7/1	
135	須恵器	杯蓋	5号窯 表土層	①13.8 ②2.8 ⑤つまみ径:1.7		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰5Y5/1	
136	須恵器	杯蓋	5号窯 表土層	①13.4 ②2.9 ⑤つまみ径:2.8・受部径:15.7		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・回転ナデ・他器付着 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	
137	須恵器	杯	5号窯 表土層	①11.8 ②2.5 ③(9.2)		外面:回転ナデ・不定方向のヘラケズリ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、褐灰7.5YR6/1	
138	須恵器	杯	5号窯 表土層	①(13.6) ②3.4 ③(8.9)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後丁寧なナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm黒色粒子多量 B:良好 C:外、オリーブ黒5Y3/1 内、灰7.5Y5/1	
139	須恵器	杯	5号窯 表土層	①(13.7) ②3.7 ③(9.8)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/2 内、灰オリーブ5Y6/2	
140	須恵器	杯身	5号窯 表土層	①(12.4) ②4.2 ③(7.3)		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石僅か・1mm石英少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、黄灰2.5Y4/1	
141	須恵器	杯身	5号窯 表土層	①(16.0) ②(4.5)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石・微細白色粒子僅か B:良好 C:内外、灰N6/	
142	須恵器	皿	5号窯 表土層	①(14.2) ②1.9 ③(11.0)		外面:回転ナデ・ヘラ切り未調整 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:内外、灰白7.5Y7/1	
143	須恵器	皿	5号窯 表土層	①(19.4) ②2.0 ③(15.4)		外面:回転ナデ・ヘラ切り未調整・板状圧痕あり 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	
144	須恵器	壺蓋	5号窯 表土層	①(13.2) ②3.1 ⑤つまみ径:2.1		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm石英少量・微細金雲母僅か B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	
145	須恵器	把手片	5号窯 表土層	②3.8			A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N6/	
146	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①(10.6) ②2.5 ⑤つまみ径:1.4		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・貼付時ヨコナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰N4/	
147	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①10.4 ②2.4 ⑤つまみ径:1.7		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰青10BG5/1	
148	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①(12.6) ②2.6 ⑤つまみ径:1.7		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、暗青灰5B4/1	
149	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①13.3 ②3.9 ⑤つまみ径:1.9		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、オリーブ灰2.5GY6/1	
150	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①(13.6) ②2.8 ⑤つまみ径:1.9		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、青灰5B6/1	
151	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①13.6 ②3.5 ⑤つまみ径:2.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰5B6/1	全体に歪んでいる
152	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.1 ②1.9 ⑤つまみ径:1.8		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	
153	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①17.2 ②2.5 ⑤つまみ径:1.4		外面:回転ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・カキ目状圧痕あり 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)				
154	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.7 ②2.4 ⑤つまみ径:2.1		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細~1mm長石少量 B:良好 C:外、褐灰10YR6/1 内、黄灰2.5Y6/1	重ね焼き痕
155	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①(14.5) ②(1.1)		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰5Y5/1	
156	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①15.1 ②2.8 ⑤つまみ径:1.9		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	
157	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①15.8 ②3.7 ⑤つまみ径:2.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後工具ナデ(工具圧痕)・貼付 時回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、オリブ灰5GY5/1	重ね焼き痕
158	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①(16.0) ②3.3 ⑤つまみ径:2.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後いいいなナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、褐灰10YR5/1	
159	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①16.2 ②3.0 ⑤つまみ径:1.7		外面:回転ナデ・ヘラ切り後工具によるナデ・貼付時回転 ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・少量 B:不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	
160	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①12.6 ②2.3 ⑤つまみ径:1.2		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子多量 B:良好 C:内外、灰N4/	
161	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①12.7 ②2.1 ⑤つまみ径:2.6		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:内外、灰白5Y7/1	
162	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①13.7 ②2.9 ⑤つまみ径:1.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・2mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰5Y5/1	歪んでいる
163	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①13.6 ②2.5 ⑤つまみ径:1.7		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰黄2.5Y7/2	
164	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①(13.8) ②1.5 ⑤つまみ径:1.6		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰5/	
165	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①13.7 ②3.1 ⑤つまみ径:2.3		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、オリブ黒10Y3/1	
166	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.2 ②2.7 ⑤つまみ径:1.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時ココナデ・回転 ヘラケズリ、板状圧痕有 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~1mm長石・石英少量 B:良好 C:外、灰5/ 内、灰N6/	
167	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.3 ②2.9 ⑤つまみ径:1.4		外面:ヘラ切り未調整・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、黄灰2.5Y4/1	
168	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.7 ②1.5 ⑤つまみ径:2.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後板状工具によるナデ・貼付時 回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・2mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰10Y6/1	
169	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.2 ②2.8 ⑤つまみ径:1.7		外面:回転ナデ・ヘラ切り後工具ナデ痕 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰7.5Y6/1	
170	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.2 ②2.5 ⑤つまみ径:1.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・2mm石英・1mm白色粒子・小石 少量 B:良好 C:内外、灰6/	
171	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.9 ②2.2 ⑤つまみ径:1.9		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰黄2.5Y7/2	
172	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.9 ②1.0 ⑤つまみ径:1.4		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・ハケ状圧痕あり 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
173	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.6 ②2.9 ⑤つまみ径:1.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 3mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N/6	
174	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①15.2 ②3.6 ⑤つまみ径:2.5		外面:回転ナデ・ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 角閃石・長石微量 1mm石英・1mm白色粒 子・1mm赤色粒子少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y8/2	マメツしている
175	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①14.8 ②3.4 ⑤つまみ径:2.0		外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白10Y7/1 内、灰白5Y7/2	
176	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①16.2 ②3.0 ⑤つまみ径:1.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/1 内、灰白2.5Y8/2	全体的に摩滅
177	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①17.0 ②2.3 ⑤つまみ径:1.9		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
178	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①(16.7) ②2.2 ⑤つまみ径:2.2		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 長石微量・1mm石英・1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/1 内、灰白2.5Y7/1	マメツしている
179	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①17.4 ②2.3 ⑤つまみ径:2.1		外面:回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm石英・1mm白色粒子・小石含む少量 B:不良 C:内外、灰白5Y8/2	マメツしている
180	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①17.6 ②1.65 ⑤つまみ径:2.2		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ 内面:板状工具によるナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:不良 C:内外、灰白7.5Y8/1	全体的に摩耗
181	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①20.6 ②2.6 ⑤つまみ径:2.2		外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:内外、灰白2.5Y7/1	
182	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①上)14.2 下)14.4 ②上)1.6 下)2.0 ⑤つまみ径:上)1.9 下)2.0		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:外、上)灰N5/ 下)灰N4/	重ね焼き痕
183	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①上)15.2 下)15.3 ②上)1.7 下)1.0 ⑤つまみ径:上)1.7 下)1.7		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、上)灰N6/ 下)黄灰2.5Y5/1 内、上)黄灰 2.5Y6/1 下)黄灰2.5Y6/1	
184	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	①上)17.4 下)17.7 ②上)2.1 下)1.9 ⑤つまみ径:上)2.0 下)2.0		外面:回転ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・成形時の粘土貼り あわせ痕	A:精良 上)微細長石・1mm金雲母少量 下)微細長 石少量 B:良好 C:外、上)灰5Y6/1 下)灰5Y6/1 内、上下)不明	
185	須恵器	杯蓋	5号窯 窯体内埋土	④14.0		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・ナデ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰N5/	5枚重なる
186	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①(12.4) ②3.5 ③(7.3)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ハケ状工具の調整・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
187	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①(12.4) ②3.4 ③(8.7)		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・ケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・1mm白色粒子・1m m黒色粒子・雲母(金)少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y5/1	
188	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①(12.6) ②3.7 ③(8.0)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後板状工具のナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰白7.5Y7/1	
189	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①12.8 ②3.6 ③9.4		外面:ヘラ切り後工具ナデ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰5B5/1	焼成時のワラ痕?

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)			
190	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①13.2 ②4.3 ③8.6	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・降灰 内面：回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
191	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①(13.2) ②3.4 ③(9.8)	外面：回転ナデ・ヘラ切り後ハケ状工具の調整 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰N6/	重ね焼き痕
192	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①(13.2) ②3.5 ③(8.2)	外面：ヘラ切り後工具ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y6/1	
193	須恵器	杯	5号窯 窯体内埋土	①13.3 ②3.4 ③9.0	外面：ヘラ切り後工具ナデ・回転ナデ・降灰 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、明オリブ灰2.5GY7/1	
194	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①11.2 ②3.3 ③5.9	外面：回転ナデ・ヨコナデ・回転ヘラケズリ・高台貼付時 ヨコナデ・降灰 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm～2mm石英・長石少量 B:良好 C:内外、オリブ灰2.5GY5/1	焼成時割れ
195	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(11.6) ②3.8 ③(6.9)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付高台(ヨコナデ)・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英少量 B:良好 C:内外、青灰5PB6/1	
196	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①12.4 ②3.8 ③6.8	外面：回転ナデ・ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ・高台貼付時 ナデ・降灰 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N4/	土器片付着
197	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(12.6) ②4.0 ③7.3	外面：ヘラ切り後ナデ・高台貼付時ヨコナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、オリブ灰2.5GY5/1	歪み有
198	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(12.7) ②4.4 ③(6.6)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付高台・貼付時ヨコナデ・回転 ナデ 内面：ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰N5	
199	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①12.9 ②5.1 ③8.5	外面：回転ナデ・ヘラ切り後板状工具のナデ・貼付時ヨコ ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:外、にぶい赤褐2.5YR5/4 内、灰7.5Y6/1	
200	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①13.0 ②4.0 ③7.2	外面：回転ナデ・ヨコナデ・ヘラケズリ後ヘラナデ・高台 貼付時ヨコナデ 内面：回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細～1mm石英・微細～1mm長石微量 B:良好 C:内外、オリブ灰2.5GY5/1	焼成時割れ
201	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①13.2 ②4.2 ③7.2	外面：ヘラ切り後ナデ・高台貼付時ヨコナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:外、オリブ灰2.5GY6/1 内、明オリブ灰 2.5GY7/1	
202	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(13.4) ②4.5 ③(9.3)	外面：ナデ・貼付高台・工具による回転ナデ・回転ナデ 内面：ナデ・回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石・微細石英少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰白5Y7/1	
203	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(13.2) ②4.05 ③(8.6)	外面：回転ヘラケズリ・貼付時ヨコナデ・回転ナデ・板状 工具によるナデ・降灰 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号・歪み有
204	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(13.8) ②4.4 ③(8.9)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付高台・貼付時ヨコナデ・回転 ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・雲母(金)少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰白5Y7/1	
205	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	②(2.8) ③(10.9)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰10Y5/1	
206	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①15.3 ②3.7 ③11.0	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:内外、灰白5Y7/2	
207	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(15.4) ②4.7 ③(8.0)	外面：ヘラ切り・貼付高台(ヨコナデ)・回転ナデ・降灰 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰N6/	
208	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(15.0) ②3.8 ③(10.9)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ・回転ナデ 内面：工具によるナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰白10Y7/1	
209	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①15.6 ②5.7 ③10.0	外面：ヘラ切り後ハケ状工具痕・貼付時回転ナデ・回転ナ デ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:内外、緑灰5G6/1	
210	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(15.9) ②4.7 ③8.8	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付高台・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰白5Y7/1	
211	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(16.0) ②5.7 ③(7.9)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付高台・回転ナデ・貼付時工具 によるおさえ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・微細石英少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y6/1	重ね焼き痕
212	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(16.1) ②3.9 ③(9.1)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付高台・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・2mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
213	須恵器	杯身	5号窯 窯体内埋土	①(16.6) ②5.6 ③(10.4)	外面：ヘラ切り後ナデ・貼付高台(ヨコナデ) 回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、オリブ灰7.5Y7/1 内、灰白5Y7/2	
214	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①13.9 ②2.9	外面：ヘラ切り後ハケ状工具痕・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰5BG5/1 内、暗青灰5BG4/1	内面に重ね焼き痕
215	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(14.0) ②2.0 ③(11.0)	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 長石微量 1mm石英少量 B:やや不良 C:内外、褐灰7.5YR5/1	
216	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①14.4 ②2.1 ③9.3	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・微細黒色粒子 少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
217	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(14.2) ②1.6 ③(11.8)	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰10Y6/1	
218	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①14.8 ②1.9 ③11.8	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰オリブ7.5Y6/2～灰N6/ 内、オリブ灰 2.5GY6/1	
219	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(15.0) ②2.2 ③(12.2)	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・降灰 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰N5/	
220	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(15.2) ②1.8 ③(12.2)	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・微細石英微量 B:やや不良 C:内外、灰7.5Y6/1	
221	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(17.6) ②2.0 ③(13.5)	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英少量 雲母(金) 微量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	
222	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(17.8) ②2.0 ③(13.8)	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、青灰5B5/1	
223	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(18.0) ②3.0	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm石英・長石少量 B:良好 C:外、オリブ灰2.5GY 内、灰N5/	
224	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(17.8) ②1.8 ③(14.0)	外面：ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰N5/	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)				
225	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(18.4) ②1.8 ③(14.6)		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰白7.5Y7/1	
226	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①18.2 ②2.3		外面:ヘラ切り後工具によるナデ・回転ナデ 内面:ナデ(工具ナデ?)・回転ナデ	A:精良 微細長石・2mm石英・2mm白色粒子・雲母(金)少量 B:不良 C:外、灰白5Y8/2 内、灰白5Y8/1	
227	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①上(13.2) 下(13.6) ②上2.15 下1.85 ③下(10.8)		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N4/	2枚重なる
228	須恵器	皿	5号窯 窯体内埋土	①(20.4) ②3.6 ③(15.6)		外面:回転ヘラケズリ・高台貼付時ヨコナデ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリブ灰2.5Y6/1 内、灰N6/	歪み有
229	須恵器	高杯	5号窯 窯体内埋土	②(4.1) ③(9.4)		外面:ヨコナデ・ナデ、シボリ痕・回転ナデ・降灰 内面:ナデ・ヨコナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/ 降灰部分、黒N1.5/	
230	須恵器	壺	5号窯 窯体内埋土	②(1.8) ③9.5		外面:ヘラ切り後ナデ・高台貼付後回転ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	
231	須恵器	長頸壺	5号窯 窯体内埋土	②(9.8)		外面:回転ナデ・ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N4 内、褐灰5YR4/1	
232	須恵器	短頸壺	5号窯 窯体内埋土	②(13.4) ⑤頸部径:(9.6)		外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・タテ方向の工具ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰5B5/1	
233	須恵器	團足門面碗	5号窯 窯体内埋土	②(3.6) ③(16.4)		外面:回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰5B5/1 内、青灰5B6/1	透かし8カ所
234	須恵器	團足門面碗	5号窯 窯体内埋土	②(4.0) ③(16.0)		外面:脚柱部ナデ・回転ナデ・降灰 内面:脚柱部ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石・微細石英少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰5Y4/1	
235	土師器	杯	5号窯 窯体内埋土	①(17.0) ②3.15		外面:ヘラケズリ後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ・一部研磨	A:精良 1mm長石・1mm石英・1mm赤色粒子少量 B:良好 C:内外、橙5YR6/8	全体的に摩耗・内面一部研磨
236	須恵器	蓋	5号窯 灰原	①(12.0) ②3.2 ⑤つまみ径2.0		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:外、灰10Y5/1 内、灰5Y4/1-灰オリブ5Y5/2	
237	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①13.2 ②(2.9)		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ・降灰	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰5Y6/1	
238	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①12.6 ②1.9 ⑤つまみ径1.7		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	
239	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①13.2 ②2.0 ⑤つまみ径1.5		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰N5/	
240	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①13.6 ②2.2 ⑤つまみ径2.2		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	焼成時割れ
241	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①13.7 ②3.4 ⑤つまみ径1.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y5/1	
242	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①14.5 ②1.9 ⑤つまみ径1.6		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ・ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰N6/	
243	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①14.9 ②2.8 ⑤つまみ径2.2		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:内外、灰白5Y7/2	
244	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①15.6 ②2.7 ⑤つまみ径2.05		外面:回転ナデ・ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量・微細金雲母少量 B:やや不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	歪みあり
245	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①16.0 ②2.7 ⑤つまみ径2.0		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ(マメツ) 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ(マメツ)	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y8/2	全体的にマメツ
246	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①14.6 ②1.9 ⑤つまみ径2.5		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・高台貼付・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰5Y6/1	
247	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①19.4 ②3.1 ⑤つまみ径2.1		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ(マメツ) 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ(マメツ)	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、浅黄橙10YR8/3	全体的にマメツ
248	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①22.5 ②2.4 ⑤つまみ径2.2		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・微細白色粒子・1mm石英・雲母少量 B:不良 C:内外、灰白5Y8/1	
249	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①(25.6) ②2.0 ⑤つまみ径2.5		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	
250	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①13.0 ②2.1 ⑤つまみ径1.7		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:内外、褐灰7.5YR5/1	
251	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①14.0 ②3.6 ⑤つまみ径2.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・回転ナデ・ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
252	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①14.4 ②2.4 ⑤つまみ径1.9		外面:回転ナデ・ヘラケズリ・ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	焼成時割れ
253	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①15.2 ②3.3 ⑤つまみ径2.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:内外、灰白5Y7/2	
254	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①15.7 ②2.5 ⑤つまみ径2.0		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、オリブ灰5Y6/1	
255	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①16.0 ②2.1 ⑤つまみ径2.2		外面:回転ナデ・ヘラケズリ・貼付時回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英微量・微細金雲母微量 B:やや不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	焼成時割れ
256	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①16.6 ②3.7 ⑤つまみ径1.9		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・ 内面:回転ナデ・板状工具によるナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N4/	
257	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	①20.0 ②3.1 ⑤つまみ径2.2		外面:回転ナデ・ヘラ切り後板状工具によるナデ・貼付時 回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、灰白2.5Y8/2	
258	須恵器	杯蓋	5号窯 灰原	②(1.2) ⑤つまみ径2.1		外面:回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ・焼成前穿孔 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量・微細金雲母微量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y6/2 内、灰10Y6/1	焼成前つまみ横に穿孔
259	須恵器	杯	5号窯 灰原	①(12.8) ②2.7 ③(6.8)		外面:回転ナデ・ヘラケズリ・回転ナデ・ヘラケズリ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	
260	須恵器	杯	5号窯 灰原	①14.3 ②3.2 ③6.5		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰白N4/	
261	須恵器	杯	5号窯 灰原	①12.4 ②3.5 ③8.3		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、暗灰黄2.5Y5/2	底部圧痕有
262	須恵器	杯	5号窯 灰原	①12.6 ②3.5 ③9.2		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量・微細金雲母微量 B:良好 C:内外、灰N5/	
263	須恵器	杯	5号窯 灰原	①13.2 ②3.8 ③9.1		外面:回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ・工具痕 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰10Y4/1	底部工具痕有

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)			形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径	⑤残存・その他 ※(復元) (残存)				
264	須恵器	杯	5号窯 灰原	①13.8 ②4.0 ③9.1	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰5Y5/1		
265	須恵器	杯	5号窯 灰原	①14.2 ②3.5 ③9.4	外面:回転ナデ・ヘラ切り後板状工具によるナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量・微細金雲母微量 B:やや不良 C:内外、灰N5/		
266	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①11.4 ②3.6 ③7.0	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、褐灰10YR7/1		
267	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①12.0 ②3.6 ③7.2	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時ヨコナデ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y5/2		
268	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①13.4 ②4.5 ③7.35	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・ヘラケズリ・高台貼付・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:外、灰5Y5/1 内、灰オリーブ5Y5/2		
269	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①13.4 ②3.9 ③9.4	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 微細白色粒子・微細金雲母少量 B:やや不良 C:外、灰オリーブ5Y6/2 内、灰オリーブ7.5Y6/2		
270	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①13.5 ②4.7 ③8.4	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 微細長石・白色粒子・1mm石英・金雲母 B:不良 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰白2.5Y7/1		
271	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①13.6 ②4.4 ③7.5	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1~2mm白色粒子・微細長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰N6/	ひび割れ、歪みあり	
272	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.0 ②3.35 ③8.8	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・高台貼付・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm長石・石英・微細金雲母少量 C:外、オリーブ灰2.5GY6/1 内、灰N6/		
273	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.0 ②4.4 ③9.0	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・貼付時ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、黄灰2.5Y7/2		
274	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.6 ②3.9 ③9.9	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、黄灰2.5Y6/1		
275	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.6 ②4.0 ③9.5	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・高台貼付・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm長石・石英・微細金雲母少量 B:やや不良 C:外、青灰5B6/1 内、黄灰2.5Y6/1	焼成時割れ	
276	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.8 ②4.0 ③9.5	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、灰オリーブ色5Y6/2		
277	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.5 ②3.9 ③9.1	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 2mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰5Y5/1		
278	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.8 ②4.3 ③9.3	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・貼付時ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:内外、黄灰2.5Y6/1		
279	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①14.8 ②4.8 ③10.0	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、黄灰2.5Y6/1		
280	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①(15.6) ②4.9 ③(8.8)	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 微細長石・微細白色粒子 B:良好 C:内外、灰7.5Y5/1		
281	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①15.6 ②5.4 ③8.4	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y4/1 内、黄灰2.5Y4/1		
282	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①15.7 ②4.5 ③9.9	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・貼付時ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰黄2.5Y7/2	歪みあり	
283	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①15.7 ②5.5 ③8.9	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/		
284	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①16.2 ②5.0 ③10.4	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 微細長石少量 B:良好 C:内外、灰5Y6/1		
285	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①(8.0) ②5.0 ③(11.0)	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 2mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰オリーブ5Y6/2 内、灰7.5Y6/1/		
286	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①18.8 ②5.8 ③10.5	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、黄灰2.5Y6/1		
287	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①16.8 ②6.1 ③9.2	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時ナデ・ヘラケズリ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、淡黄2.5Y7/4 内、灰黄2.5Y6/2		
288	須恵器	杯身	5号窯 灰原	①20.5 ②8.6 ③12.8	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子・石英少量 B:やや不良 C:内外、灰5Y6/1		
289	須恵器	皿	5号窯 灰原	①14.7 ②2.3 ③11.4	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後工具ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白2.5Y7/1 内、黄灰2.5Y6/1		
290	須恵器	皿	5号窯 灰原	① 16.8 ②2.4 ③13.2	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰N4/		
291	須恵器	皿	5号窯 灰原	①18.8 ②2.4 ③15.4	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:内外、灰5Y4/1		
292	須恵器	皿	5号窯 灰原	①18.8 ②2.8	外面:回転ナデ・ヘラ切り後板状工具によるナデ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 2mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y5/1 内、灰7.5Y5/1		
293	須恵器	皿	5号窯 灰原	①19.0 ②3.0	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 1mm石英・白色粒子・微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y6/1	底部に焼成時のワラのあと	
294	須恵器	皿	5号窯 灰原	①19.2 ②2.4 ③15.3	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y8/2	全体的に摩耗	
295	須恵器	皿	5号窯 灰原	①19.8 ②2.7 ③15.9	外面:回転ナデ・ヘラ切り後板状工具によるナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ		A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y8/2	全体的に摩耗	
296	須恵器	皿	5号窯 灰原	①21.3 ②3.8 ③16.6	外面:回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付 内面:回転ナデ・板状工具によるナデ		A:精良 1mm白色粒子・石英・微細長石少量 B:良好 C:内外、灰N6/		
297	須恵器	高杯	5号窯 灰原	② (5.7) ③9.8	外面:回転ナデ・降灰 内面:ナデ・指オサエ		A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:外、灰N6/1 内、灰7.5Y6/1		
298	須恵器	高杯	5号窯 灰原	② (14.7) ③13.0	外面:回転ナデ・貼付け時回転ナデ 内面:回転ナデ・絞り痕		A:精良 微細長石・1mm石英・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰5Y6/1		
299	須恵器	短頸壺	5号窯 灰原	①(9.4) ②15.4 ③(10.6)	外面:回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ・回転ヘラケズリ・高台貼付 内面:回転ナデ・ナデ		A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰白5Y7/1		
300	須恵器	短頸壺	5号窯 灰原	①(10.4) ② (5.7)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		A:精良 微細長石・1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1		
301	須恵器	短頸壺	5号窯 灰原	①(13.7) ② (13.1)	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ		A:精良 1~2mm石英・白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y5/1		
302	須恵器	壺	5号窯 灰原	①(8.2) ② (3.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰白7.5Y7/1		

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)				
303	須恵器	壺	5号窯 灰原	①(11.1) ②(6.6)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・白色粒子・黒色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰白7.5Y7/1	
304	須恵器	長頸壺	5号窯 灰原	②(9.6) ③(10.4)		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ヘラケズリ後ナデ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石・石英少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1~灰N4/ 内、灰N6/	歪みあり
305	須恵器	壺	5号窯 灰原	②(14.7) ③(12.4)		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・工具ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1~灰黄褐10YR5/2 内、灰10Y4/1	
306	須恵器	双耳付瓶子	5号窯 灰原	②(7.3)		外面:回転ナデ・面取り・ナデ・指頭痕・ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰5Y5/1	
307	須恵器	壺	5号窯 灰原	②(13.3) ③9.4		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ヘラケズリ後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰オリーブ5Y6/2	
308	須恵器	甃	5号窯 灰原	①(18.6) ②(21.4)		外面:回転ナデ・格子目タタキ 内面:回転ナデ・ナデ・同心円当て具痕(青海波)	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰白7.5Y7/1	
309	須恵器	鉢	5号窯 灰原	①13.1 ②7.4 ③9.5		外面:回転ナデ・ヘラケズリ・ヘラ切り後丁寧なナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・1mm石英・白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/1	
310	須恵器	鉄鉢形鉢	5号窯 灰原	①(21.9) ②(11.7)		外面:回転ヘラケズリ・研磨・マメツ 内面:回転ナデ・縦方向のナデ	A:精良 1mm石英・白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2~黄灰2.5Y6/1 内、灰白2.5Y8/2~黄灰2.5Y6/1	
311	須恵器	鉢	5号窯 灰原	①(24.1) ②(7.4)		外面:回転ナデ・板状工具による回転ナデ 内面:回転ナデ・縦方向のナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	
312	須恵器	椀	5号窯 灰原	①(18.0) ②(7.0)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰白5Y7/1	
313	須恵器	椀	5号窯 灰原	①(18.7) ②(6.9)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰白5Y6/1	
314	須恵器	陶白	5号窯 灰原	⑤見込み部直径12.1			A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、明青灰10BG5/1	
315	須恵器	不明	5号窯 灰原	⑤長さ4.7 幅2.8		外面:ヘラケズリ・ナデ 内面:ヘラケズリ・ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、明青灰5B4/1	
316	須恵器	不明	5号窯 灰原	②(3.8)		外面:回転ナデ・ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子・石英少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	
317	須恵器	不明	5号窯 灰原	②(7.4)		外面:ケズリ 内面:指頭痕・ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
318	須恵器	円形硯	5号窯 灰原	①16.0 ②2.8 ③12.7		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・高台貼付 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白N7/ 内、灰白2.5Y7/1	
319	須恵器	團足門面硯	5号窯 灰原	②(5.0) ③(22.2)		外面:ナデ・円孔 内面:ナデ	A:精良 1mm石英・微細長石少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、にぶい黄橙10YR7/2	
320	須恵器	杯蓋	5号窯 P1	①(13.0) ②(2.6)		外面:回転ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y5/1	
321	須恵器	杯蓋	5号窯 P1	①15.2 ②3.5 ⑤つまみ径1.8		外面:回転ナデ・貼付時回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/~暗灰N3/	歪みあり
322	須恵器	杯蓋	5号窯 P1	①(16.0) ②(3.6)		外面:ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
323	須恵器	杯蓋	5号窯 P1	①17.8 ②2.55 ⑤つまみ径2.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰N6/	
324	須恵器	杯	5号窯 P1	①(13.8) ②4.0 ③(9.4)		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/1	
325	須恵器	杯身	5号窯 P1	①12.1 ②3.9 ③7.8		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り・高台貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英少量 微細長石少量 B:良好 C:内外、灰N5/	歪みあり
326	須恵器	杯身	5号窯 P1	①(20.6) ②9.1 ③12.4		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ヘラ切り・高台貼付 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/2	
327	須恵器	皿	5号窯 P1	①(14.0) ②(1.6) ③(10.2)		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰N5/	
328	須恵器	皿	5号窯 P1	①18.4 ②2.4 ③10.5		外面:回転ナデ後ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子・石英・微細長石少量 B:不良 C:内外、灰白5Y8/1	
329	須恵器	高杯	5号窯 P1	①(24.7) ②(1.35)		外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰2.5Y7/1	
330	須恵器	壺	5号窯 P1	②(15.15) ③7.8		外面:格子目タタキ・多方面のナデ・自然釉 内面:回転ナデ・同心円当て具痕・当て具痕後ナデ	A:精良 2mm白色粒子・長石・石英少量 B:良好 C:外、灰N6/1~暗灰3/ 灰褐5YR5/2 内、灰N6/	
331	須恵器	短頸壺	5号窯 P1	①(9.6) ②(4.7)		外面:回転ヘラナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1~灰N4/ 内、灰7.5Y5/1	
332	須恵器	短頸壺	5号窯 P1	①(9.4) ②17.2 ③(11.2)		外面:回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ・回転ヘラケズリ・高台貼付ヨコナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石・微細石英少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	
333	須恵器	短頸壺	5号窯 P1	①(12.7) ②(9.7)		外面:回転ナデ・ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	
334	須恵器	甃	5号窯 P1	①(19.2) ②(23.8)		外面:回転ナデ・格子目タタキ・自然釉 内面:回転ナデ・タタキ後横方向のナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰10BG5/1	
335	須恵器	杯蓋	5号窯 P2	①(13.2) ②1.4 ⑤つまみ径1.8		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:やや不良 C:外、褐灰10YR6/1 内、褐灰5YR5/1	歪みあり
336	須恵器	杯蓋	5号窯 P2	①15.6 ②1.5 ⑤つまみ径2.0		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰10YR6/1 内、灰オリーブ7.5Y6/2	焼成時割れ 歪みあり
337	須恵器	杯蓋	5号窯 P2	①15.8 ②1.3 ⑤つまみ径2.4		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・貼付時回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・石英少量 B:良好 C:内外、灰10Y5/1	焼成時割れ
338	須恵器	杯蓋	5号窯 P2	①(15.8) ②1.9 ⑤つまみ径2.3		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・貼付時回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石・石英微量 B:良好 C:外、暗灰N3/8/2 内、オリーブ灰2.5GY6/1	
339	須恵器	杯蓋	5号窯 P2	①16.0 ②2.3 ⑤つまみ径2.4		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/2 内、灰5Y6/1	
340	須恵器	杯蓋	5号窯 P2	①16.2 ②1.9 ⑤つまみ径2.4		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰白5Y7/2	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)			
341	須恵器	杯蓋	5号窯 P2	①16.0 ②1.3 ⑤つまみ径2.2	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・貼付時回転ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白N7/ 内、にぶい黄橙10YR7/4	
342	須恵器	杯身	5号窯 P2	①13.3 ②4.4 ③7.8	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 微細長石・微細白色粒子・1mm石英少量 B:良好 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/2	
343	須恵器	杯	5号窯 P2	①(14.9) ②3.7	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英・白色粒子少量・微細長石 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰白2.5Y7/1	
344	須恵器	杯身	5号窯 P2	①15.2 ②3.8 ③11.1	外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・貼付時横ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:やや不良 C:内外、灰黄2.5Y7/2	
345	須恵器	壺	5号窯 P2	①(17.8) ②(8.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石・1mm白色粒子・1mm石英少量 B:良好 C:内外、灰N6/	

表3 石坂窯跡F地点出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)			
346	須恵器	杯蓋	1号窯 表土層	①12.6 ②(2.5)	外面:ヨコナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ・焼き膨れ多く調整不明	A:精良 1mm白色粒子少量 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	付着物有 気泡有
347	須恵器	杯蓋	1号窯 表土層	①13.5 ②3.6	外面:ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ・ヘラ記号・降灰 内面:ナデ(凹凸著しい)・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰白N7/	ヘラ記号 歪み有 付着物有
348	須恵器	杯身	1号窯 表土層	②(2.9) ③8.3	外面:回転ナデ・ヨコナデ・調整不明・降灰 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/ 内、灰N7/	付着物有 気泡有
349	須恵器	杯身	1号窯 表土層	①(13.0) ②4.5 ③(8.5)	外面:回転ナデ・ナデ・ヘラ記号 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1~2mm石英・1mm黒色粒子多量 B:良好 C:内外、灰N6/	底部ヘラ記号
350	須恵器	杯身	1号窯 表土層	②(2.8) ③(9.7)	外面:回転ナデ・ナデ・ヘラ記号 内面:ナデ	A:精良 2mm石英多量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	底部ヘラ記号
351	須恵器	杯身	1号窯 表土層	①(13.4) ②4.7 ③9.2	外面:回転ナデ・ヨコナデ・ヘラ切り未調整・ヘラ記号 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰7.5Y6/	ヘラ記号 歪み有 付着物有
352	須恵器	杯身	1号窯 表土層	①(15.2) ②4.0 ③(8.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/1	外面砂粒多数付着
353	須恵器	皿	1号窯 表土層	①(23.2) ②2.2 ③(17.8)	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ヘラ切り後ナデ・ 重ね焼き痕 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、灰10Y5/1	外面に重ね焼き痕 有
354	須恵器	高杯	1号窯 表土層	①(12.0) ②(3.6)	外面:回転ナデ・付着物・降灰・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・指頭痕・降灰	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、灰白N7/	高杯の身の上に脚 が溶着
355	須恵器	高杯	1号窯 表土層	②(3.4)	外面:回転ナデ・ねじり痕 内面:ナデ・ヘラ記号	A:精良 微細白色粒子 B:良好 C:内外、暗灰N3/	内部ヘラ記号
356	須恵器	高杯	1号窯 表土層	②(4.3) ③6.7	外面:降灰のため調整不明 内面:ナデ・工具痕	A:精良 1mm未満白色粒子多量 B:良好 C:内外、灰5Y4/1	
357	須恵器	鉢	1号窯 表土層	②(3.8) ③7.3	外面:回転ナデ・手持ちヘラケズリ・ヘラ切り未調整・ヘ ラ記号・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰白7.5Y7/1	ヘラ記号 歪み有
358	須恵器	長頸壺	1号窯 表土層	①(13.7) ②(12.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ・接合痕	A:精良 1mm長石少量 2mm迫力粒子多量 B:良好 C:外、青灰10BG6/1 内、青灰10BG6/1・にぶい赤褐 2.5YR5/3	
359	須恵器	壺	1号窯 表土層	②(10.2) ③(12.4)	外面:回転ナデ・回転ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰N4/ 内、灰N7/	付着物有
360	須恵器	杯蓋	1号窯 遺構検出時	①15.6 ②2.9	外面:回転ヘラケズリ後ナデ・回転ナデ・つまみ貼付痕 内面:回転ナデ後不定方向のナデ・回転ナデ	A:精良 2mm長石やや多量 B:やや不良 C:外、橙2.5YR6/6 内、明赤褐色2.5YR5/6	つまみ部欠損
361	須恵器	杯蓋	1号窯 遺構検出時	①(11.6) ②3.2 ④(14.2) ⑤つまみ 径:2.6	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 2mm石英・微細長石・雲母少量 B:良好 C:内外、にぶい赤褐2.5YR5/4	上面ヘラ記号有
362	須恵器	杯蓋	1号窯 遺構検出時	①16.8 ②3.1	外面:ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 3mm石英 B:良好 C:外、にぶい赤褐色2.5YR5/3 内、にぶい赤褐色 2.5YR4/3	少し歪み有
363	須恵器	杯身	1号窯 遺構検出時	①(12.2) ②4.4 ③(8.3)	外面:回転ナデ・高台貼付のナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、淡黄2.5Y8/3	
364	須恵器	杯身	1号窯 遺構検出時	①(13.8) ②(5.6)	外面:回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良 C:外、灰白N7/ 内、灰N5/	
365	須恵器	高杯	1号窯 遺構検出時	②(7.3) ⑤脚部径10.4	外面:ナデ・回転ナデ・回転ナデ+絞り痕 内面:絞り痕	A:精良 2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、にぶい赤褐2.5YR5/3	
366	須恵器	椀/鉢	1号窯 遺構検出時	①(10.2) ②5.9 ③(6.1)	外面:回転ナデ・未調整・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰5B5/1	
367	須恵器	椀/鉢	1号窯 遺構検出時	②(4.0)	外面:回転ナデ・ナデ・自然釉 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:良好 C:内外、褐灰10YR5/1	底部に破片付着
368	須恵器	甕	1号窯 遺構検出時	①(21.7) ②(4.1)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、褐灰5YR5/1 内、灰褐5YR5/2	
369	須恵器	鉢	1号窯 遺構検出時	①(7.2) ②3.1	外面:回転ナデ・ナデアゲ・回転ヘラ切り(脚部後付け) 内面:回転ナデ・ナデアゲ・強いナデ	A:精良 1mm長石 B:不良 C:内外、浅黄橙10YR8/3	
370	土師器	甕	1号窯 遺構検出時	②(5.6)	外面:ヨコナデ・ヘラ工具痕・タテハケ 内面:ヨコナデ・ケズリ	A:精良 1mm長石多量 2mm石英少量 B:良好 C:外、明赤褐2.5YR5/6 内、にぶい橙2.5YR6/4	
371	須恵器	杯蓋	1号窯 埋土	①(14.4) ②(1.35)	外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
372	須恵器	杯蓋	1号窯 埋土	①(15.0) ②2.1	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰白N7/	
373	須恵器	杯身	1号窯 埋土	①(13.7) ②4.5 ③8.3	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラ記号 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰白N7/	
374	須恵器	甕	1号窯 埋土	②(2.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、青灰5B5/1	
375	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原	②(2.3)	外面:貼り付け後ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N4/	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A：胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)				
376	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原	①(11.0) ②(1.4)		外面：回転ヘラケズリ・回転ナデ・降灰 内面：一定方向のナデ・回転ナデ・降灰	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、灰白N7/～灰N4/ 内、灰白5Y7/1～灰N5/	
377	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原	①(12.4) ②2.2		外面：ナデ・ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ・不定方向のナデ	A：精良 B：良好 C：内外、灰N5/	歪み有
378	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原	①14.0 ②2.3		外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ後研磨 内面：回転ナデ・不定方向のハケ状痕	A：精良 1mm長石 1mm白色粒子 1mm雲母少量 B：不良 C：外、橙2.5YR6/6 内、橙5YR7/6	
379	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原	①(14.4) ②2.5		外面：ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ・ハケ状工具による面取り 内面：回転ナデ・一定方向のナデが部分的に認められる	A：精良 B：良好 C：外、灰N5/ 内、灰10Y5/1	
380	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原	①14.2 ②3.5 ⑤受部径11.5・つまみ径2.7		外面：ナデ・回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：ナデ・回転ナデ	A：精良 1～2mm白色粒子少量・1mm雲母少量 B： 良好 C：内外、灰N4/	
381	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原	①13.0 ②2.5 ⑤受部径15.3・つまみ径(2.7)		外面：ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ・降灰 内面：ナデ・回転ナデ	A：精良 1～2mm石英中量 B：良好 C：外、灰N4/ 内、暗灰N3/	
382	須恵器	蓋	1号窯 灰原	①(25.0) ②(1.6)		外面：回転ナデ・降灰 内面：回転ナデ・不定方向のナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、赤灰2.5YR4/ 内、赤灰10R5/2	
383	須恵器	杯	1号窯 灰原	①(14.2) ②3.0 ③(9.1)		外面：回転ナデ・回転ヘラ切り後不定方向のナデ 内面：回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、灰5Y6/1 内、灰N7/	
384	須恵器	杯	1号窯 灰原	①(14.5) ②3.8 ③(9.2)		外面：回転ナデ・回転ヘラ切り後底部ヘラケズリ調整 内面：回転ナデ・ナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、灰5Y6/1 内、灰N5/	
385	須恵器	杯身	1号窯 灰原	②(2.4) ③8.4		外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ・高台貼り付けのナデ・ヘラ記号 内面：回転ナデ・不定方向のナデ	A：精良 2mm白色粒子 B：良好 C：内外、灰10Y5/1	
386	須恵器	杯身	1号窯 灰原	②(3.1) ③9.5		外面：回転ナデ・高台貼付・ヘラ記号・付着物で調整不明 内面：回転ナデ・ナデ	A：精良 1mm白色粒子・1mm角閃石少量 B：良好 C：内外、灰6/	ヘラ記号有
387	須恵器	杯身	1号窯 灰原	①14.0 ②4.5 ③10.5		外面：回転ナデ・ヨコナデ・ナデ・剥離 内面：回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 1mm赤色粒子少量 B： 不良 C：外、にぶい橙7.5YR7/3 内、灰褐7.5YR3/2	焼成時ひび割れか
388	須恵器	杯身	1号窯 灰原	①(4.2) ②4.2 ③(8.8)		外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヨコナデ・ヘラ切り 内面：回転ナデ・ナデ・指頭痕	A：精良 1mm長石 B：良好 C：外、黒N2/ 内、褐灰5YR5/1	
389	須恵器	杯身	1号窯 灰原	①14.6 ②4.5 ③10.0		外面：回転ナデ・高台貼付のナデ・回転ヘラ切り 内面：回転ナデ・ナデ	A：精良 2mm白色粒子少量 B：良好 C：外、暗青灰5BG3/1 内、灰N6/	
390	須恵器	杯身	1号窯 灰原	①(14.6) ②4.5 ③9.9		外面：回転ナデ・高台貼付のナデ・回転ヘラ切り・ヘラ記号 内面：回転ナデ・ナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 B：やや不良 C：外、褐7.5YR4/4 内、にぶい赤褐2.5YR5/3	ヘラ記号有
391	須恵器	杯身	1号窯 灰原	①(15.2) ②4.55 ③10.0		外面：回転ナデ・高台貼付けのナデ・回転ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ・不定方向のナデ	A：精良 黒色粒子・1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、灰白N7/ 内、灰7.5Y6/1	
392	須恵器	杯身	1号窯 灰原	②(5.6) ③8.7		外面：回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付・ナデ・指頭痕 内面：回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A：精良 1mm石英・1mm長石・1mm赤色粒子少量 B：不良 C：内外、橙7.5YR6/8	
393	須恵器	杯身	1号窯 灰原	①(15.4) ②4.5 ③8.6		外面：回転ナデ・高台貼付のナデ・回転ヘラケズリ・ヘラ記号 内面：回転ナデ・ナデ・回転ナデ後ナデ	A：精良 1mm長石少量 B：良好 C：外、灰N6/ 内、灰N5/	ヘラ記号有
394	須恵器	盤	1号窯 灰原	①(22.0) ②(2.55)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：内外、灰7.5Y7/1	
395	須恵器	盤	1号窯 灰原	①(26.0) ②2.8 ③(18.7)		外面：回転ナデ・ナデ・ハケ状工具によるケズリ 内面：回転ナデ・ナデ(板状工具痕)	A：精良 1mm以下白色粒子少量 B：やや不良 C：外、にぶい赤褐5YR5/3～褐灰7.5YR6/1 内、にぶい赤褐7.5YR5/3	
396	須恵器	高杯	1号窯 灰原	②(4.7)		外面：回転ナデ・降灰 内面：回転ナデ後ナデ・降灰・絞り痕	A：精良 1mm長石少量 B：良好 C：外、青黒10BG1.7/1 内、青灰5B5/1	
397	須恵器	高杯	1号窯 灰原	②(4.2) ③6.6		外面：回転ナデ・付着物・降灰 内面：回転ナデ・絞り痕	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、暗灰黄2.5Y4/2 内、浅黄2.5Y7/3	
398	須恵器	高杯	1号窯 灰原	②(3.9) ③(7.0)		外面：回転ナデ・降灰 内面：回転ナデ	A：精良 1mm長石少量 B：良好 C：外、灰5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	
399	須恵器	高杯	1号窯 灰原	②(4.9) ③7.0		外面：回転ナデ 内面：しぼり痕・ナデ・付着物	A：精良 B：良好 C：内外、灰N5/	付着物有
400	須恵器	高杯	1号窯 灰原	②(5.5) ③(7.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・絞り痕	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、灰10Y5/ 内、灰オリーブ7.5Y4/2	
401	須恵器	高杯	1号窯 灰原	①(9.8) ②(3.7)		外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ・降灰 内面：回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A：精良 1mm長石少量 B：良好 C：外、灰白5Y7/1 内、にぶい黄橙10YR7/3	
402	須恵器	高杯	1号窯 灰原	①(15.0) ②8.1 ③(11.0)		外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・回転ナデ後不定方向のナデ・絞り痕	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、灰N6/～4/ 内、灰N5/	全体的に歪み有
403	須恵器	壺	1号窯 灰原	①(11.0) ②(5.8)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・降灰により調整不明瞭	A：精良 1mm白色粒子少量 B：良好 C：外、灰5Y6/1 内、灰N4/	付着物有
404	須恵器	甕	1号窯 灰原	②(1.2)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	A：精良 2mm以下石英少量 B：不良 C：外、暗赤褐2.5YR3/2 内、褐色10YR4/1	
405	須恵器	甕	1号窯 灰原	②(6.0)		外面：回転ナデ・波状文・沈線 内面：回転ナデ・タテ方向のナデ	A：精良 1mm長石少量 B：やや不良 C：外、灰赤10R4/2 内、灰赤10YR5/2	
406	須恵器	甕	1号窯 灰原	②(11.4)		外面：回転ナデ・波状文 内面：回転ナデ・ナメ方向のナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 B：やや不良 C：内外、褐灰7.5YR5/2	
407	須恵器	鉢	1号窯 灰原	②(5.6) ③(9.0)		外面：横方向のハケ後ナデ・横方向のケズリ・回転ヘラ切り 内面：回転ナデ・ナデ	A：精良 1mm白色粒子少量 1mm石英少量 B：不良 C：外、橙2.5YR6/6・褐灰5YR5/ 内、橙2.5YR6/6	
408	須恵器	鉢	1号窯 灰原	②(6.3) ③(8.1)		外面：降灰のため調整不明・回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	A：精良 1mm白色粒子 B：良好 C：外、灰N6/～灰N4/ 内、灰7.5Y6/1	
409	須恵器	鉢	1号窯 灰原	②(10.3) ③(10.6)		外面：板状工具による回転ナデ・沈線・ヘラ切り後板状工具によるケズリ 内面：回転ナデ	A：精良 1mm長石少量 3mm石英少量 B：良好 C：外、明オリーブ灰2.5GY7/1 内、灰白N7/	ヘラ記号
410	須恵器	鉢	1号窯 灰原	①12.6 ②9.8 ③9.8		外面：回転ナデ・一部ハケ状痕有・ヘラ切り後ヘラ状工具による研磨 内面：回転ナデ・一部にハケ状痕有	A：精良 1mm長石 1mm白色粒子 1mm赤色粒子少量 B：不良 C：内外、橙7.5YR7/6	
411	須恵器	鉢	1号窯 灰原	②(7.6) ③9.3		外面：回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・底部に砂付着 内面：回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A：精良 1mm長石少量 B：良好 C：外、暗青灰5B4/1 内、青灰10BG6/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元)(残存)			
412	須恵器	把手	1号窯 灰原	⑤縦4.7 横4.1 厚さ2.6	外面:工具ナデ・ヘラケズリ	A:精良 1mm以下白色粒子 1mm以下黑色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
413	須恵器	中空碗	1号窯 灰原	⑤長さ2.2 幅5.4 厚さ2.3	外面:ナデ	A:精良 1mm以下白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	把手のみ残存
414	須恵器	蓋	1号窯 灰原下層	①(9.0) ②3.5	外面:不定方向のヘラケズリ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、浅黄5Y7/3 内、灰黄2.5Y6/2	
415	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①10.9 ②2.3 ⑤(受部径)12.9	外面:ヘラ切り・ヘラ記号・回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、青黒10BG1.7/1 内、青灰5B6/1	ヘラ記号有
416	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①(11.9) ②1.8 ③(13.8)	外面:回転ヘラケズリ後ナデ・降灰・回転ナデ・ヘラ記号 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、黒5YR1.7/1 内、灰赤2.5YR4/2	ヘラ記号有
417	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①12.1 ②3.6 ⑤受部径14.5・つまみ径2.7	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰白5Y5/1 内、灰5Y6/1	付着物有
418	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①(14.5) ②3.8	外面:ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/1 内、灰白7.5Y8/1	
419	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①(8.6) ②1.5 ⑤(つまみ径)1.8	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰10BG3/1 内、暗青灰5B4/1	
420	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①(14.0) ②1.6	外面:ナデ・回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N4/	
421	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①13.8 ②3.2	外面:ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白5Y7/1 内、灰5Y6/1	
422	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①(14.7) ②2.8	外面:調整不明・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:調整不明・回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、浅黄橙7.5YR8/3 内、5YR7/6	
423	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①14.8 ②2.0 ⑤つまみ径3.3	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰5PB5/1	
424	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①15.1 ②2.9	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm角閃石少量 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、灰白7.5Y8/1	
425	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①14.6 ②2.9	外面:ナデ・回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm角閃石ごく少量 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、灰白7.5Y8/1	
426	須恵器	杯蓋	1号窯 灰原下層	①15.8 ②2.8 ⑤つまみ径3.2	外面:ナデ・回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ・重ね焼き痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰5PB6/1 内、灰白N7/	重ね焼き痕有
427	須恵器	杯	1号窯 灰原下層	①(11.3) ②3.0	外面:回転ナデ・カキ目状圧痕 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰白N7/	
428	須恵器	杯身	1号窯 灰原下層	①(10.2) ②4.1 ③6.7	外面:回転ナデ・ヘラケズリ・回転ヨコナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英ごく少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
429	須恵器	杯身	1号窯 灰原下層	①12.8 ②4.5 ③7.9	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 灰白7.5Y8/1	付着物有
430	須恵器	杯身	1号窯 灰原下層	①(13.6) ②4.6 ③9.3	外面:回転ナデ・回転ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰N6/	
431	須恵器	杯身	1号窯 灰原下層	①14.3 ②5.5 ③9.6	外面:回転ナデ・ヨコナデ・ナデ 内面:回転ヨコナデ・ヘラ状工具によるナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:内外、灰白5Y7/1	
432	須恵器	杯身	1号窯 灰原下層	①(14.0) ②(3.35)	外面:回転ナデ・剥離 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰白N7/	
433	須恵器	杯身	1号窯 灰原下層	②(3.2) ③9.6	外面:回転ナデ・ナデ・ヘラ切り後ナデ・一部不定方向のケズリ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm以下白色粒子・3mm以下黑色粒子多量 B:良好 C:外、灰白N6/ 内、灰白N7/	
434	須恵器	杯身	1号窯 灰原下層	②(3.2) ③8.8	外面:回転ナデ・ヨコナデ・ヘラ切り・ヘラ記号 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 2mm石英・1mm白色粒子・3mm黑色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	ヘラ記号有
435	須恵器	高杯	1号窯 灰原下層	①(12.0) ②(6.3)	外面:降灰のため調整不明 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm角閃石・1mm長石・2mm石英・1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	
436	須恵器	高杯	1号窯 灰原下層	②(5.0) ③7.9	外面:回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm角閃石・1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、褐灰10YR6/1	
437	須恵器	高杯	1号窯 灰原下層	②(4.9) ③8.1	外面:回転ナデ 内面:絞り痕・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、にぶい黄褐10YR5/3 内、黄灰2.5Y5/1	
438	須恵器	高杯	1号窯 灰原下層	②(3.1) ②(14.5)	外面:ナデ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子 B:良好 C:内外、灰N4/	
439	須恵器	壺/横瓶	1号窯 灰原下層	①(8.6) ②(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子 B:良好 C:外、灰N7/ 内、灰N6/	口縁部のみ
440	須恵器	鉢	1号窯 灰原下層	①12.0 ②(8.8)	外面:回転ナデ・沈線2条・ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、青灰10BG5/1 内、青灰10BG6/1	
441	須恵器	鉢	1号窯 灰原下層	①(18.4) ②(7.4)	外面:回転ナデ・ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、青灰5PB6/1 内、青灰5B5/1	
442	須恵器	壺	1号窯 灰原下層	②(3.2) ③14.1	外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ・降灰 内面:回転ナデ・降灰	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:内外、青灰5B5/1	
443	須恵器	壺	1号窯 灰原下層	①15.5 ②(22.0)	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子・1mm赤色粒子少量 B:不良 C:内外、黄橙7.5YR8/8	
444	須恵器	甕	1号窯 灰原下層	②(7.7)	外面:回転ナデ・沈線2条 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	
445	須恵器	甕	1号窯 灰原下層	①(22.6) ②(10.6)	外面:回転ナデ・疑格タタキ 内面:回転ナデ・当て具痕後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、オリーブ灰2.5GY6/1 内、赤褐10YR6/6	
446	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①13.5 ②2.2	外面:回転ナデ・ヘラ切り後未調整 内面:回転ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:不良 C:外、黄褐7.5YR7/8 内、橙7.5YR7/6	
447	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①13.0 ②2.3	外面:回転ナデ・ヘラ切り後棒状工具によるナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英・1mm長石少量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/4 内、にぶい橙7.5YR6/4	
448	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①14.2 ②2.8	外面:ヘラ切り・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰黄褐10YR6/2 内、灰黄褐10YR5/2	
449	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①15.4 ②2.4	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子やや多量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/4 内、灰褐7.5YR5/2	
450	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①(13.7) ②1.9 ⑤つまみ径2.7	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・横方向のハケ状ケズリ	A:精良 2mm石英・1mm白色粒子・1mm黑色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N5/	
451	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①(14.3) ②2.6 ⑤つまみ径2.7	外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm黑色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰褐7.5YR6/2 内、にぶい褐7.5YR6/3	
452	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①15.7 ②1.1 ⑤つまみ径3.3	外面:回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子・小石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径	⑤残存・その他 ※(復元)(残存)			
453	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①15.2 ②2.2 ⑤つまみ径2.3		外面:ナデ・回転ヘラ切り後板状工具による不定方向のナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、灰黄色2.5Y7/2	
454	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①15.7 ②1.9 ⑤つまみ径1.9		外面:ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:ナデ・回転ナデ	A:精良 3mm石英少量 B:良好 C:外、灰N7/ 内、灰白7.5Y7/1	
455	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①(16.5) ②3.1 ⑤つまみ径(2.8)		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ・ナデ・工具ナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm赤色粒子少量 B:良好 C:外、浅黄橙7.5YR8/4 内、浅黄橙10YR8/4	
456	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①19.8 ②2.4 ⑤つまみ径2.4		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、灰白5Y8/2	
457	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①14.5 ②1.5 ⑤つまみ径2.8		外面:ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰N4/	
458	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①14.5 ②1.2 ⑤つまみ径2.9		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	
459	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①16.0 ②2.7 ⑤つまみ径2.6		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y7/1	
460	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①(15.5) ②2.8 ⑤つまみ径2.8		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm石英・1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、灰白5Y8/1 内、灰濁10YR8/2	
461	須恵器	杯蓋	3号窯 窯体内埋土	①19.1 ②3.5 ⑤つまみ径2.2		外面:ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子中量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰黄色2.5Y7/2	
462	須恵器	杯	3号窯 窯体内埋土	①12.0 ②4.1 ③9.2		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm赤色粒子・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、橙7.5YR8/6	
463	須恵器	杯	3号窯 窯体内埋土	①12.2 ②3.8 ③9.0		外面:回転ナデ・ヘラ切り後未調整 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英・1mm赤色粒子中量 B:不良 C:外、橙7.5YR7/8 内、橙5YR6/8	
464	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	②(1.8) ③8.7		外面:回転ナデ・高台貼付・回転ヘラ切り・ヘラ記号 内面:回転ナデ・潤滑	A:精良 B:良好 C:外、暗青灰10BG3/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号有
465	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	②(2.5) ③(9.2)		外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ切り 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR6/1 内、黒褐2.5Y3/1	
466	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	②(2.2) ③7.9		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラキリ後ナデ・工具痕 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm黒色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	
467	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	②(2.6) ③(9.2)		外面:回転ナデ・高台貼付のナデ・回転ヘラ切り後ヘラ記号 内面:回転ナデ・不定方向のナデ	A:精良 B:良好 C:外、青灰5PB6/1~灰N5/ 内、青灰5PB6/1	ヘラ記号有
468	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	①13.0 ②4.3 ③9.5		外面:回転ナデ・高台貼付・ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y7/1	
469	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	①(13.2) ②4.0 ③(9.7)		外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、灰白2.5Y7/1	
470	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	①(13.4) ②4.6 ③9.3		外面:回転ナデ・高台貼付のナデ・回転ヘラ切り 内面:回転ナデ・一定方向のナデ	A:精良 B:良好 C:外、青灰5PB5/1 内、灰10Y5/1	
471	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	①(13.8) ②4.1 ③9.5		外面:回転ナデ・高台貼付・ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子中量 B:不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰白2.5Y8/1	
472	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	①14.2 ②4.4 ③10.1		外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ切り 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm石英・1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、橙5YR7/6	
473	須恵器	杯身	3号窯 窯体内埋土	①(12.3) ②4.3 ③(7.8)		外面:回転ナデ(摩滅)・ナデ 内面:回転ナデ(摩滅)・ナデ	A:精良 1mm白色粒子・1mm黒色粒子・1mm小石少量 B:不良 C:内外、灰白2.5Y8/2	
474	須恵器	皿	3号窯 窯体内埋土	①19.2 ②2.2 ③1.9		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子やや多量 B:やや不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰黄2.5Y7/2	
475	須恵器	高杯	3号窯 窯体内埋土	②(4.3) ③(6.8)		外面:回転ナデ・降灰 内面:ナデ・回転ナデ・絞り痕後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、青黒10BG1.7/1 内、青灰10BG6/1	
476	須恵器	長頸壺	3号窯 窯体内埋土	②(12.7) ⑤頸部径7.0		外面:絞り痕・回転ナデ後ナデ 内面:強い回転ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリーブ黒10Y3/1 内、灰N6/	
477	須恵器	長頸壺	3号窯 窯体内埋土	①(13.2) ②(13.8)		外面:回転ナデ・二重沈線・シボリ痕・ナデ・一部降灰 内面:回転ナデ・シボリ痕・降灰	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/~黒N1.5/ 内、灰N5/	
478	須恵器	長頸壺	3号窯 窯体内埋土	①(13.7) ②(5.6)		外面:回転ナデ・黒化 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N4/	
479	須恵器	長頸壺	3号窯 窯体内埋土	②(12.1)		外面:回転ナデ・絞り痕・沈線2条 内面:回転ナデ・絞り痕・降灰	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、暗青灰10BG4/1	
480	須恵器	長頸壺	3号窯 窯体内埋土	②(9.1)		外面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰10Y4/1	
481	須恵器	長頸壺	3号窯 窯体内埋土	②(9.0)		外面:回転ナデ・回転ヘラケズリ・降灰 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子中量 B:良好 C:内外、灰N4/	
482	須恵器	甌	3号窯 窯体内埋土	①(12.0) ②(8.1)		外面:回転ナデ・沈線状凸線・回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石・白色粒子・石英少量 B:良好 C:外、青灰5B5/1 内、緑灰10G5/1	
483	土師器	杯	3号窯 窯体内埋土	①12.2 ②3.7 ③9.7		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm赤色粒子・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、橙5YR7/6	底部に黒色残る
484	土師器	杯	3号窯 窯体内埋土	①12.3 ②3.7 ③7.9		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm長石・1mm石英・1mm赤色粒子・1mm白色粒子少量 B:不良 C:内外、橙7.5YR7/6	
485	土師器	杯	3号窯 窯体内埋土	①12.6 ②3.8 ③9.1		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm赤色粒子・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、橙5YR7/6	底部に黒色残る
486	土師器	杯	3号窯 窯体内埋土	①12.6 ②3.6 ③9.7		外面:回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石・1mm赤色粒子・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、橙5YR7/6	底部に黒色残る
487	須恵器	杯身	3号窯 灰原	①14.2 ②4.3 ③9.6		外面:回転ナデ・高台貼付時ヨコナデ・ヘラ切り 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:内外、灰白10Y7/1	
488	須恵器	長頸壺	3号窯 灰原	①12.8 ②(11.2)		外面:回転ナデ・絞り痕・沈線2条 内面:回転ナデ・絞り痕	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、暗青灰10BG4/1	
489	須恵器	杯蓋	4号窯 遺構検出時	①15.5 ②3.4		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・工具による回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰白N7/	
490	須恵器	杯身	4号窯 遺構検出時	①(13.0) ②3.15		外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:内外、灰N6/	
491	須恵器	杯身	4号窯 遺構検出時	①(14.6) ②10.0 ③4.3		外面:回転ナデ・高台貼付・ヘラ記号 内面:回転ナデ・ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 1mm長石微量 B:良好 C:内外、灰7.5Y6/1	ヘラ記号有

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底形④最大径 ⑤残存・その他 ※(復元) (残存)				
492	須恵器	長頸壺	4号窯 遺構検出時	①(13.4) ②(4.1)		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白N7/ 内、灰N4/	
493	須恵器	杯蓋	4号窯 窯体内埋土	①(12.6) ②1.8 ⑤受部径(15.2)		外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ・貼付痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰6/N~灰5/N 内、灰6/N	
494	須恵器	杯蓋	4号窯 窯体内埋土	①(13.6) ②2.6 ⑤受部径(15.3) つ まみ径3.0		外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英多量 B:良好 C:外、灰黄褐10YR4/2 内、灰N6/	
495	須恵器	杯蓋	4号窯 窯体内埋土	①(16.0) ②1.3 ⑤つまみ径1.8		外面:回転ナデ・降灰 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、暗青灰5B3/1	
496	須恵器	杯身	4号窯 窯体内埋土	②(3.7) ③(9.2)		外面:回転ナデ・高台貼付・ナデ・ヘラ記号 内面:回転ナデ・回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰オリーブ5Y 6/2 内、灰10Y 5/1	付着物有
497	須恵器	皿	4号窯 窯体内埋土	①(18.6) ②2.0 ③(15.1)		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ・回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、緑灰5G6/1 内、緑灰10GY6/1	
498	須恵器	皿	4号窯 窯体内埋土	①(18.4) ②1.8 ③(15.6)		外面:ナデ・回転ナデ 内面:ヘラ切り後工具で雑にナデ・回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:内外、灰N5/	
499	須恵器	皿	4号窯 窯体内埋土	①(19.0) ②2.2 ③(16.5)		外面:回転ナデ後一定方向のナデ・回転ナデ 内面:板状圧痕・回転ヘラ切り後ナデ・回転ナデ	A:精良 B:やや不良 C:外、灰白N7/ 内、黄灰2.5Y6/1	
500	須恵器	皿	4号窯 窯体内埋土	①(19.2) ②1.4 ③(15.0)		外面:回転ナデ・回転ヘラ切り 内面:回転ナデ・不定方向のナデ	A:精良 B:やや不良 C:外、灰N7/ 内、灰10Y6/1	
501	須恵器	甌か	4号窯 窯体内埋土	②(11.1)		外面:強いナデ・ハケ目・格子目タタキ・把手の貼付痕 内面:縦方向のハケ目	A:精良 1mm長石・1mm白色粒子・1mm赤色粒子少量	

圖 版

(1) D地点0号窯跡～
4号窯跡全景
(北東から)



(2) D地点0-A号窯跡・
0-B号窯跡全景
(南から)



(3) D地点0-A号窯跡
全景(南から)



図版 2



(1) D地点O-A号窯跡
左側壁(北西から)



(2) D地点O-B号窯跡
全景(南から)



(3) D地点O-B号窯跡
右側壁(南東から)



(1) D地点O-B号窯跡
左側壁(南西から)



(2) D地点O-A号窯跡・
O-B号窯跡
検出状況(北から)



(3) D地点O-A号窯跡・
O-B号窯跡
検出状況

図版 4



(1) D地点1号窯跡
全景（北から）



(2) D地点1号窯跡
天井部遺存状況
（北から）



(3) D地点1号窯跡
煙道部（北から）

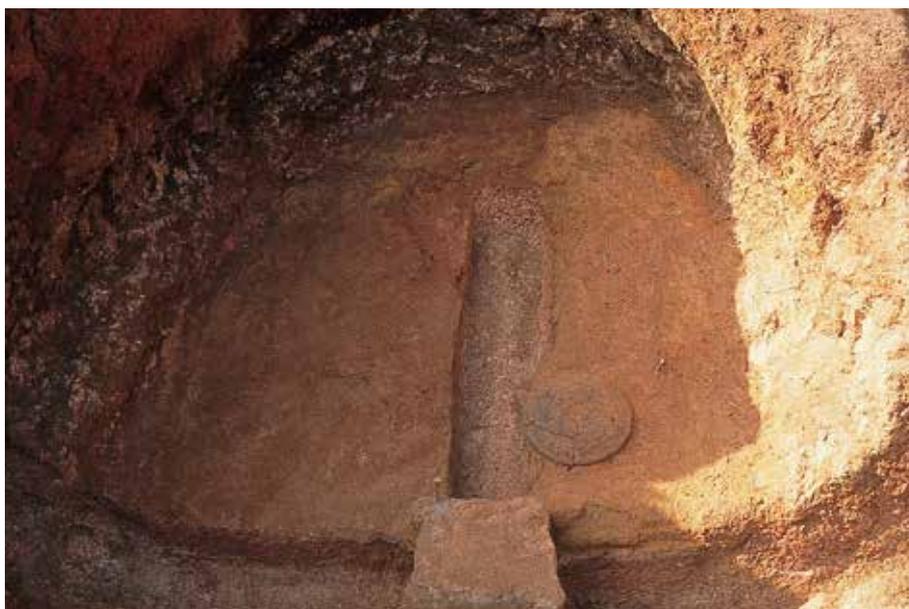
(1) D地点1号窯跡
煙道部(北西から)



(2) D地点1号窯跡
煙道部(東から)



(3) D地点1号窯跡
焼成部遺物出土状況
(北から)





(1) D地点1号窯跡
焼成部床面断ち割り
(北から)



(2) D地点1号窯跡
焼成部床面断ち割り
(北東から)



(3) D地点1号窯跡
左壁断ち割り
(北から)

(1) D地点 2号窯跡
検出状況 (東から)



(2) D地点 3号窯跡
検出状況 (東から)



(3) D地点 4号窯跡
検出状況 (東から)





(1) D地点5号窯跡
全景（北東から）



(2) D地点5号窯跡
焼成部遺物出土状況
（北東から）



(3) D地点5号窯跡
焚口部付近遺物
出土状況（北東から）

(1) D地点5号窯跡
煙道部(西から)



(2) D地点5号窯跡
左側壁断ち割り状況
(北から)



(3) D地点5号窯跡
右側壁断ち割り状況
(北東から)





(1) D地点5号窯跡
灰原土層(東から)



(2) D地点5号窯跡
P1(北東から)



(3) D地点5号窯跡
P2全景(北東から)

(1) D地点5号窯跡
P2遺物出土状況
(北東から)



(2) D地点5号窯跡
検出状況(北東から)



(3) D地点5号窯跡
作業風景(北東から)





(1) F地点全景（北東から）



(2) F地点全景（東から）



(1) F地点全景（東から）



(37) F地点全景（上空から：右が北）



(1) F地点1号窯跡
検出状況(東から)



(2) F地点1号窯跡
検出状況(西から)



(3) F地点2号窯跡
検出状況(北から)

(1) F地点3号窯跡
全景（東から）



(2) F地点3号窯跡
床面（東から）



(3) F地点3号窯跡
窯体内土層（東から）





(1) F地点3号窯跡
焚口側遺物出土状況
(南東から)



(2) F地点3号窯跡
遺物出土状況
(北東から)



(3) F地点3号窯跡
窯体断ち割り
(南東から)

(1) F地点3号窯跡
窯体断ち割り
(南東から)



(2) F地点3号窯跡
窯体断ち割り
(北東から)



(3) F地点3号窯跡
窯体断ち割り
(北東から)





(1) F地点4号窯跡
全景(東から)



(2) F地点4号窯跡
左側壁～天井部
(北東から)



(3) F地点4号窯跡
右側壁～天井部
(南東から)

(1) F地点4号窯跡
天井部～煙道部
(東から)



(2) F地点4号窯跡
左側壁～奥壁
(北東から)



(3) F地点4号窯跡
右側壁～奥壁
(南東から)

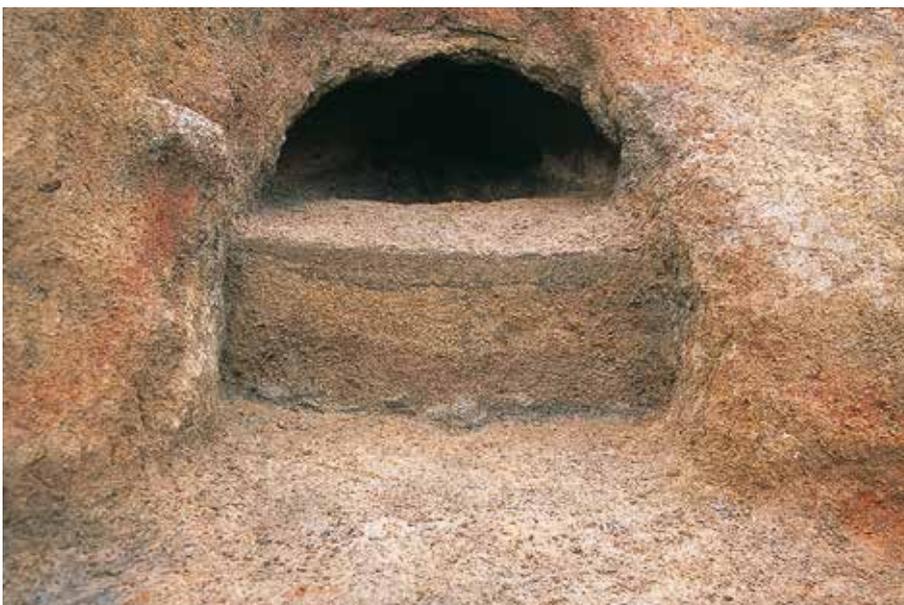




(1) F地点4号窯跡
断ち割り状況
(南東から)



(2) F地点4号窯跡
断ち割り(北東から)



(3) F地点4号窯跡
窯体内土層(東から)



D地点5号窑出土遺物集合①



D地点5号窑出土遺物集合②

图版 22



D地点杯盖集合



D地点杯·杯身集合



D地点・F地点土師器杯集合



F地点高杯集合

图版 24





图版 26

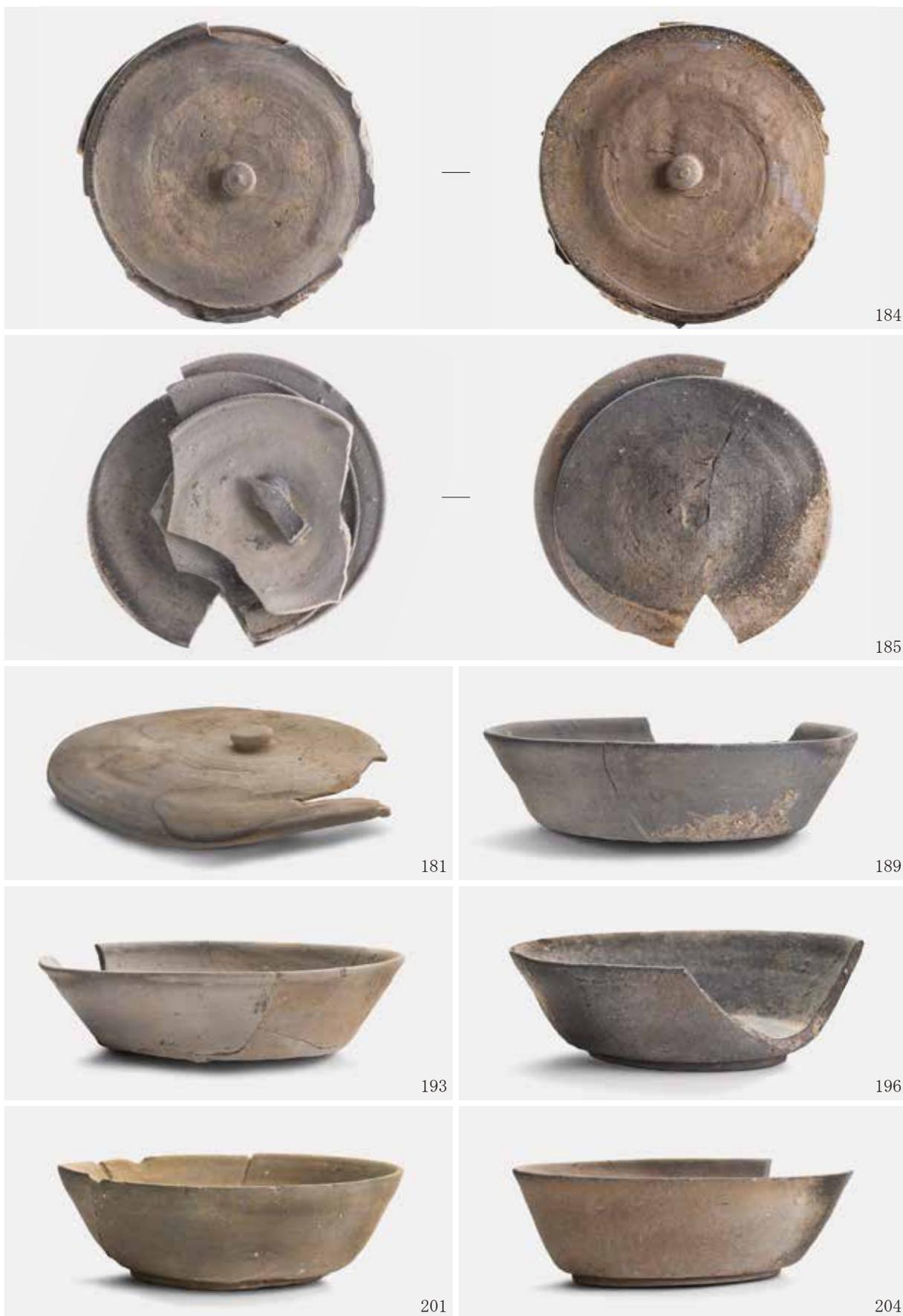




図版 28









图版 32





图版 34





318



319



321



323



325



326



328



330

图版 36







400



410



413



415



417



419



426



428



436



429



图版 40





報告書抄録

ふりがな	うしくびいしざかかまあとぐん3							
書名	牛頸石坂窯跡群3							
副書名	D・F地点							
巻次	3							
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第210集							
編著者名	上田龍児・山元瞭平－澤田康夫・柳本照男・深町祥子(編集)							
発行機関	大野城市							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092(501)2211							
発行年月日	2023年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしざかかまあとぐん 石坂窯跡群 ちてん D地点	ふくおかけんおおのじょうしおおあざうしくび 福岡県大野城市大字牛頸2352番5			33° 29' 28"	130° 27' 35"	1990. 5. 22 ～1990. 6. 12	890㎡	土砂採取 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
石坂窯跡群 D地点	生産遺跡	飛鳥時代 奈良時代	須恵器窯跡7基	須恵器	円面硯・円形硯・稜椀			
要約	調査地は牛頸窯跡群の一角にあたり、丘陵斜面に位置する。飛鳥～奈良時代の須恵器窯跡7基を確認し、パンケース45箱分の須恵器が出土した。このうち、5号窯では円面硯・円形硯や稜椀の生産が想定でき、注目される。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしざかかまあとぐん 石坂窯跡群 ちてん F地点	ふくおかけんおおのじょうしおおあざうしくび 福岡県大野城市大字牛頸2190番1 ほか			33° 29' 35"	130° 27' 45"	2005. 6. 9～ 2005. 8. 2	約350㎡	砂防ダム 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
石坂窯跡群 F地点	生産遺跡	飛鳥時代 奈良時代	須恵器窯跡4基	須恵器	中空硯・ヘラ書き須恵器「五」			
要約	調査地は牛頸窯跡群の一角にあたり、丘陵斜面に位置する。飛鳥～奈良時代の須恵器窯跡4基を確認し、パンケース12箱分の須恵器が出土した。このうち、1号窯では中空硯やヘラ書き須恵器「五」が出土した。							

大野城市文化財調査報告書 第210集

牛頸石坂窯跡群 3

—D・F地点—

令和5年3月31日

発行 大野城市
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 株式会社三光
福岡県福岡市博多区山王1-14-4